

KIYOTAKE KAMIINOHARU

清 武 上 猪 ノ 原 遺 跡

— 3 —

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会

KIYOTAKE KAMIINOHARU

清 武 上 猪 ノ 原 遺 跡

— 3 —

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会



遺跡遠景(北から)



遺跡全景(真上から)



埋納石斧(遺物番号295・296)

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成14・15年度事業区で実施した清武上猪ノ原遺跡（第3地区）の発掘調査報告書です。

清武上猪ノ原遺跡（第3地区）では、蒸し焼き料理施設である集石遺構や意図的に埋められた埋納石斧など、縄文時代早期の遺構や遺物が数多く発見されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、21世紀を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。また、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、原始の清武人の生活をより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

清武町教育委員会

教育長 神川 孝志

例　　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成14・15年度に実施された清武上猪ノ原遺跡（第3地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査における測量・実測については、井田篤、富田卓見及び実測補助員が行った。

（以上実測補助員） 若杉知和（宮崎大学） *50音順

3. 遺物・図面の整理及び報告書作成業務については、平成19年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した（概要報告書掲載分など一部については平成15年度に実施している）。

平成19年度 担 当：井田、秋成雅博、今村結記

整理作業員：

*50音順

平成15年度 担 当：井田、秋成、富田

整理作業員：

若杉知和 *50音順

4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田、富田が撮影し、報告書掲載遺物については井田、秋成が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。
5. 放射性炭素年代測定及び樹種同定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P94からP98に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正¹⁴C年代である。
6. 石器実測及びトレースについては、一部を民間業者（岡三リビック・埋蔵文化財サポートシステム）に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。
7. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版 標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。
8. 本書では、磁北と座標北の2種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみG.Nと表示している。）又、標高については海拔絶対高である。
9. 本書に使用した記号は次のとおりである。

S I : 集石遺構 S C : 土坑（炉穴、陥し穴状遺構も含む） S E : 溝状遺構 S G : 道路状遺構

10. 本書で使用した遺物番号については、次のとおりである。

第Ⅱ章 縄文時代早期包含層出土遺物No.1～311 遺構内出土遺物No.1～11

11. 本書で使用した土層番号については、第3図基本土層図の番号を使用している。
12. 本書の執筆と編集については井田、秋成、今村が担当し、文責については本文目次に記している。
13. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

挿図目次

第1図	遺跡位置図 (S=1/25000)	2
第2図	遺跡周辺地形図 (S=1/2000)	3
第3図	基本土層図 (S=1/30)	5
第4図	グリッド図及びカット図 (S=1/400)	7
第5図	縄文時代早期遺構配置図 (S=1/400)	10
第6図	縄文時代早期集石遺構実測図① (S=1/30)	13
第7図	縄文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30)	14
第8図	縄文時代早期集石遺構実測図③ (S=1/30)	15
第9図	縄文時代早期集石遺構実測図④ (S=1/30)	16
第10図	縄文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)	17
第11図	縄文時代早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30)	18
第12図	縄文時代早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30)	19
第13図	縄文時代早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)	20
第14図	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図① (S=1/30)	25
第15図	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図② (S=1/30)	26
第16図	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図③ (S=1/30)	27
第17図	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④ (S=1/30)	28
第18図	縄文時代早期土坑実測図 (S=1/30)	29
第19図	縄文時代早期遺構内出土遺物実測図 (土器:S=1/3 石器:S=1/2,2/3)	31
第20図	縄文時代早期遺物分布図 (S=1/600)	43
第21図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図【形式別】 (S=1/400)	46
第22図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)	47
第23図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)	48
第24図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)	49
第25図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)	50
第26図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)	51
第27図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)	52
第28図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)	53
第29図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)	54

第30図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【器種別】(S=1/400)	66
第31図	縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1/400)	67
第32図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)	68
第33図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)	69
第34図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)	70
第35図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)	71
第36図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)	72
第37図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)	73
第38図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)	74
第39図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)	75
第40図	SC-1 実測図 (S=1/30)	84
第41図	SC-2 実測図 (S=1/30)	84
第42図	SG-2 実測図【平面図】(S=1/50)	85
第43図	SG-2 実測図【土層断面図】(S=1/25)	86
第44図	遺構配置図【縄文時代早期以外】(S=1/400)	87
第45図	清武上猪ノ原遺跡（第3地区）チャート製石器の製作空間想定図 (S=1/600)	91

写真図版目次

卷頭カラー1	遺跡遠景（北から） 遺跡全景（真上から）	
卷頭カラー2	埋納石斧	
写真図版1	基本土層	5
写真図版2	様々な調査風景	8
写真図版3	縄文時代早期遺構①	32
写真図版4	縄文時代早期遺構②	33
写真図版5	縄文時代早期遺構③	34
写真図版6	縄文時代早期遺構④	35
写真図版7	縄文時代早期遺構⑤	36
写真図版8	縄文時代早期遺構⑥	37
写真図版9	縄文時代早期遺構⑦	38
写真図版10	縄文時代早期遺構⑧	39

写真図版11	縄文時代早期遺構⑨	40
写真図版12	縄文時代早期遺構⑩	41
写真図版13	遺構内出土遺物	42
写真図版14	縄文時代早期遺物包含層出土土器①	58
写真図版15	縄文時代早期遺物包含層出土土器②	59
写真図版16	縄文時代早期遺物包含層出土土器③	60
写真図版17	縄文時代早期遺物包含層出土土器④	61
写真図版18	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤	62
写真図版19	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥	63
写真図版20	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦	64
写真図版21	縄文時代早期遺物包含層出土石器①	78
写真図版22	縄文時代早期遺物包含層出土石器②	79
写真図版23	縄文時代早期遺物包含層出土石器③	80
写真図版24	縄文時代早期遺物包含層出土石器④	81
写真図版25	縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤	82
写真図版26	SE-1・SG-2	88
写真図版27	SG-2	89
写真図版28	SG-2・SC-1	90

表 目 次

第 1 表	近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分）	4
第 2 表	集石遺構観察表	21~23
第 3 表	陥し穴状遺構観察表	24
第 4 表	遺構内出土土器観察表	30
第 5 表	遺構内出土石器計測分類表	30
第 6 表	縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表	55~57
第 7 表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表	75~77

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と調査組織

1. 調査に至る経緯

平成7年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、事業区に清武上猪ノ原遺跡（第3地区）の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成14年度（平成14年11月21日～平成15年3月27日）、15年度（平成15年4月7日～平成15年9月19日）の2ヶ年度にわたって行われ、調査面積については2,000m²であった。

2. 調査組織

調査主体 清武町教育委員会

調査（平成14・15年度）

事務局

教育長	湯地 敏郎
教育次長	小城 員久
社会教育課長	松元 一夫
△ 係長	伊東 但

調査員

社会教育課主事	井田 篤
△ 嘱託職員	富田 卓見

整理作業（平成19年度）

事務局

教育長	神川 孝志
教育次長	児玉 秀樹
生涯学習課長	長友 公春
△ 課長補佐	内藤 和弘
△ 係長	伊東 但

調査員

生涯学習課主任	井田 篤
△ 主事	秋成 雅博
△ 嘱託職員	今村 結記

第2節 遺跡の環境

1. 地理的環境

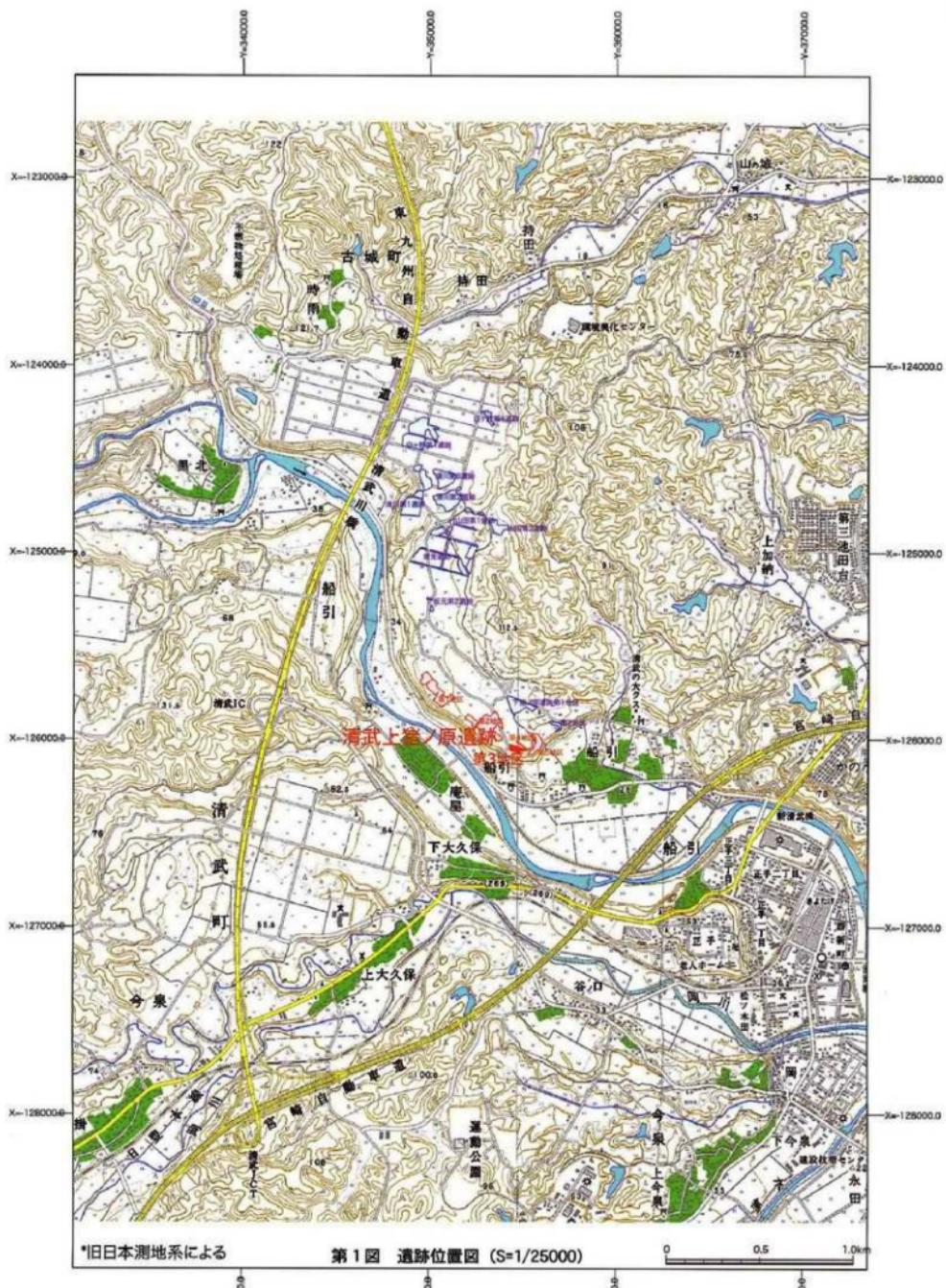
清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内には中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

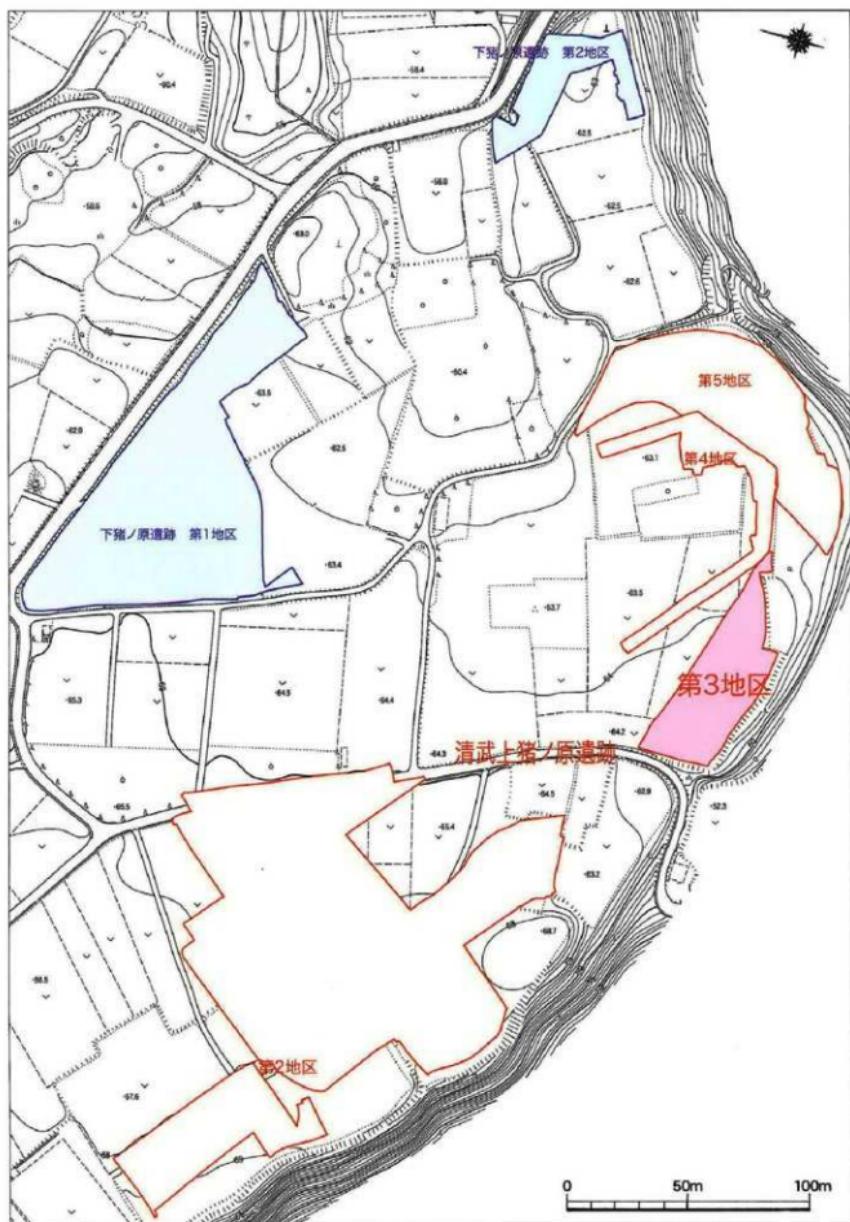
清武上猪ノ原遺跡（第3地区）は、町内西方の標高約63m～64mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四十万層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであったと考えられる。

2. 歴史的環境

清武上猪ノ原遺跡（第3地区）は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた「建久の図田帳」には、「船曳五十町、右宮崎郡内 弁済使法印、不知實名」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもつた莊園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀





第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2000)

吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて貯肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神樂”は、主に稻作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作持祭神樂であり、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3. 周辺遺跡

清武上猪ノ原遺跡（第3地区）が立地する台地上では、平成3年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次ぎ、それに伴う発掘調査も宮崎県教育委員会や当教育委員会によって数多く実施されている。

なかでも、当教育委員会によって実施された発掘調査については、次の第1表のとおりである。

第1表 近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会主体分）

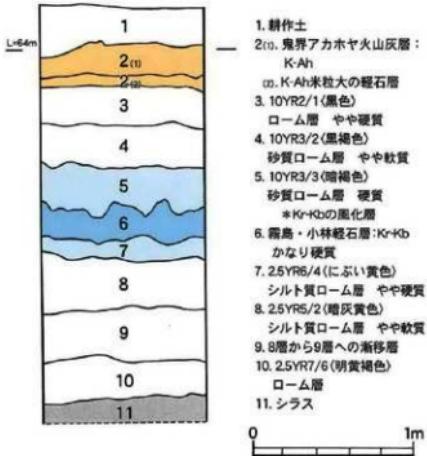
No	遺跡名	調査期間	面積(m ²)	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査担当者
1	白ヶ野第1遺跡	H7.11.22~H8.3.14	17,200	縄文時代（早期～前期）・古代	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	伊東但 井出篤
		H8.7.22~H8.12.28					
2	白ヶ野第4遺跡	H8.7.22~H8.11.10	1,900	縄文時代早期	集石遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤
3	滑川第1遺跡	H9.5.6~H10.3.31 H10.5.6~H11.13.31	17,620	縄文時代（早期～後期）・弥生・古墳・古代	集石遺構・炉穴・土坑・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器・須恵器	井田篤 (松原一哉)
4	滑川第2遺跡	H9.8.1~H10.3.31 H10.5.6~H11.13.31	10,420	縄文時代・弥生・古墳・古代	旧石器・縄文・弥生・古墳	石器・縄文式土器・弥生式土器・土師器	井田篤 (松原一哉)
5	滑川第3遺跡	H9.8.1~H10.3.31	6,940	縄文時代・弥生	旧石器・縄文・弥生	石器・縄文式土器・弥生式土器	井出篤
6	山田第1遺跡	H11.4.28~H12.3.30 H12.7.10~H12.8.4	7,700	縄文・弥生・古墳	集石遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器・弥生式土器	井田篤 (松原一哉)
7	山田第2遺跡	H11.4.28~H12.3.30	4,300	縄文・弥生・古代	集石遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器	井田篤 (松原一哉)
8	坂元遺跡	H12.4.25~H12.12.18	9,000	旧石器・縄文	集石遺構・炉穴・竪穴式住居跡	石器・縄文式土器	井田篤 (松原一哉) (安澤哲文)
9	坂元第2遺跡	H16.7.2~H17.1.11	530	旧石器・縄文・中世	溝状遺構	縄文式土器・石器	井田篤 (若杉知和)
10	清武上猪ノ原遺跡（第1地区）	H12.12.11~H13.11.16	14,000	縄文（草創期・早期）・弥生・古墳	集石遺構・炉穴・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡	縄文式土器・石器	井田篤 秋成雅博 (畠田卓見)
11	清武上猪ノ原遺跡（第2地区）	H13.10.23~H14.12.29	15,200	旧石器・縄文・中世	集石遺構・炉穴・溝状遺構・土坑	縄文式土器・石器	井田篤 秋成雅博 (畠田卓見)
12	清武上猪ノ原遺跡（第4地区）	H15.9.22~H16.7.23	1,300	旧石器・縄文・中世	掘立柱建物跡・集石遺構・竪穴式住居跡	縄文式土器・石器	井田篤 (畠田卓見) (若杉知和)
13	清武上猪ノ原遺跡（第5地区）				H17.7.26~現在調査実施中		
14	下猪ノ原遺跡（第1地区）	H14.12.9~H15.12.24	7,000	旧石器・縄文・弥生・中世	縄群・集石遺構・炉穴・溝状遺構・土坑墓	石器・石製品・縄文式土器	秋成雅博
15	下猪ノ原遺跡（第2地区）	H16.4.26~H17.2.17	1,200	縄文・弥生・中世	集石遺構・炉穴・竪穴式住居跡	縄文式土器・石器	秋成雅博 (草野美香)
16	五反畠遺跡				H19.6.1~現在調査実施中		

第3節 基本土層

土層の堆積状況については、当台地上の他の遺跡とほぼ同様で、詳細は次の写真図版1及び第3図のとおりである。調査の鍵となる層はアカホヤ火山灰層と霧島・小林輕石層で、それぞれの上面では遺構の検出作業を行った。また、3・4層については、縄文時代早期の遺物の包含層であり、なおかつ集石遺構や土坑等の検出層でもあった。



写真図版1
清武上猪ノ原遺跡(第3地区) 基本土層



第3図 基本土層図 (S=1/30)

第4節 調査の経過と方法

1. 調査の経過

当調査区は、シラス台地の縁辺部に位置しており、元々は調査区の北東から南西にかけて緩やかに高くなる（崖際に向かってのぼっている）傾斜地であった。その緩やかな傾斜地を、昭和20年代に行った畑の造成の際にはほぼ平らな地形にしていたため、表土下位はすでに各層が露出している状況であった（第4図参照）。

調査はまず、アカホヤ火山灰層上面での遺構の検出作業から行った。擾乱されている範囲も含めて丁寧に精査したものの、ピットが幾つか確認されただけで掘立柱建物跡や構跡といった類のものは検出されなかった。

アカホヤ火山灰層降下後に構築されたであろう遺構の記録作業が全て終了した後、アカホヤ火山灰層を重機により除去、そして当遺跡で最も密度の濃い文化層ともいえる縄文時代早期遺物包含層の掘り下げ作業を取り掛かった。この縄文時代早期の遺物包含層では、3層中位から4層下位にかけて集石遺構や炉穴が検出されるケースが多いため、包含層を薄く剥いでいく意識を徹底させながら掘り下げ作業を行い、加えて隨時遺構の検出作業も行った。結果、この包含層では集石遺構や土坑そして陥し穴状遺構が検出され、遺物の取り上げ作業と並行して遺構の記録作業も行った。

縄文時代早期の文化層についての調査終了後、旧石器時代の文化層確認のため尾根部（旧地形における）でトレチ調査を行った。そこでは石器や礫群が検出されたため、取り上げ作業及び記録作業を実施、その終了をもって当調査区における全ての業務を完了した。

2. 調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり兼で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。

写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

3. 調査日誌抄

H14.11.21 重機による表土剥ぎ取り作業開始

H14.11.27 旧地形復元のため、各層の露出状況を記録する（～12.02）
表土剥ぎ取り直後のコンタ図作成（～11.28）

H14.12. 9 アカホヤ火山灰層上面における遺構の検出作業実施（～12.10）
ケーブル攪乱範囲のチェック（ ケーブル ）
アカホヤ火山灰層の除去 → 遺構が検出されない範囲から順に実施（～12.10）

H14.12.11 S E - 1、S G - 2 の記録作業開始（～H13.1.24）
アカホヤ火山灰層直下のコンタ図作成
縄文時代早期遺物包含層である3層の掘り下げ作業開始（～H15.1.23）

H15. 1.23 縄文時代早期遺物包含層である4層の掘り下げ作業開始（～H15.9.4）

H15. 1.24 縄文時代早期の遺構の記録作業開始（～H15.9.17）

H15. 4.22 縄文時代草創期の遺物包含層である5層の掘り下げ作業開始（～H15.9.4）
* 遺物・遺構ともに確認されず

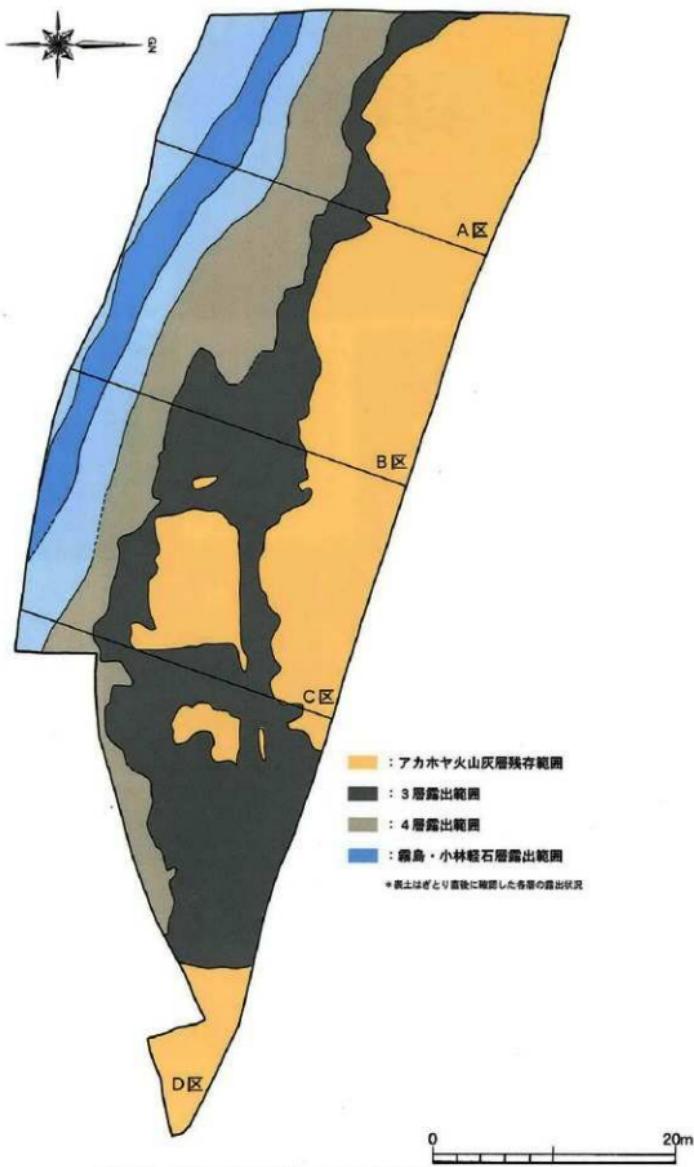
H15. 5.20 基本土層の確認

H15. 7.16 旧石器時代文化層確認のためのトレンチ調査開始（～H15.9.19）

H15. 8. 2 町内小学生を対象とした体験講座を実施

H15. 9.18 遺跡の遠景及び全景の撮影（スカイサーベイによる）

H19. 9.19 調査完了



第4図 グリッド図及びカット図 (S=1/400)



表土剥ぎ取り直後（北東から）



作業風景



縄文時代早期遺物包含層 確出土状況

写真図版2 様々な調査風景

第Ⅱ章 繩文時代早期についての調査

第1節 遺構

当遺跡において確認された縄文時代早期の遺構は、集石遺構が56基、陥し穴状遺構が7基、土坑が5基であった。検出された層位は、ほとんどの遺構が3層中位から4層下位にかけてであり、遺構による検出面の違いはあまり感じられなかった。尚、作図については、調査期間などの諸条件を考慮して、「平面図」+「片断面見通し図」という内容で作成した。

1. 集石遺構

集石遺構は計56基確認され、その検出状況は次のとおりである。

- ① 3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、焼砾が数10m²の範囲に集中して出土する範囲が2ヶ所〔A 碾群、B 碾群〕確認された（第5図参照）。その集中範囲を砾の分布状況を確認しながら丁寧に精査した結果、多数の集石遺構が検出された。
- ② 3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、焼砾が幾つか集中する範囲が確認され、丁寧に精査した結果集石遺構であることが確認された。
- ③ 3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、黒いシミが円形に広がる範囲が確認され、その黒い部分を丁寧に精査した結果集石遺構であることが確認された。

SI-38：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、砾集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を多く含んでいた。

SI-39：4層中位で検出された。平面が梢円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI-40：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI-41：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、砾集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を多く含んでいた。

SI-42：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

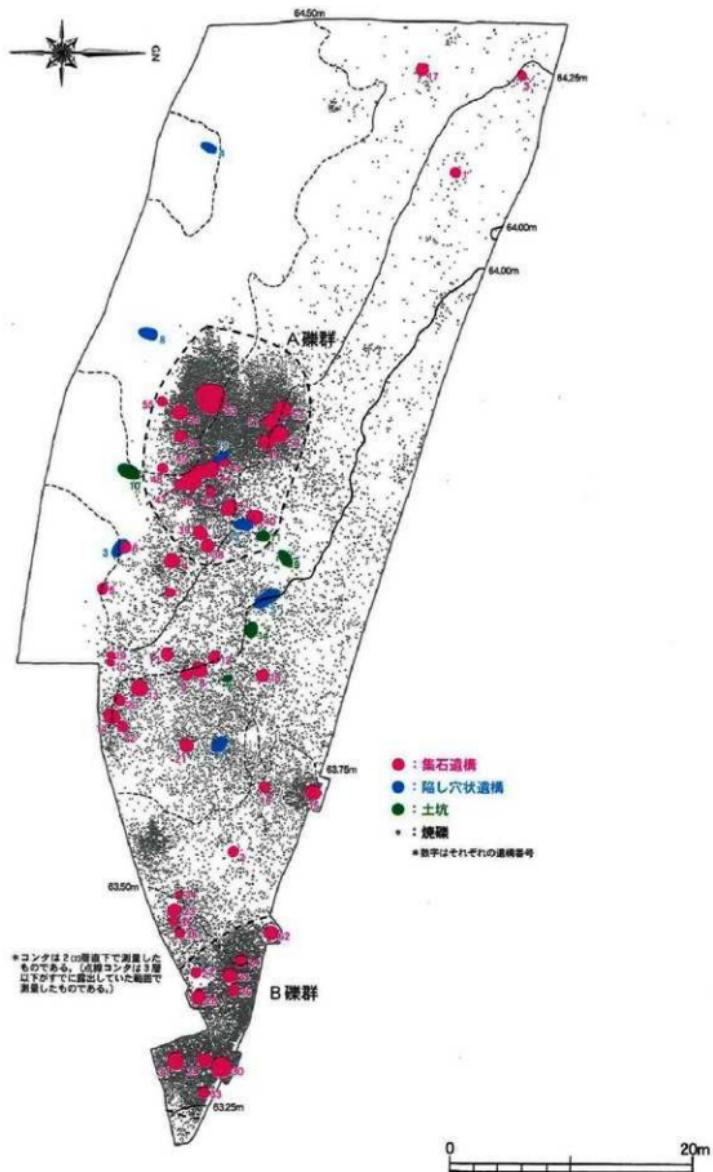
SI-43：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

SI-44：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。また、砾集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

SI-45：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾が多く（一部亜円砾も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、砾集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8620±40年BP》が得られている。

SI-46：4層上位で検出された。平面が円形で断面がボウル状（V字状に近い）の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾が多く（一部亜円砾も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、掘り込み底部には平らな砾を配置していた。また、砾集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8300±40年BP》が得られている。

SI-47：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用砾は角砾や亜角砾がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、砾集中範囲付近の掘り込み上位には炭化粒を含んでいた。



第5図 繩文時代早期遺構配置図 (S=1/400)

- SI-48：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。
- SI-49：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。
- SI-50：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密であった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8620±50年BP》が得られている。
- SI-51：4層中位で検出された。平面が不整形な楕円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。2基の集石遺構が切り合っている可能性も否定できないが、礫の集中状況からみて今回は1基の集石遺構として判断した。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。
- SI-52：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった（片側に集中）。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。
- SI-53：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密で、また、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8650±50年BP》が得られている。
- SI-54：土層確認のために残されたベルトに、遺構の一部がかかる状態で検出された。ベルト断面を利用し、掘り込み面の確認作業を実施したが、断定できるだけの明確なラインは確認出来なかつた（おそらく3層下位あたりから掘り込んでいるものと思われる）。掘り込みについては平面が円形で断面が皿状のものを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8630±50年BP》が得られている。
- SI-55：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-60：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。
- SI-61：円形に礫が集中する範囲が4層中位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。
- SI-23：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-34：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。
- SI-35：4層中位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。
- SI-36：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。
- SI-24：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについては確認されていない。
- SI-25：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫が多く（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況は密で、掘り込み底部には平らな礫を配置していた。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8610±40年BP》が得られている。
- SI-26：円形に礫が集中する範囲が4層上位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに

については確認されていない。

SI-27：円形に疊が集中する範囲が4層上位で検出された。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みについて確認されていない。

SI-28：4層上位で検出された。平面が円形で断面がボウル状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊が多く（一部亜円疊や円疊も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はかなり密であった。また、疊集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《 8720 ± 40 年BP》が得られている。

SI-29：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI-30：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊が多く（一部亜円疊も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな疊が配置してあった。疊集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《 8620 ± 40 年BP》が得られている。

SI-31：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊が多く（一部亜円疊も見られる）、掘り込みに対しての充填状況はやや密で、掘り込み底部には平らな疊が配置してあった。また、疊集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《 8610 ± 40 年BP》が得られている。

SI-33：円形に疊が集中する範囲が4層上位で検出された。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みについて確認されていない。

SI-62：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI-3：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや疎らであった。

SI-17：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。

SI-1：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI-6：4層中位でSC-3と切り合う状態で検出された（よって約1/2が残存）。平面が円形で断面が皿状（ややボウル状気味）の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI-4：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状（ややボウル状気味）の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊が多く、掘り込みに対しての充填状況はやや密であった。また、疊集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒・炭化物を多く含んでおり、その中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《 8820 ± 40 年BP》が得られている。

SI-5：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

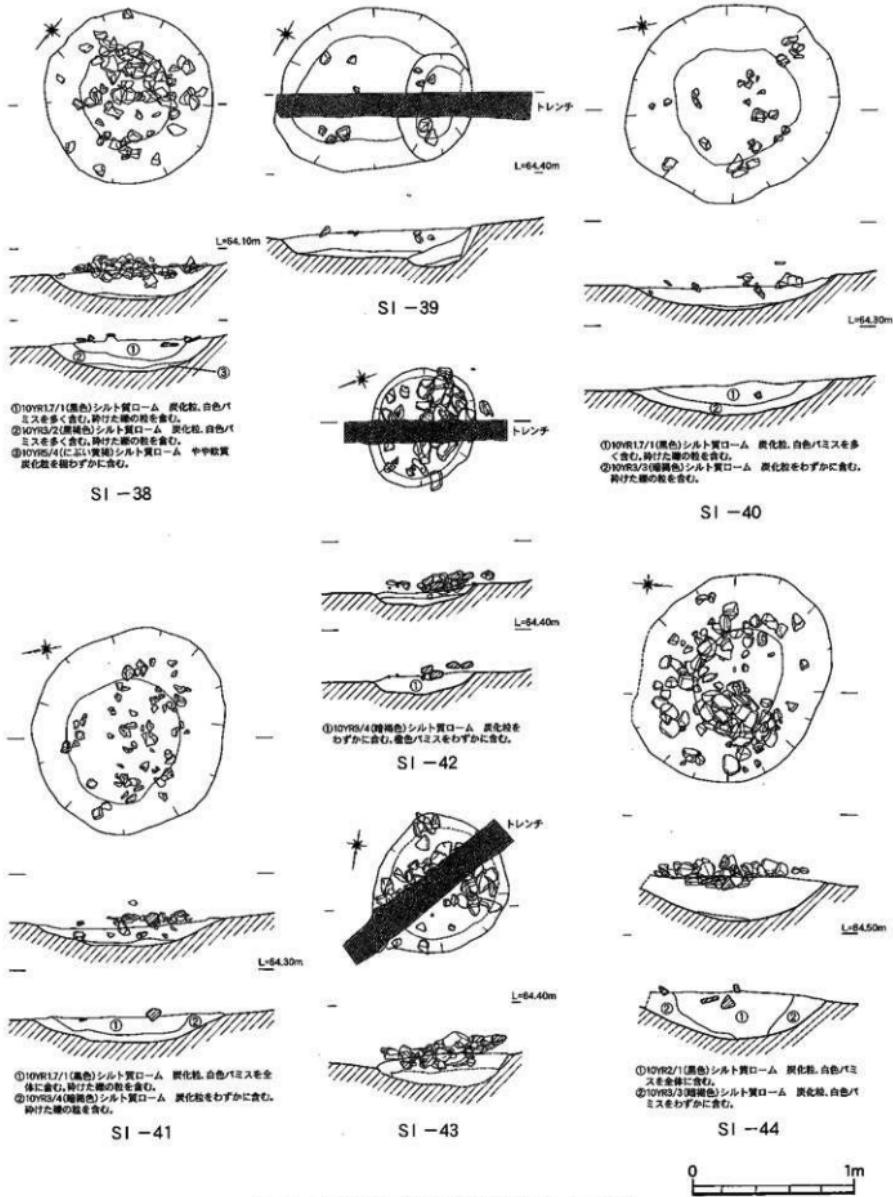
SI-7：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。

SI-8：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。また、疊集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。

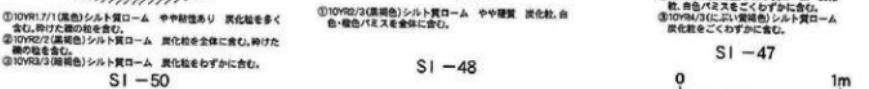
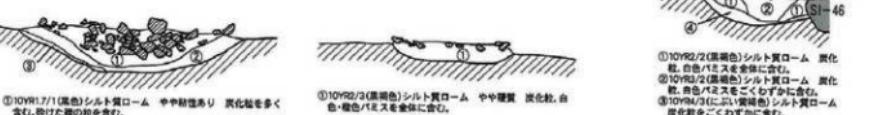
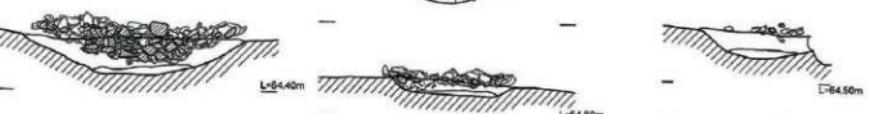
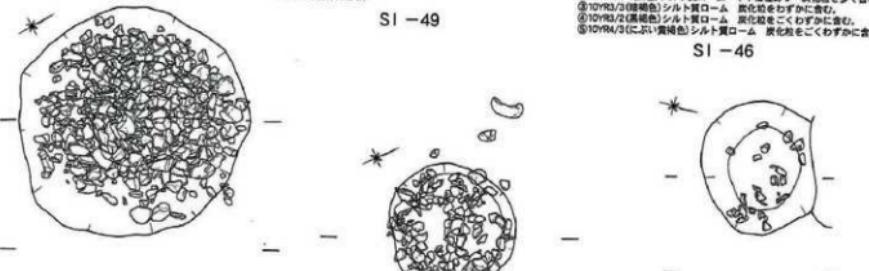
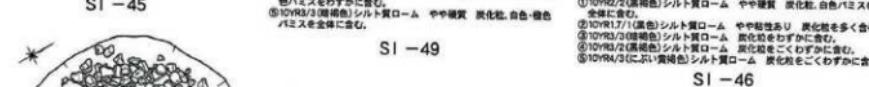
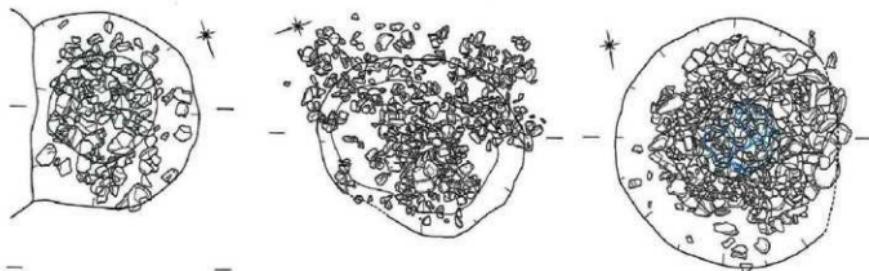
SI-9：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

SI-11：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。

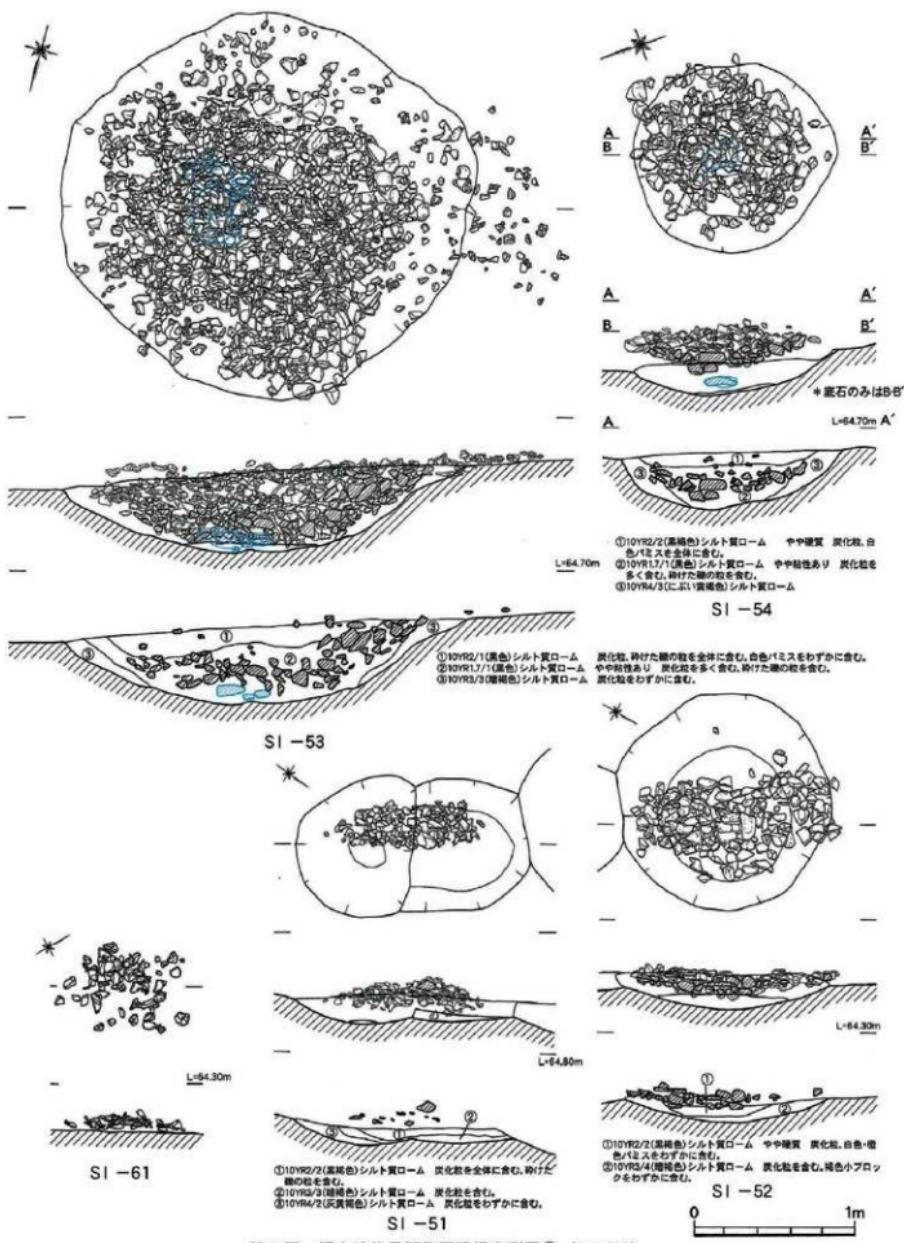
SI-12：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用疊は角疊や亜角疊がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は極めて疎らであった。



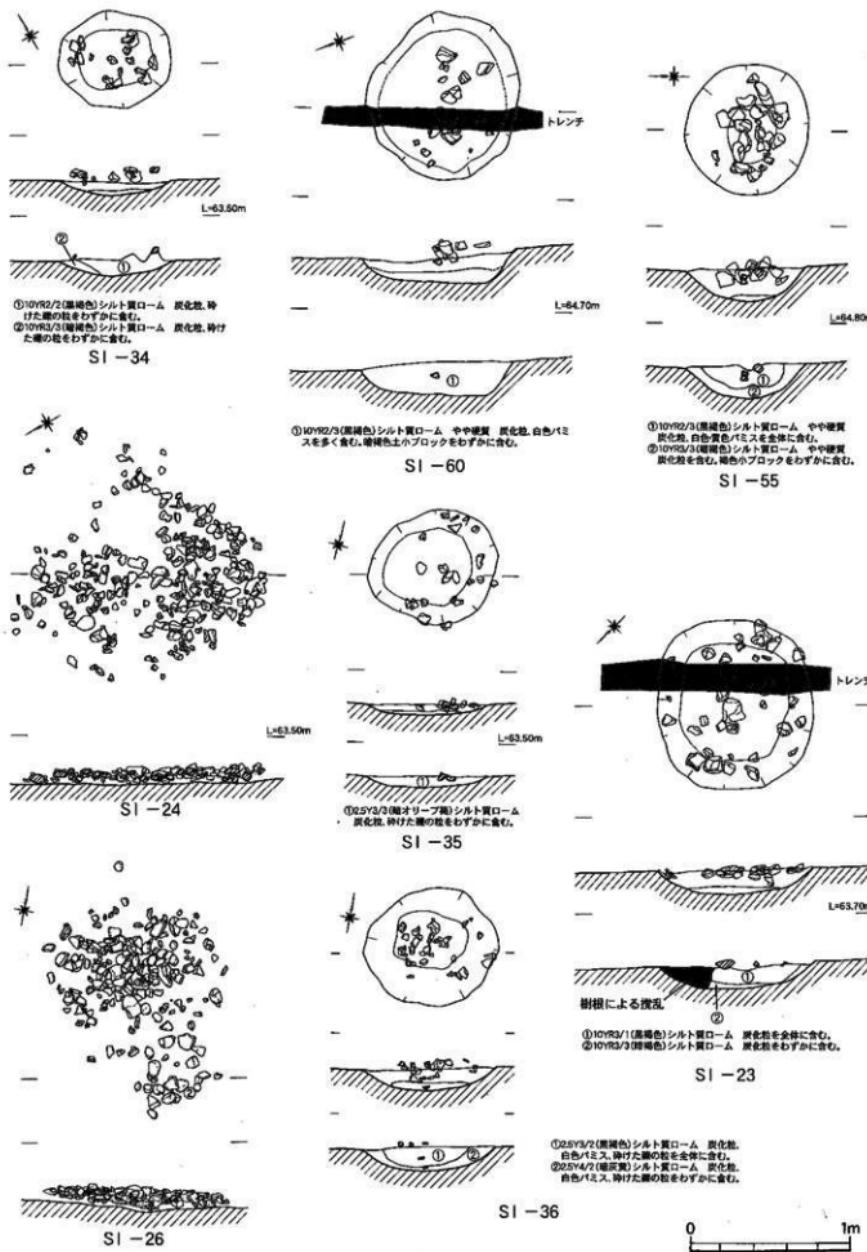
第6図 繩文時代早期集石造構実測図① (S=1/30)



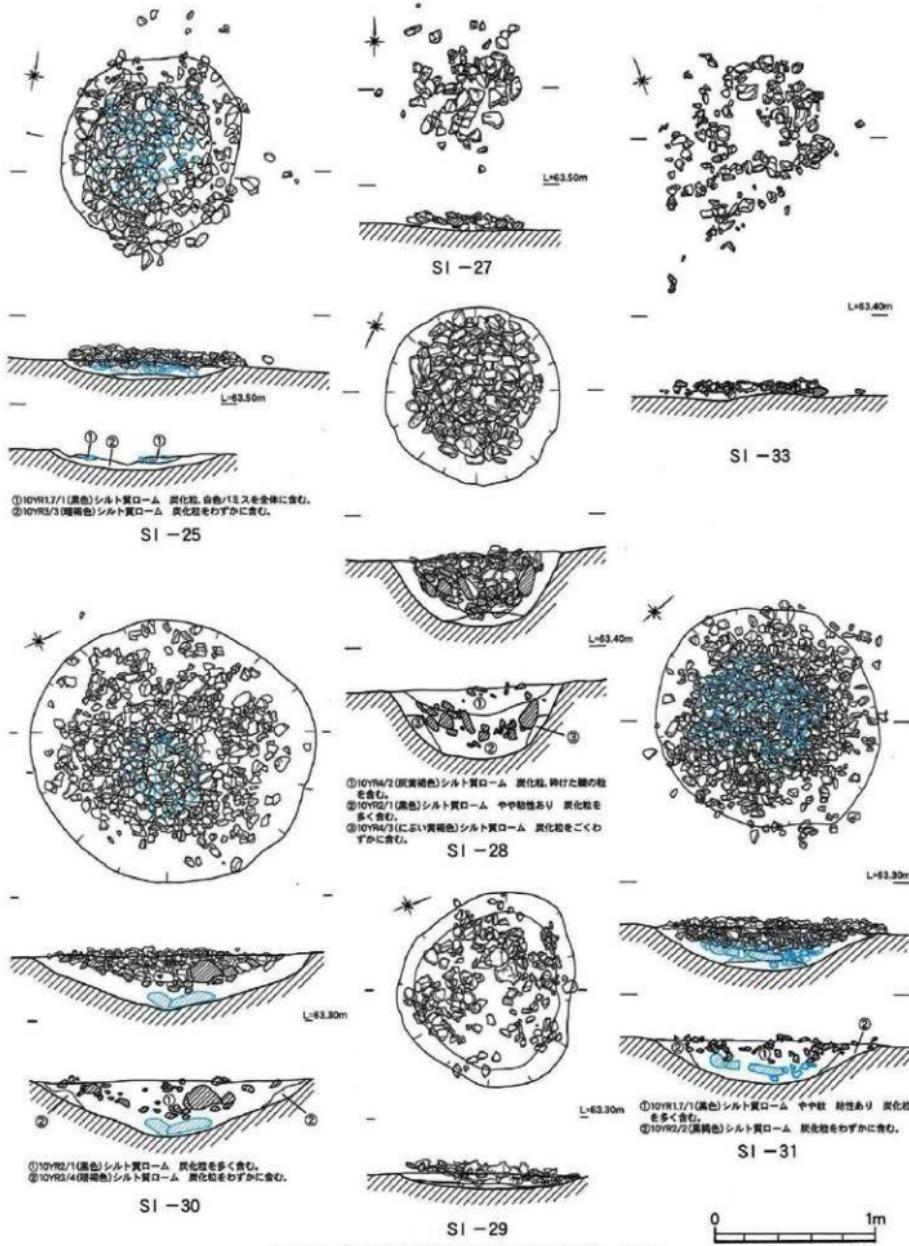
第7図 繩文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30)



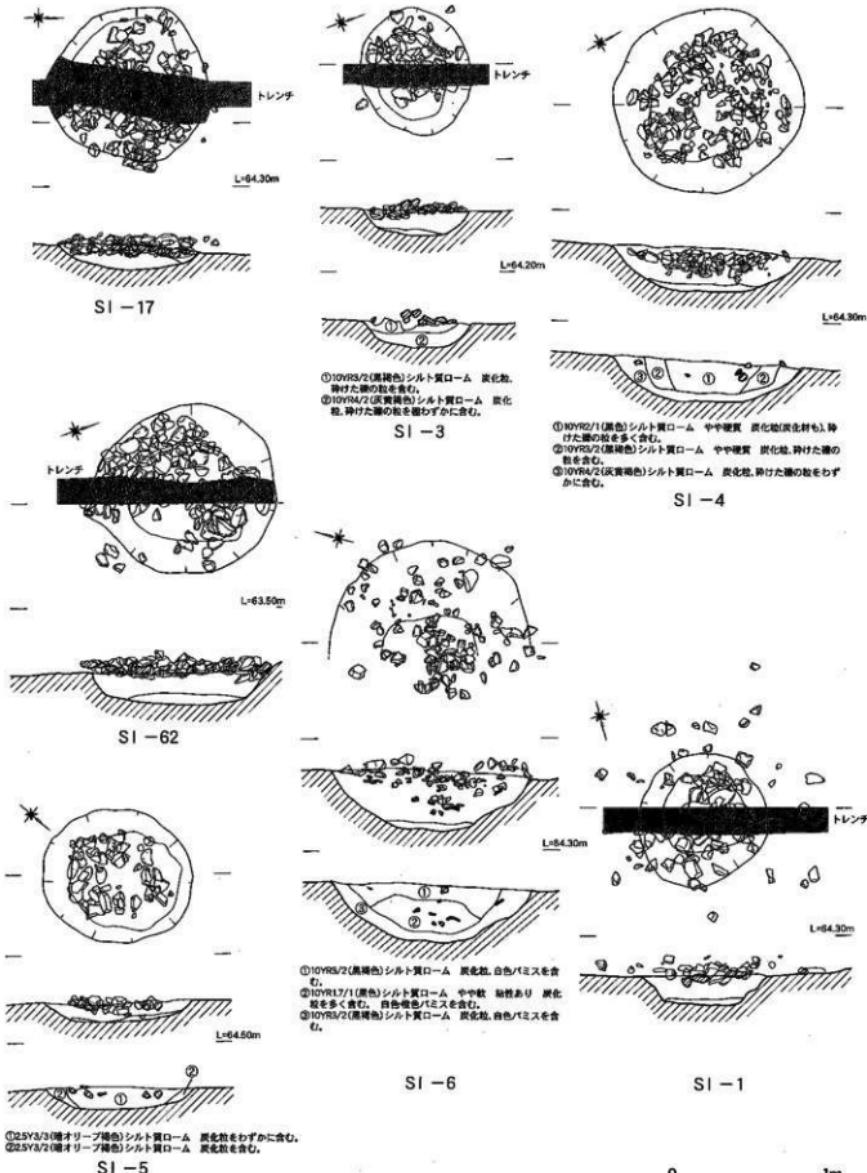
第8図 繩文時代早期集石遺構実測図③ (S=1/30)



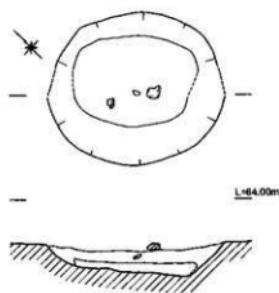
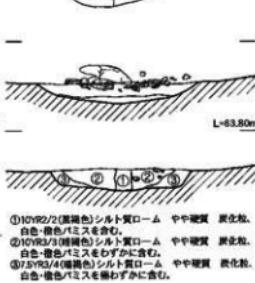
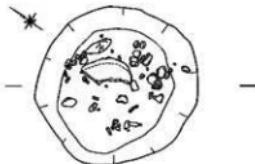
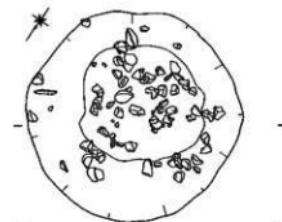
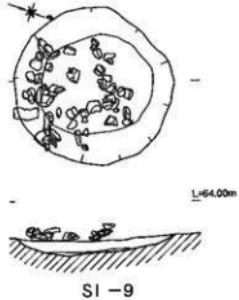
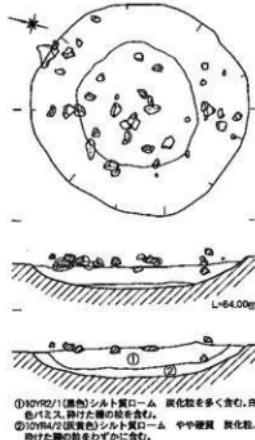
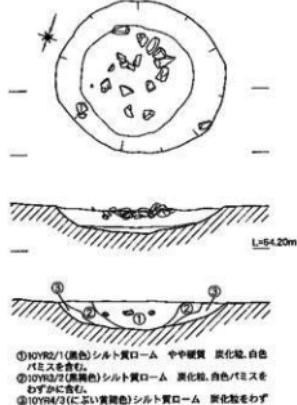
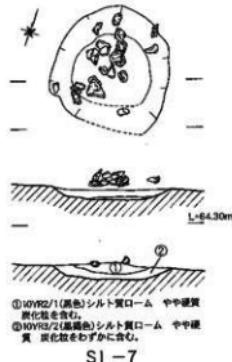
第9図 桶文時代早期集石遺構実測図④ (S-1/30)



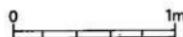
第10図 繩文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)



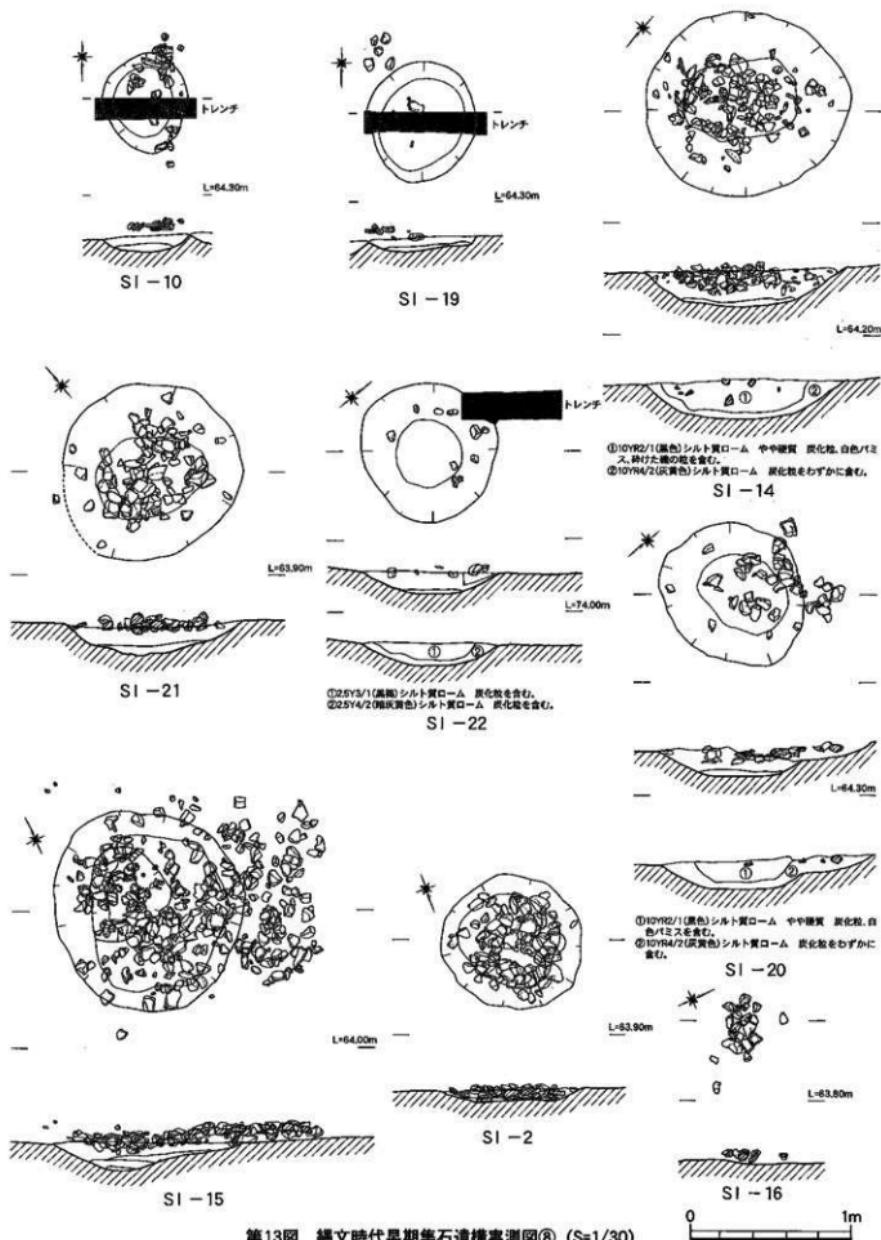
第11図 繩文時代早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30)



SI-13



第12図 繩文時代早期集石造構実測図⑦ (S=1/30)



第13図 縄文時代早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)

- SI-13：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。また、礫集中範囲付近の掘り込み中央部には炭化粒を多く含んでいた。
- SI-10：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-19：4層上位で検出された。平面が円形で断面が（浅）皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況はかなり疎らであった。
- SI-18：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-14：4層上位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-20：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-21：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-22：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は極めて疎らであった。
- SI-15：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みに対しての充填状況は疎らであった。
- SI-2：4層中位で検出された。平面が円形で断面が皿状の掘り込みを有する。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで（一部亜円礫も見られる）、掘り込みに対しての充填状況は密であった。また、埋土については、他の集石遺構と異なりほとんど黒ずんでいない茶褐色土であった（炭化粒も極微量）。
- SI-16：円形に礫が集中する範囲が4層中位で検出された。使用礫は角礫や亜角礫がほとんどで、掘り込みについて確認されていない。

第2表 集石遺構観察表

番号	検出層	¹⁴ C年代 (年BP)	使用礫				掘込み				底石 の 有無	炭化粒 の 有無	備考	
			礫分布範囲 (長軸×短軸) (m)	総礫 数 (個)	総 重量 (kg)	理1個 あたりの重 量 (kg)	有 無	断面 形状	直径 (m)	深さ (m)				
1	SI-38	4層中位	—	1.00 × 1.00	55	16	0.29	有	皿状	1.00	0.20	無	炭化粒のみ	A群にて検出
2	SI-39	4層中位	—	0.70 × 0.60	12	1.8	0.15	有	皿状	1.00	0.60	無	炭化粒のみ	◆
3	SI-40	4層中位	—	1.20 × 0.70	29	—	—	有	皿状	1.20	0.15	無	炭化粒のみ	◆
4	SI-41	4層中位	—	1.10 × 0.80	66	—	—	有	皿状	1.20	0.15	無	炭化粒のみ	◆
5	SI-42	4層上位	—	0.80 × 0.60	—	—	—	有	(浅)皿状	0.80	0.10	無	炭化粒のみ	◆
6	SI-43	3層下位	—	0.90 × 0.80	62	—	—	有	皿状	0.95	0.20	無	炭化粒のみ	◆
7	SI-44	4層中位	—	1.20 × 1.10	115	27.6	0.24	有	皿状	1.30	0.25	無	炭化粒のみ	◆
8	SI-45	4層上位	8620±40	1.20 × 1.10	227	45.7	0.20	有	皿状	1.25	0.25	無	有	◆
9	SI-46	4層中位	8300±40	1.30 × 1.20	900	231.6	0.26	有 <small>(+444±40)</small>	ボウル状 <small>(+444±40)</small>	1.50	0.50	有	有	◆
10	SI-47	4層中位	—	0.70 × 0.60	22	1.5	0.07	有	皿状	0.80	0.20	無	有	◆
11	SI-48	4層中位	—	0.95 × 0.80	36	8.7	0.24	有	(浅)皿状	0.80	0.10	無	有	◆

番号	検出層	¹⁴ C年代 (年BP)	使用歴				掘込み				底石 の有無	備考	
			縦分布範囲 (長軸×短軸) (m)	総標 数 (個)	総重 量 (kg)	縦1個 あたりの重 量 (kg)	有 無	断面 形状	直径 (m)	深さ (m)			
12	SI-49	4層中位	—	1.60 × 1.40	86	5.4	0.06	有	直状	1.30	0.30	無	有
13	SI-50	4層中位	8620±50	1.30 × 1.30	717	122.8	0.17	有	直状	1.40	0.25	無	有
14	SI-51	4層中位	—	0.90 × 0.30	418	36.6	0.09	有	(浅)直状	1.00	0.10	無	有
15	SI-52	4層中位	—	1.20 × 0.70	516	55.7	0.11	有	直状	1.35	0.15	無	有
16	SI-53	4層上位	8650±50	3.40 × 2.40	1089	261.7	0.24	有	直状	2.30	0.45	有	有
17	SI-54	3層下位	8630±50	1.30 × 1.10	659	182.1	0.28	有	直状	1.20	0.35	有	有
18	SI-55	4層中位	—	0.70 × 0.50	—	—	—	有	直状	0.80	0.20	無	炭化粒のみ
19	SI-60	4層上位	—	0.80 × 0.60	25	—	—	有	直状	1.00	0.20	無	炭化粒のみ
20	SI-61	4層中位	—	0.85 × 0.60	—	—	—	無	—	—	—	無	✓
21	SI-23	4層中位	—	1.00 × 1.00	41	—	—	有	直状	1.10	0.15	無	炭化粒のみ B種群にて検出
22	SI-34	4層中位	—	0.60 × 0.45	21	2.7	0.13	有	(浅)直状	0.60	0.10	無	有
23	SI-35	4層中位	—	0.70 × 0.60	—	—	—	有	(浅)直状	0.80	0.10	無	炭化粒のみ
24	SI-36	4層中位	—	0.70 × 0.40	—	—	—	有	直状	0.70	0.20	無	炭化粒のみ
25	SI-24	4層上位	—	1.60 × 1.50	—	—	—	無	—	—	—	無	✓
26	SI-25	4層上位	8610±40	1.60 × 1.45	391	68	0.17	有	直状	1.20	0.10	有	有
27	SI-26	4層上位	—	1.50 × 1.10	226	27.6	0.12	無	—	—	—	無	✓
28	SI-27	4層上位	—	0.90 × 0.90	70	—	—	無	—	—	—	無	✓
29	SI-28	4層上位	8720±40	0.90 × 0.90	346	106.5	0.31	有	ボウル状	1.10	0.45	無	有
30	SI-29	4層上位	—	1.10 × 1.10	191	13.4	0.07	有	(浅)直状	1.20	0.10	無	炭化粒のみ
31	SI-30	4層上位	8620±40	1.70 × 1.50	—	—	—	有	直状	1.60	0.35	有	有
32	SI-31	4層上位	8610±40	1.50 × 1.50	954	113.2	0.12	有	直状	1.40	0.25	有	有
33	SI-33	4層上位	—	1.60 × 1.10	—	—	—	無	—	—	—	無	✓
34	SI-62	4層上位	—	1.10 × 1.00	139	37	0.27	有	直状	1.05	0.20	無	炭化粒のみ
35	SI-3	4層中位	—	0.75 × 0.60	70	8.8	0.13	有	直状	0.80	0.15	無	炭化粒のみ
36	SI-17	4層中位	—	1.00 × 0.90	230	47.5	0.21	有	直状	1.00	0.15	無	炭化粒のみ
37	SI-1	4層上位	—	1.40 × 1.40	83	21	0.25	有	直状	0.85	0.20	無	有
38	SI-6	4層中位	—	1.20 × 1.10	115	9.7	0.08	有	直状 (ややくわ状)	1.20	0.35	無	有
39	SI-4	4層中位	8820±40	0.90 × 0.90	213	16.5	0.08	有	直状 (ややくわ状)	—	—	無	有
40	SI-5	4層上位	—	0.70 × 0.60	58	9.5	0.16	有	直状	0.95	0.15	無	有
41	SI-7	4層上位	—	0.65 × 0.60	26	3	0.12	有	(浅)直状	0.80	0.10	無	有

	番号	検出層	¹⁴ C年代 (年BP)	使用標			掘込み			底石 の 有無	炭化物 の 有無	備考	
				面分布範囲 (長軸×短軸) (m)	認識 数 (個)	総 重量 (kg)	礫1個 あたり の重量 (kg)	有 無	断面 形状	直徑 (m)	深さ (m)		
42	SI-8	4層中位	-	1.30 × 1.00	41	5.4	0.13	有	圓状	1.30	0.20	無	炭化粒のみ
43	SI-9	4層中位	-	0.80 × 0.80	62	8.8	0.14	有	圓状	1.00	0.10	無	有
44	SI-11	4層中位	-	0.70 × 0.60	25	2.5	0.10	有	圓状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ
45	SI-12	4層中位	-	0.40 × 0.10	3	0.04	0.013	有	圓状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ
46	SI-13	4層中位	-	1.20 × 1.00	-	-	-	有	圓状	1.30	0.25	無	炭化粒のみ
47	SI-10	4層上位	-	0.60 × 0.40	36	3	0.08	有	(浅)圓状	0.90	0.10	無	有
48	SI-19	4層上位	-	0.70 × 0.30	4	0.5	0.13	有	(浅)圓状	0.70	0.10	無	炭化粒のみ
49	SI-18	4層中位	-	0.80 × 0.60	-	-	-	有	圓状	0.95	0.10	無	炭化粒のみ
50	SI-14	4層上位	-	1.10 × 0.80	157	14.2	0.09	有	圓状	1.15	0.25	無	炭化粒のみ
51	SI-20	4層中位	-	1.10 × 0.70	-	-	-	有	圓状	0.95	0.15	無	炭化粒のみ
52	SI-21	4層中位	-	1.00 × 1.00	98	18.5	0.19	有	圓状	1.10	0.20	無	有
53	SI-22	4層中位	-	0.60 × 0.60	10	0.5	0.05	有	圓状	0.90	0.15	無	炭化粒のみ
54	SI-15	4層中位	-	1.70 × 1.40	-	-	-	有	圓状	1.30	0.20	無	炭化粒のみ
55	SI-2	3層下位	-	0.80 × 0.70	98	18.5	0.19	有	(浅)圓状	0.85	0.10	無	炭化粒のみ
56	SI-16	4層中位	-	0.70 × 0.40	-	-	-	無	-	-	-	無	

2. 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は計7基検出され、検出状況は次のとおりである。

①3層及び4層の掘り下げ作業を行ったところ、4層中位あたりからぼんやりと黒いシミがみえはじめ、霧島・小林軽石層の風化ブロックが確認される5層上位まで検出面を下げるに、ようやくそのプランが明瞭になつた。

②縄文時代早期の文化層が既に削平されている範囲において、長楕円形の黒いシミが確認された。

SC-4

すでに5層までが削平されている範囲において、霧島・小林軽石層上面で検出された。平面プランは長軸1.3m・短軸0.7mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.4mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から20cm~30cm掘り込まれている。

尚、この遺構においては、埋土を半分残した状態で反対側の遺構半分を取り除き(断ち割り)、埋土の堆積状況を詳細に調査した。

SC-8

すでに5層までが削平されている範囲において、霧島・小林軽石層上面で検出された。平面プランは長軸1.5m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.7mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm程度掘り込まれている。

SC-3

4層下位において、SI-6と切り合う状態で検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.6mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された3個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15~25cm程度掘り込まれている。尚、埋土中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用時期を推定するためのデータ《8820±50年BP》が得られている。

SC-7

5層上位において検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.4mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された2個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15cm程度掘り込まれている。

SC-12

5層上位において検出された。平面プランは長軸1.6m・短軸0.85mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より数10cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された4個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から25~35cm掘り込まれている。

SC-5

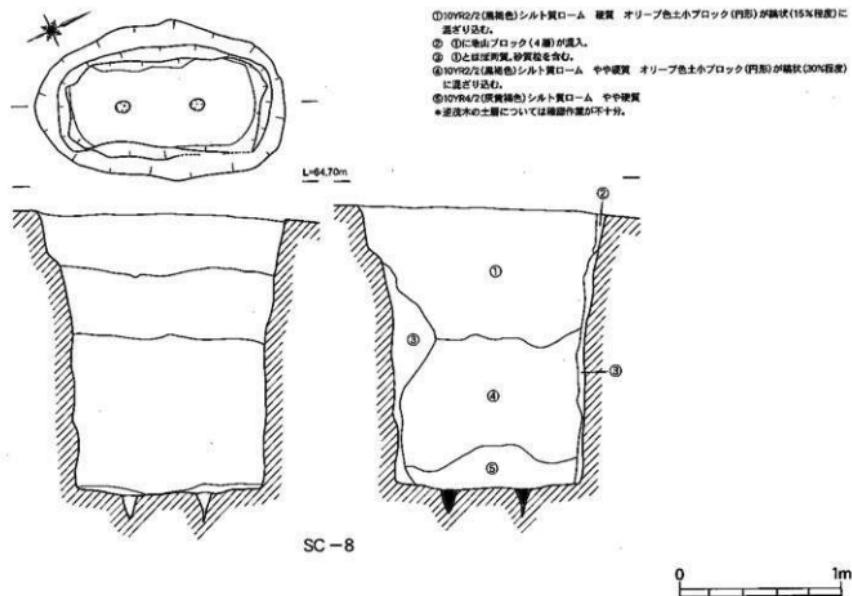
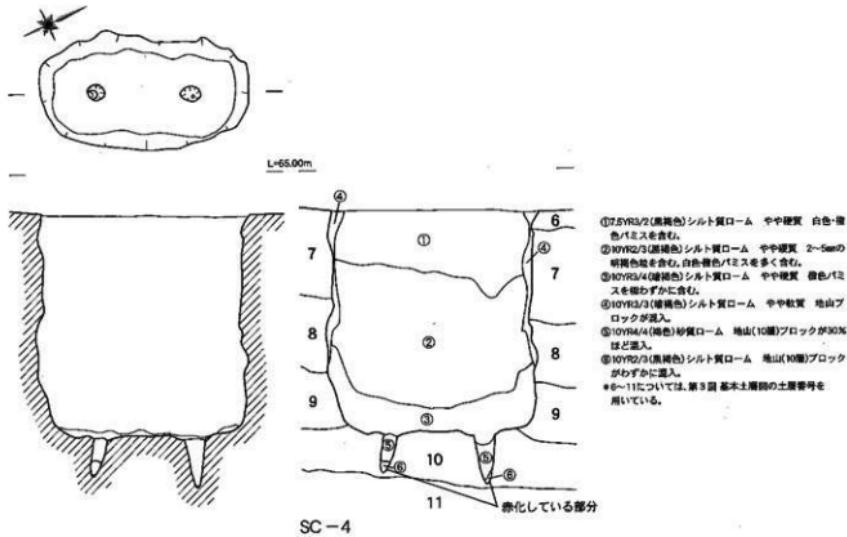
5層上位において検出された。平面プランは長軸2.3m・短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.9mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より10~20cm上位から掘り込まれたものと推測される。底部では直線的に配置された5個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ底面から15~20cm掘り込まれている。

SC-13

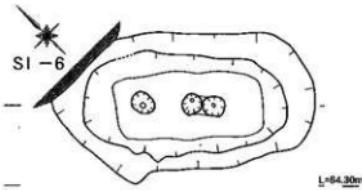
5層上位において検出された。平面プランは長軸2m・短軸0.8mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.75mである。実際の深さについて断定は出来ないが、検出面より10~20cm上位から掘り込まれたものと推測される。この遺構については、底部で逆茂木痕は確認されていないが、その形状からみて陥し穴として使用されていた可能性が高いと考え、今回は陥し穴状遺構として記録した。

第3表 陥し穴状遺構観察表

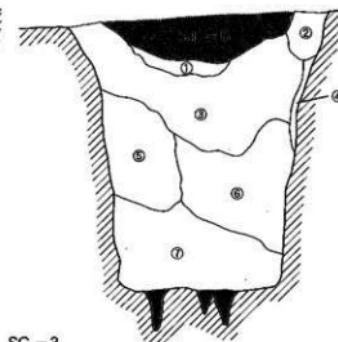
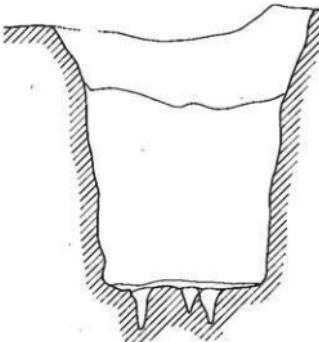
遺構No	検出面	¹⁴C年代 (年BP)	サイズ (長軸) × (短軸) × (深さ) (m)	逆茂木		備考
				数 (本)	(直径) × (深さ) (m)	
1	SC-4	6層上面	1.3 × 0.7 × 1.4	2	0.1 × 0.2~0.3	
2	SC-8	6層上面	1.5 × 1 × 1.7	2	0.1 × 0.15	
3	SC-3	4層下位	8820±50 1.6 × 0.85 × 1.6	3	0.1 × 0.15~0.25	
4	SC-7	5層上位	1.6 × 1 × 1.4	2	0.08 × 0.15	
5	SC-12	5層上位	1.6 × 0.85 × 1	4	0.15 × 0.25~0.35	
6	SC-5	5層上位	2.3 × 1 × 0.9	5	0.1~0.15 × 0.15~0.2	
7	SC-13	5層上位	2 × 0.8 × 0.75	-	- × -	



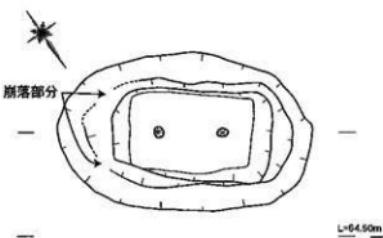
第14図 捩文時代早期陥し穴状遺構実測図① (S=1/30)



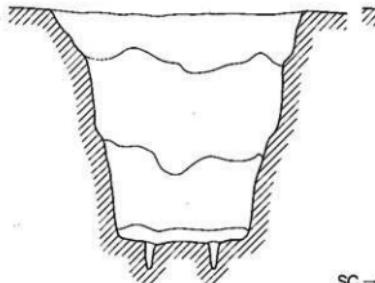
- SI-6
- ①10%2/2(緑褐色)シルト質ローム 硬質 カルシ化。白色・微色バニスを含む。オリーブ色土小ブロック(円形)が断続(5%程度)に混ざり込む。
 - ②③とはほぼ同質。地島(5層)ブロックが混入。カルシ化は含まない。
 - ④⑤とはほぼ同質。地島+小粒状石小ブロックが混入。
 - ⑥10%6/3(こいの青色)ローム 硬質 やや粘性あり。
 - ⑦10%2/2(緑褐色)シルト質ローム 硬質 オリーブ色土小ブロック(円形)が断続(20%程度)に混ざり込む。
 - ⑧とはほぼ同質。シラス粒がわずかに混入。
 - *泥炭木の土層については確認作業が不十分。



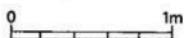
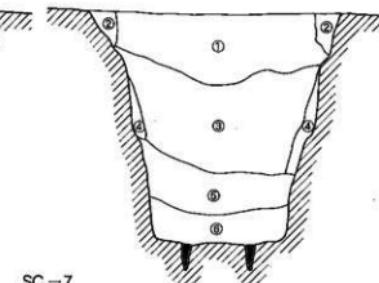
SC-3



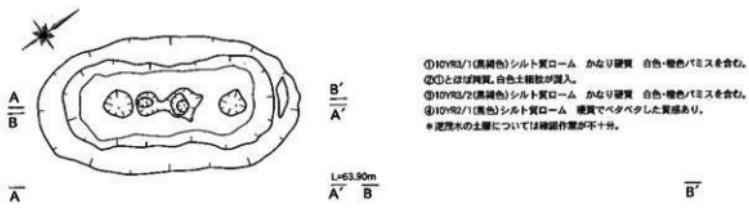
- SC-4
- ①10%2/1(黒色)シルト質ローム 硬質 オリーブ色土小ブロック(円形)が断続(10%程度)に混ざり込む。
 - ②10%4/2(灰黄褐色)シルト質ローム 硬質 オリーブ色土小ブロック(円形)が断続(10%程度)に混ざり込む。地島(4層)ブロックが混入。
 - ③10%2/2(黒褐色)シルト質ローム 硬質 オリーブ色土小ブロック(円形)が断続(5%程度)に混ざり込む。
 - ④⑤とはほぼ同質。地島+小粒状石小ブロックが混入。
 - ⑥10%4/1(黒褐色)シルト質ローム やや粘性あり。
 - ⑦10%2/2(黒褐色)シルト質ローム 硬質。
 - *泥炭木の土層については確認作業が不十分。



SC-4



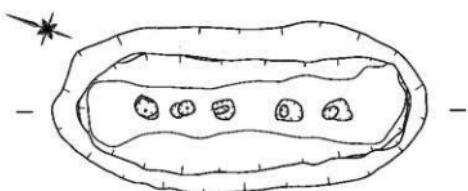
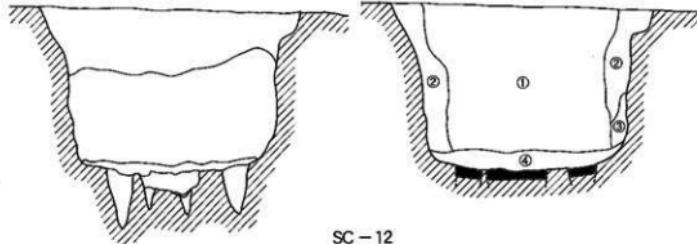
第15図 繩文時代早期陥没穴状遺構実測図② (S=1/30)



L=63.90m

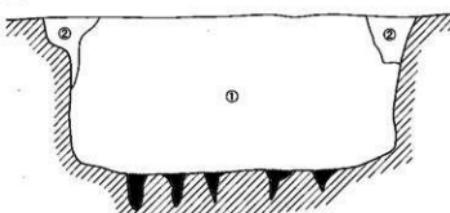
B'

A'



L=63.80m

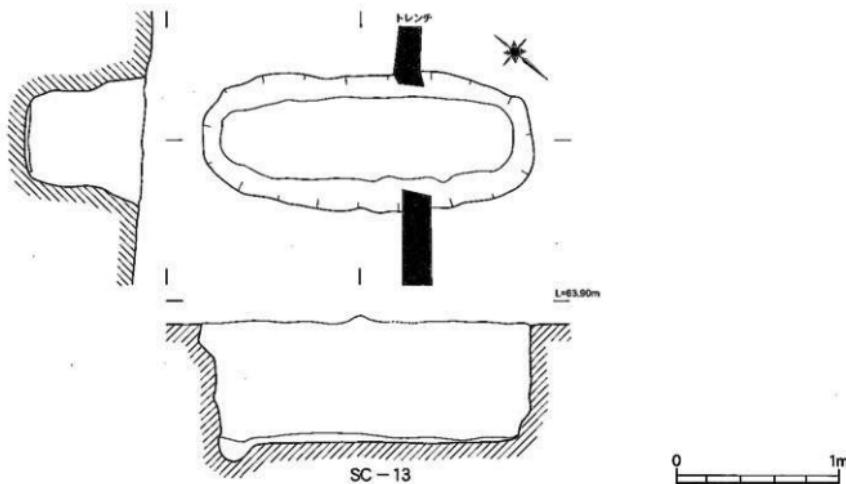
① 101R4/2(灰黄褐色)シルト質ローム　硬質　オリーブ色土小ブロック(円形)が
 糙状(10%程度)に混ざり込む。
 ② ①とはほぼ同質、地山(4層)小ブロックが混入。
 *近傍木の土層については確認作業が不十分。



SC - 5

0 1m

第16図 繩文時代早期陥入穴状遺構実測図③ (S=1/30)



第17図 縄文時代早期陥し穴状遺構実測図④ (S=1/30)

3. 土 坑

SC-9

4層中位で検出された。平面プランが長軸1.5m、短軸0.8mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2~0.3mであった。断面形状及び埋土中に含まれる焼土粒や炭化粒からみて炉穴である可能性が高いと考えられるが、ブリッジやその痕跡であるくびれ部が確認されていないため、今回は土坑として記録した。また、埋土からは縄文時代早期前葉から中葉の土器片や貝殻製剝片が出土したが、遺構の使用時期とは直接関係ないものと思われる。

SC-10

4層中位で検出された。平面プランが長軸1.8m、短軸1.05mの長楕円形で、検出面からの深さは0.35~0.4mであった。断面形状及び埋土中の炭化粒からみて炉穴である可能性も考えられるが、ブリッジやその痕跡であるくびれ部が確認されていないため、今回は土坑として記録した。

SC-11

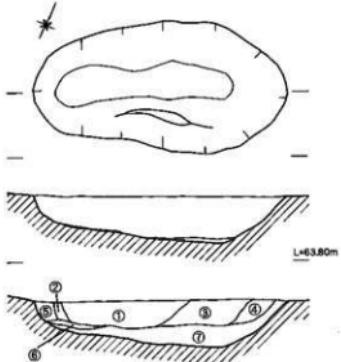
4層中位で検出された。平面プランが長軸1.05m、短軸0.75mの楕円形で、検出面からの深さは0.2~0.3mであった。埋土中には炭化物を多く含み、また用途については不明である。

SC-6

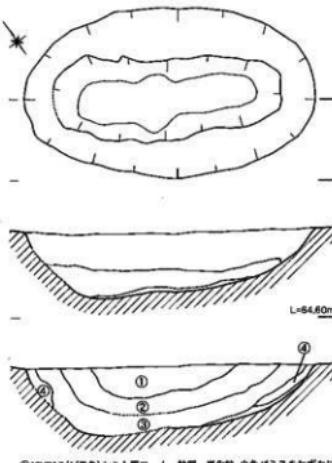
4層中位で検出された。平面プランが長軸0.8m、短軸0.6mの楕円形で、検出面からの深さは0.2mであった。用途については不明であるが、使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。

SC-14

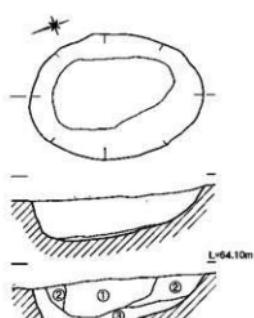
4層下位で検出された。平面プランが直径約1mの円形で、検出面からの深さは0.08mであった。用途については不明であるが、SC-6同様使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。



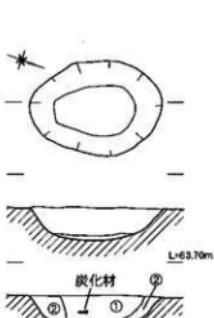
- ①10YR12/1(黄色)シルト質ローム やや硬質、炭化粒を多く含む。白色バミスを含む。
- ②10YR2/1(灰色)シルト質ローム やや硬質、炭化粒を含む。白色バミスを含む。
- ③10YR2/3(黒褐色)シルト質ローム 炭化粒を含む。白色バミスをわずかに含む。
- ④10YR3/3(褐色)シルト質ローム 炭化粒を含む。白色バミスを含む。
- ⑤10YR4/3(にじみ黄褐色)シルト質ローム 地山(4層)の2次的なものか?
- ⑥10YR4/3(灰褐色)シルト質ローム 炭化粒-炭化材(1cm程度)を含む。地山上の小杭(2~4cm)を打ち込んだ。
- ⑦10YR4/3(褐色)シルト質ローム 炭化粒-炭化材(1cm程度)を含む。地土の小杭(2~4cm)を含む。



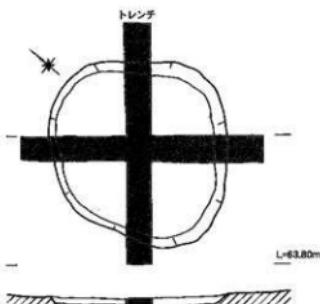
- ①10YR12/1(灰色)シルト質ローム 軟質、炭化粒、白色バミスをわずかに含む。
- ②10YR3/2(褐色)シルト質ローム やや硬質、炭化粒を含む。
- ③10YR4/2(灰褐色)シルト質ローム やや硬質、地山(5層)の2次的なものか?
- ④10YR4/3(にじみ黄褐色)シルト質ローム やや硬質、地山(4層)の2次的なものか?



- ①10YR17/1(黄色)シルト質ローム 炭化粒を多く含む。白色バミスを含む。
- ②10YR2/2(暗褐色)シルト質ローム 炭化粒を含む。
- ③10YR4/2(灰褐色)シルト質ローム 炭化粒を含む。



- ①10YR3/1(褐色)シルト質ローム、炭化粒・白色バミスを含む。
- ②10YR4/2(灰褐色)シルト質ローム、炭化粒、白色バミスを含む。
- ③10YR4/2(灰褐色)シルト質ローム、炭化粒、白色バミスを含む。



第18図 縄文時代早期土坑実測図 (S=1/30)

4. 遺構内出土遺物

各遺構の埋土中より、縄文時代早期の土器や石器が数十点出土した。ただし、遺構の使用時期の根拠となるようなものはほとんど確認できなかった。1はSI-49より出土した資料を含む個体である。下剥峰式土器にあたる。口唇部に平坦面を設け、口縁部が直口する。文様構成は口縁部文様帶を持たず、外面全体に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施すものである。内面調整は横位のミガキである。6はSC-3より出土した資料を含む固体である。無文土器である。器壁は薄い（0.7cm程度）。口縁部は直口する。底部は残っていないが、残存している底部付近の形態から考えると丸底もしくは尖底と思われる。外面ともナデ調整である。胎土には纖維が混入している様子が見える。また、口縁部付近に2つの穿孔とそれと対角的位置に1つの穿孔が確認できる。8・9はSC-9より出土した資料である。8は下剥峰式土器の胴部片である。外面に継位の貝殻腹縁刺突文が施される。内面調整はナデである。9は下剥峰式土器の口縁部片である。口縁部形態は波状口縁で、口縁部上面観はレモン形を呈する。口縁部に横位の貝殻腹縁刺突文を施し、胴部に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文を施す。口唇部にはミガキを施す。内面調整は工具によるナデである。

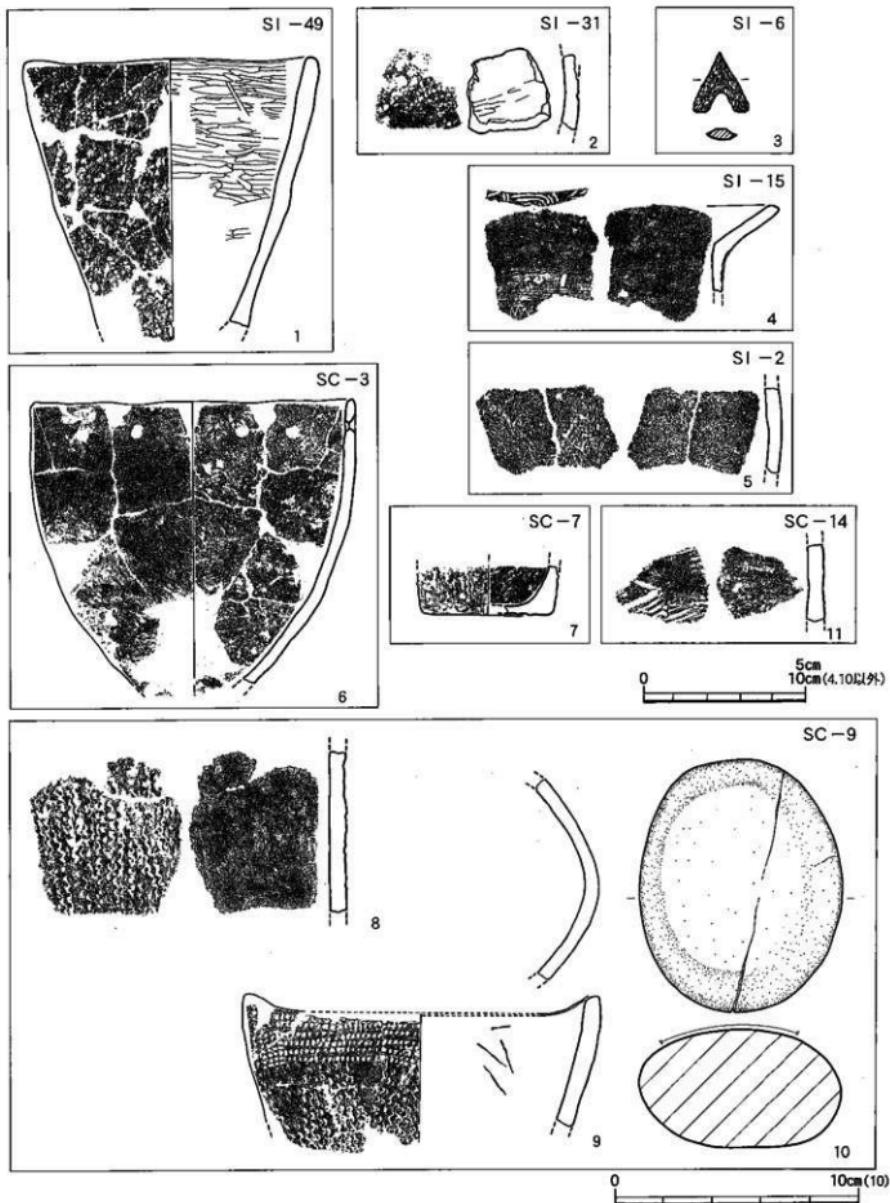
また石器については、SI-6からチャート製打製石器、SC-9から砂岩製磨石が出土している。その他に、砂岩製石錐1点・砂岩製磨石1点・砂岩製剥片2点・流紋岩製石核1点・流紋岩製剥片1点・チャート製剥片12点・頁岩製剥片4点・剥片4点が出土している。

第4表 遺構内出土土器觀察表

報告書No	遺構No	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土					備考	実測No	
				外面	内面	外面	内面	米灰	磨石	ナシギ	さわらぎ	角質石	沙粒		
1	SI-49	深鉢	口縁～胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR6/4(にふい橙)	7.5YR3/1(黒褐)	○	○				O2mm以下		228
2	SI-31	鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ミガキ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR3/1(黒褐)	○	○	○			O3mm以下		330
4	SI-15	深鉢	口縁～胴部	撫糸文 沈織文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				O2mm以下	口唇部に沈織文	329
5	SI-2	深鉢	胴部	撫糸文	ナデ	7.5YR5/3(にふい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				O1.5mm以下		328
6	SC-3	深鉢	口縁～胴部	ナデ 穿孔	ナデ	7.5YR5/4(にふい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				O1.5mm以下	残存部に3箇所穴孔 セシ(侵食)有り	227
7	SC-7	深鉢	胴部～底部	刺突文(貝殻腹縁)ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR3/1(黒褐)	○	○				O5mm以下		331
8	SC-9	深鉢	胴部	刺突文(貝殻腹縁)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○			O2mm以下	波状口縁	333
9	SC-9	深鉢	口縁～胴部	刺突文(貝殻腹縁) (棒状工具 貝殻腹縁)	ナデ(工具痕あり) 2つ4	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			O2mm以下		332
11	SC-14	鉢	胴部	沈織文	ナデ	10YR3/1(黒褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				O3mm以下		334

第5表 遺構内出土石器計測分類表

遺構No	器種	遺構番号	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考	整理No
3	打製石器	SI-6	チャート	1.85	1.7	0.35	0.6	N種	324
10	磨石	SC-9	砂岩	10.4	8.3	4.85	580	被熱 表面のみ寒灰あり	326



第19図 繩文時代早期遺構内出土遺物実測図（土器：S=1/3 石器：S=1/2・2/3）



SI-45・46① (北から)



SI-45・46②《断面》(北西から)



SI-49~52①《検出》(北から)

写真図版3 縄文時代早期遺構①



SI -49~52② (北から)



SI -53① (北から)



SI -53② (北から)

写真図版 4 繁文時代早期遺構②



SI-53③《断面》(北から)



SI-54(西から)



SI-24~26《検出》(北から)

写真図版5 繩文時代早期遺構③



SI - 28① (北から)



SI - 28② 《断面》(北から)



SI - 29・30① 《検出》(東から)

写真図版 6 繩文時代早期遺構④



SI-29・30②(東から)



SI-30《底石》(東から)



SI-31①(南東から)

写真図版7 縄文時代早期遺構⑤



SI-31②《上部砾除去後》(南東から)

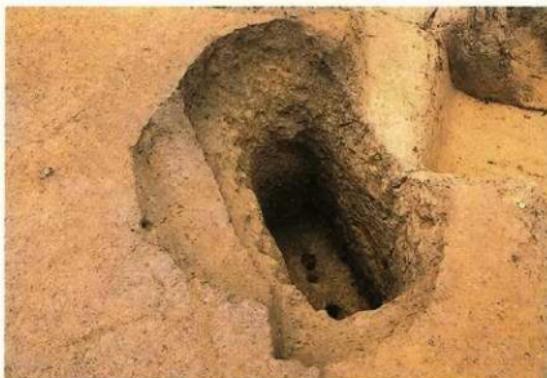


SI-2(北から)



SI-17(北から)

写真図版8 縄文時代早期遺構⑥



SC-3① (北西から)



SC-3② 《逆茂木アップ》(北西から)



SC-7 (西から)



SC-12① (北から)



SC-12② (北から)



SC-8《断面》(東から)

写真図版10 繁文時代早期遺構⑧



SC-4《土層》(東から)



SC-5(北西から)

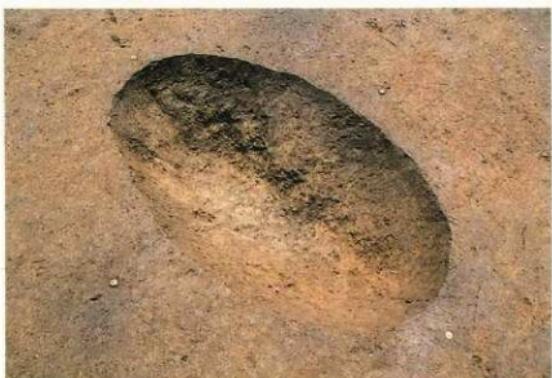


SC-13(北から)

写真図版11 繩文時代早期遺構⑨



SC-10① 《埋土確認状況》(北東から)

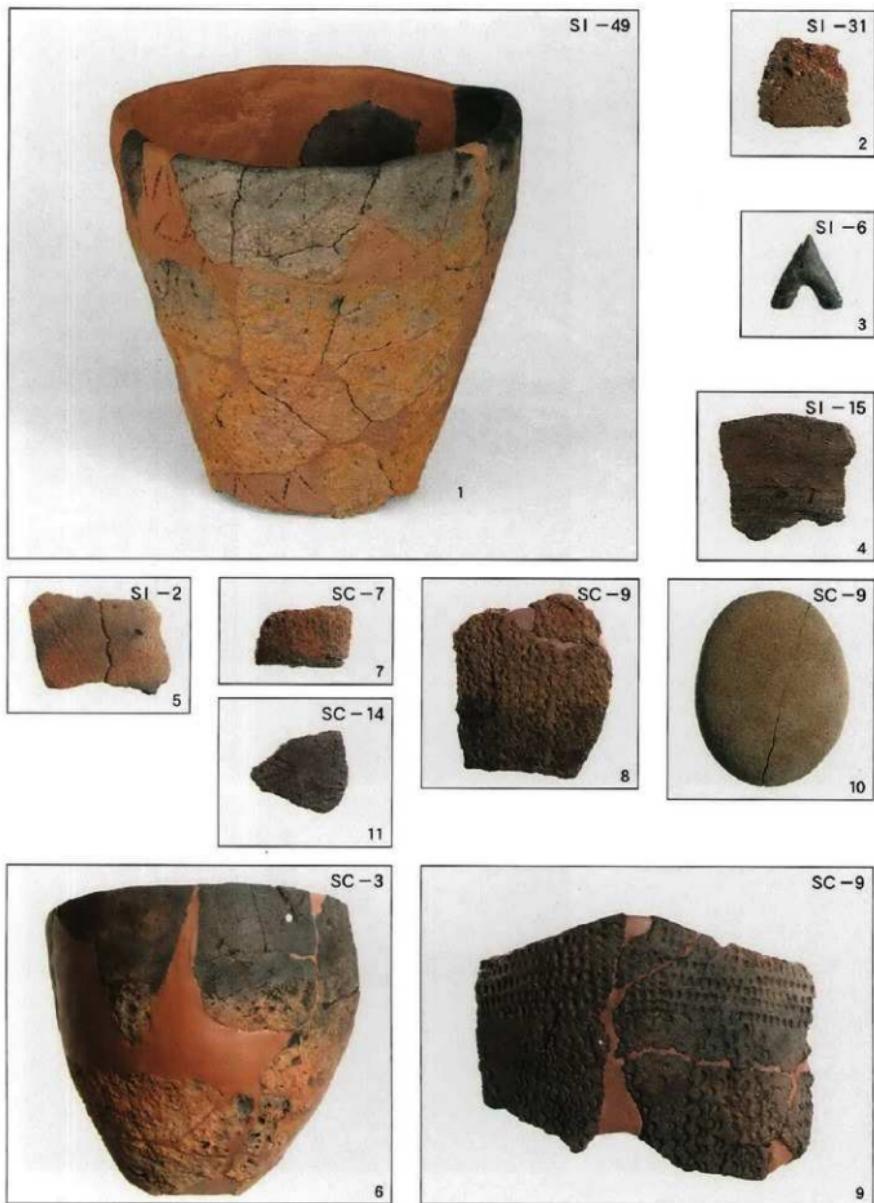


SC-10② (北東から)



SC-14 (北東から)

写真図版12 繩文時代早期遺構⑧



图版13 遗構内出土遺物

第2節 包含層出土遺物

当遺跡における縄文時代早期遺物包含層は、3層上位から4層中位にかけてである。これは同台地上に立地する他の近隣遺跡とはほぼ同じ傾向で、なかでも4層上位から中位にかけては、集石遺構となんらかの関係があるものと思われる疊とともに集中して出土する状況がみられる。尚、今回の調査においては、この包含層から計5944点の土器や石器が出土している。

1. 土器

縄文時代早期の土器については、3層上位から4層中位にかけて出土している。大別すると無文土器、押型文土器、下剥筆式土器、桑ノ丸式土器、平格式土器、塞ノ神式土器、早期末貝殻条痕文土器で、分布状況については第21図のとおりである。

無文土器（1～5）

無文土器は、大分県二日市洞穴の土器群とその層位的成果から底部形態が平底→丸底→尖底と変遷し、調整も条痕調整からナデ調整へと変遷するというのが一般的な理解であろう。そのため、無文土器の変遷を考える上で器形と調整方法に着目し分類を行なうことが有効であると考えられる。しかし、本調査区の資料は小破片が多く器形が分かる資料が少ないため、全ての遺物を検討することのできる調整方法のみに着目し以下のように分類を行なった。

I類…内外面ともにナデ調整のもの。

II類…外面調整はナデ、内面調整は貝殻条痕文のもの。

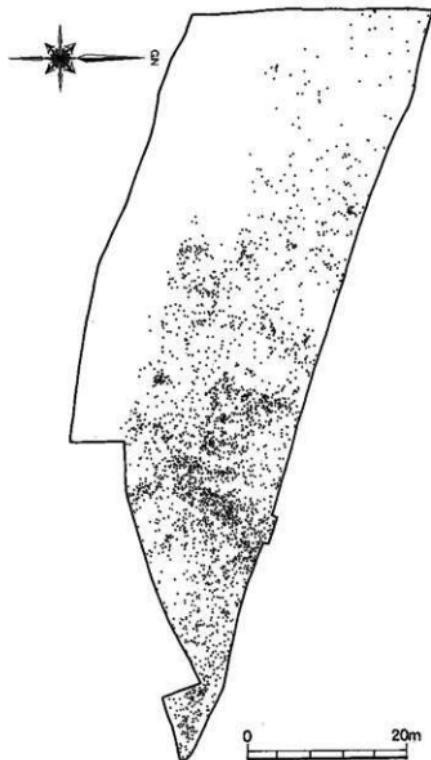
I類は1～3が該当する。1・2は口縁部片である。1は器壁が薄く（0.6cm程度）、口縁端部がやや外反する。2は器壁が厚く（0.9cm程度）、口縁部が直口する。3は尖底を呈する底部片である。II類は4～5が該当する。4は口縁部片である。器壁が厚く（0.9cm程度）、口縁部が直口する。

押型文土器（6～27）

近年、南九州の押型文土器には複数系統存在することが指摘されている。南九州の押型文土器の編年的位置付けについて考察するには、まず各系統に大別した後、その系統ごとに編年を組んでいくことが有効であると考える。そこで本報告書では、始めに系統差を最も表すと考えられる胎土・器壁の厚さ・調整方法に着目し、以下のように分類を行なった。

I類…色調がにぶい赤褐色・にぶい褐色系統を呈し、器壁が薄いもの（0.5～0.8cm）。内面調整はナデである。

II類…色調がにぶい橙色系統を呈し、器壁が厚いもの（1.0～1.4cm）。胎土に多量の



第20図 縄文時代早期遺物分布図 (S=1/600)

角閃石を含む。内面調整はミガキもしくはナデである。

次に時期差を表すと考えられる外面施文に着目し、以下のように細分を行なった。

a類…外面に押型文を帯状に施文するもの。

b類…外面全面に横位の押型文を施するもの。

I a類は6~14が該当する。6~8は口縁部でいずれも直口する。6は外面に梢円押型文を帯状に施文する。内面は無文である。7~8は外面に短枝回転文を帯状に施文する。口縁部内面にも横位の短枝回転文が施される。9~14は脣部片である。9~12は梢円押型文を帯状に施文したもの、13~14は短枝回転文を帯状に施文したものである。I b類は15~19が該当する。15は口縁部片である。口縁部形態は直口する。外面は横位の山形押型文、内面は櫛状文の下に横位の山形押型文が施される。16~19は脣部片である。いずれも外面に横位の山形押型文が施されている。II a類は20のみ該当する。口縁部は直口する。外面は横位の山形押型文を帯状に施文する。内面調整はミガキである。II b類は21~27が該当する。外面施文はいずれも横位の山形押型文である。21~23は口縁部でいずれも直口する。内面調整は21がナデ、22~23がミガキである。22は山形押型文を施した後に、一部貝殻条痕文を施している。24~26は脣部片である。27は底部片で平底を呈する。

下剥離式土器 (28~68)

近年の下剥離式土器の編年的研究の成果により「口縁部文様帶を有するもの」から「口縁部文様帶が消失して脣部文様帶のみで構成されるもの」への変遷が指摘されている。そのため、分類に当たっては口縁部文様帶の有無によって大別し、さらに脣部文様帶の文様構成の違いによって分類することが有効であると考え、口縁部片を以下のように分類を行なった。

I類…口縁部文様帶（横位の貝殻腹縁刺突文）を持つもの。

I a類…脣部に横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

I b類…脣部に縱位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

II類…口縁部文様帶を持たないもの。

II a類…横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

II b類…ハの字状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

II c類…横位の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

さらに口縁部文様帶の有無について判断できない脣部片を便宜上III類とし、文様構成から以下のように分類を行なった。

III a類…横位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

III b類…縱位で鋸歯状の貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

III c類…横位に貝殻腹縁刺突文が施されるもの。

28~41は口縁部片である。I a類は28~29が該当する。いずれも口縁端部はわずかに内傾する。I b類は30~31が該当する。いずれも口縁端部が肥厚するものである。30は内外面両側から穿孔しようとした様子が窺えるがいずれも未貫通である。外面の穿孔と内面の穿孔はやや位置がずれている。また、外面の穿孔は貫通直前までいっており、さらに外面からの穿孔が要因と思われる欠損が確認できる。以上のことから次のようない行為が想定される。まず、両側から穿孔を行おうとしたがやや位置がずれてしまった。そのため、外面からの穿孔で孔を開けようとしたが欠損してしまったため、穿孔の行為自体を諦めてしまったものと考えられる。34~35は小破片のため、I類に該当するものか、II c類に該当するものか判断できなかった。34は口唇部に平坦面を設け、口縁部が直口するもの、35は口縁端部が肥厚するものである。II a類は36~37が該当する。36は口唇部に平坦面を設け、口縁部がやや内湾し、脣部に突包を持ち、その上に横位の貝殻腹縁刺突文が施されているものである。37は口縁部が内傾する。II b類は38が該当する。口唇部には平坦面を設ける。口縁部形態はやや内湾する形態である。II c類は33~39・40が該当する。32も33と同一個体と思われるが、このタイプに属するものと考えられる。32~33・39は口縁端部が肥厚する。40は口唇部がやや丸みを帯び、口縁部が直口するものである。41は剥離のため文様構成が不明であり、分類不可能であった。41は口唇部に平坦面を設け、口縁部はやや内湾する形態のものである。

42~66は脣部片である。III a類は42~51が該当する。III b類は58が該当する。52~57・66はIII a類かIII b類のいずれかに分類されるものだが、小破片のためその判別はつかなかった。III c類は59~65が該当する。

67~68は底部片である。貝殻腹縁刺突文は確認できなかったが、本調査区で出土した資料のうち下剥離式土器の胎土と最も類似するため、下剥離式土器に含めて報告を行なうこととした。いずれも底部外面にミガキが施される。

桑ノ丸式土器 (69)

桑ノ丸式土器は1点のみの出土であった。69は胴部片である。外面は貝殻条痕による流水文である。内面調整はミガキである。

平格式土器 (70~73)

平格式土器は4点出土した。70は浅い波状を呈する口縁部片で、薄手で幅広の肥厚帯を作り出し、そこに沈線文や刺突文が施されている。71・72はいずれも浅い波状を呈する口縁部片で、口縁部外面に沈線文が施されている。73は沈線文が施された胴部片である。

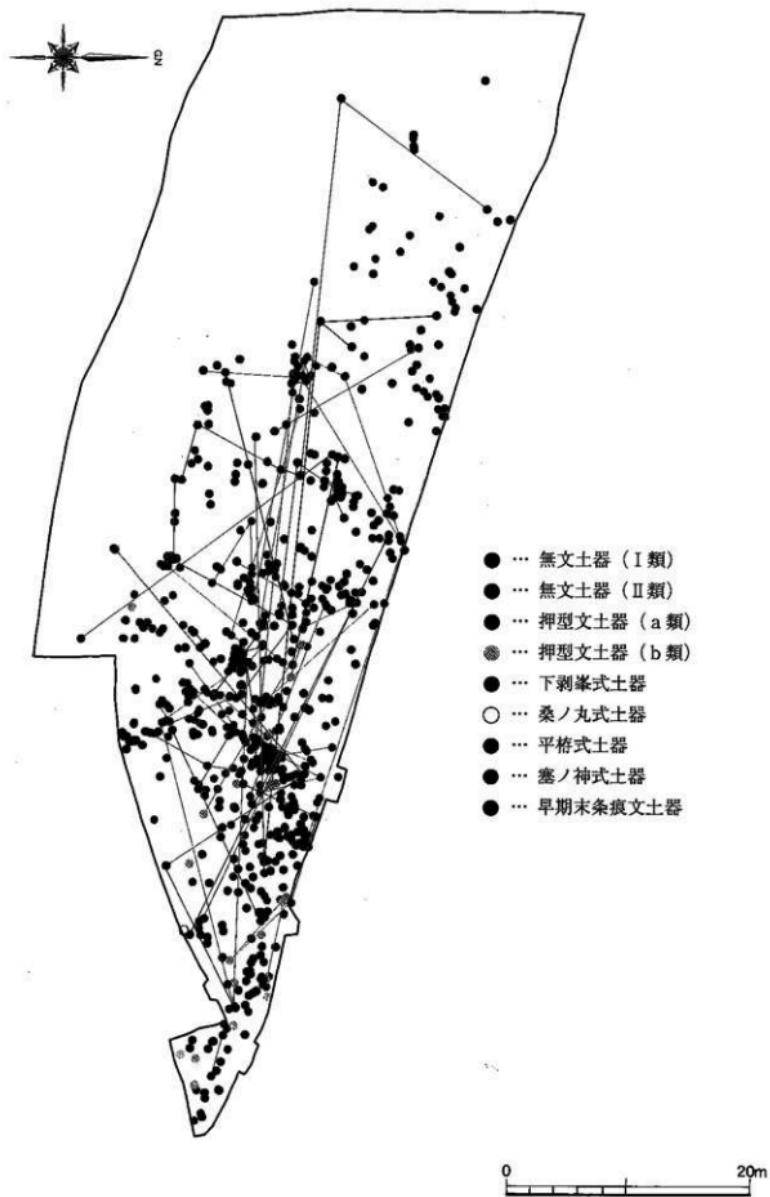
塞ノ神式土器 (74~174)

塞ノ神式土器は当調査区において最も多く出土した土器群である。74・75はラッパ状に聞く口縁部を中頸から屈曲させたものである。主な文様構成は沈線文と刺突文で、屈曲部や口唇部にはキザミ目が施されている。76~78はラッパ状に聞く口縁部が緩やかに内湾するもので、文様構成は74・75とよく似ている。79・80は胴部片で、文様から頸部付近ではないかと推測されるが詳細は不明である。81~84・86~89は口縁部にキザミ目が施された微隆帯を巡らした口縁部片（89のみが波状口縁）である。いずれもラッパ状に聞くが、なかにはやや内湾しながら聞くものもみられる。主な文様構成は沈線文と刺突文で、口唇部にはキザミ目が施されている。尚、85は沈線文が施された口縁部片であるが、胎土等は81~84・86~89とよく似ている。90~95はキザミ目が施された微隆帯を巡らした口縁部片（95のみが波状口縁）で、口唇部が平らなものと尖り気味なものがみられる。96~99はキザミ目が施された微隆帯を巡らした頸部及び胴部で、98は微隆帯下位に沈線文が、99は同じく微隆帯下位に撲糸文が施されている。100~102は壺の口縁部である。100・101は無文だが、102は沈線文が施されている。103~119はラッパ状に聞く口縁部をもち、胴部には沈線文と撲糸文が施されたいわゆる撲糸文系の塞ノ神式土器の一群である。103はほぼ直に立ち上がった胴部からラッパ状に口縁部（波状）が聞き、口唇部にはキザミ目が施されている。また頸部から胴部上位にかけては4条の沈線文が、そしてその下位には撲糸文が施されている。104は頸部で、4条の沈線文が施され、その下位にはわずかではあるが撲糸文が確認できる。105は上げ底気味の底部からほぼ直に胴部が立ち上がっていて、撲糸文が施された後に沈線文が施されている。106・107・109~115は撲糸文及び沈線文が施された胴部片である。106は胴部がやや張る形状のものだと推測されるが、その他は小破片のためプロポーションまでは断定できない。117は沈線文が施された頸部片であるが、小破片のため詳細は不明である。108・116・118・119は撲糸文や沈線文が施された底部片で、いずれも小破片のため詳細は把握しにくい。120~124は頸部からラッパ状に聞く口縁部片（120~123は波状、124は平口縁）で、沈線文が施されている。125は120~124と同タイプの頸部片で、沈線文が施されている。126~152は沈線文（範描きが多い）によつて作り出された区内に、撲糸文の文様が施された一群である。126はやや内湾する口縁部片で、壺に近いプロポーションが予想される。127~136・142・144~152は胴部片である。127・133・134・150は先述の文様に加えて刺突文が施されている。137・138は底部片である。138は上げ底気味ではないかと予想されるが、いずれも小破片のため詳細は不明である。153~163は貝殻条痕による連続刺突文が施された一群である。153~156は口縁部片で、口唇部が153・155は平らに、154はやや外傾して、156はやや丸めに仕上げられている。また、157~161は頸部片で、162・163は胴部片である。164~174は貝殻または籠による沈線文が施された一群である。164・165はいずれもラッパ状に聞く口縁部片で、164は縦位に165は斜位に平行文が施され、口唇部にはキザミ目が施されている。166~174は胴部片である。地文に貝殻条痕文を施し加えて斜位の沈線文が施されており、170は胴部がやや張る形状のものだと推測されるが、他は小破片のためプロポーションは断定出来ない。

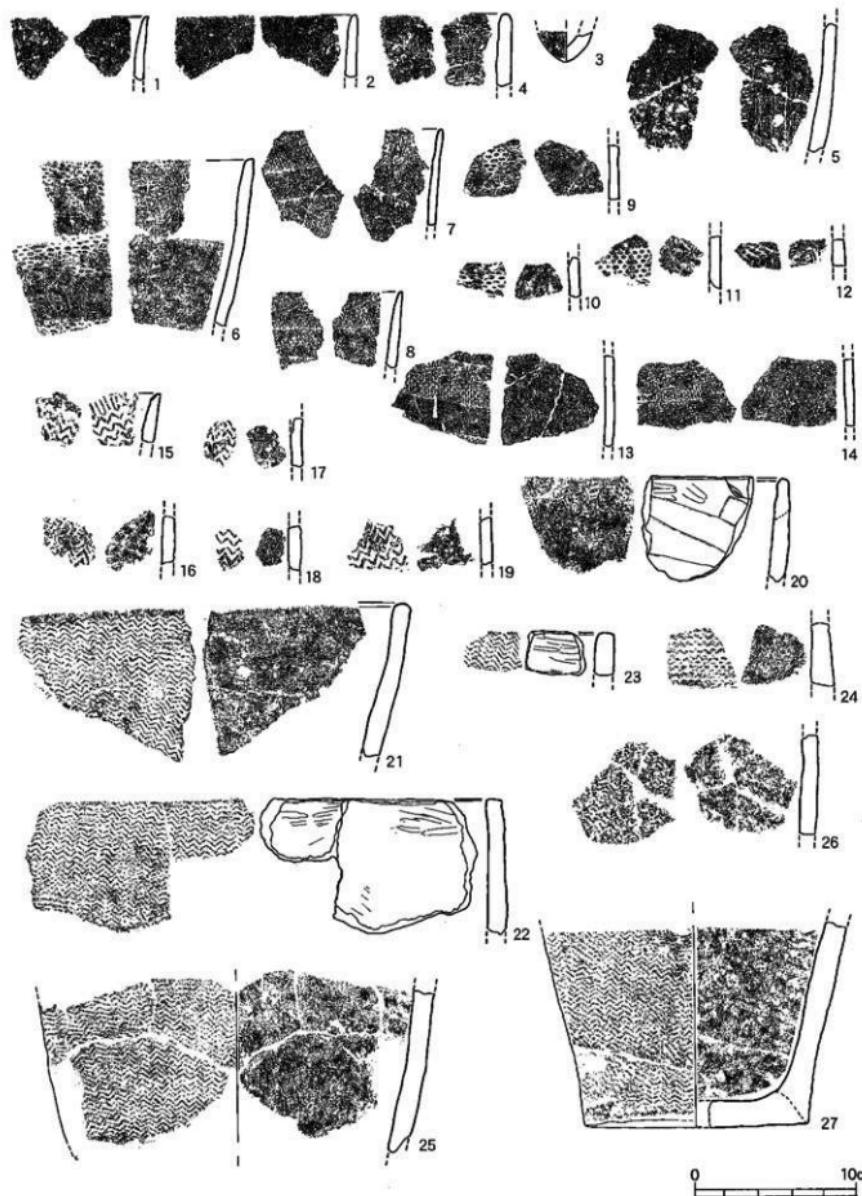
早期末貝殻条痕文土器 (175~187)

貝殻条痕文が施された一群で、文様構成については、外面に横・縦位及び斜位の貝殻条痕文が施され、内面には貝殻条痕文が施された後ナデ調整が行われているものが多い（187は外面に流水状の貝殻条痕文が施されている）。また、この一群の土器については、そのほとんどがアカホヤ火山灰層残存範囲の3層上位から中位にかけて出土している。他の土器形式の出土層位には違いが見られず、いずれも混在して出土する状況のなか、この一群については調査中においても明らかに他よりも上位から出土する傾向が確認できた。

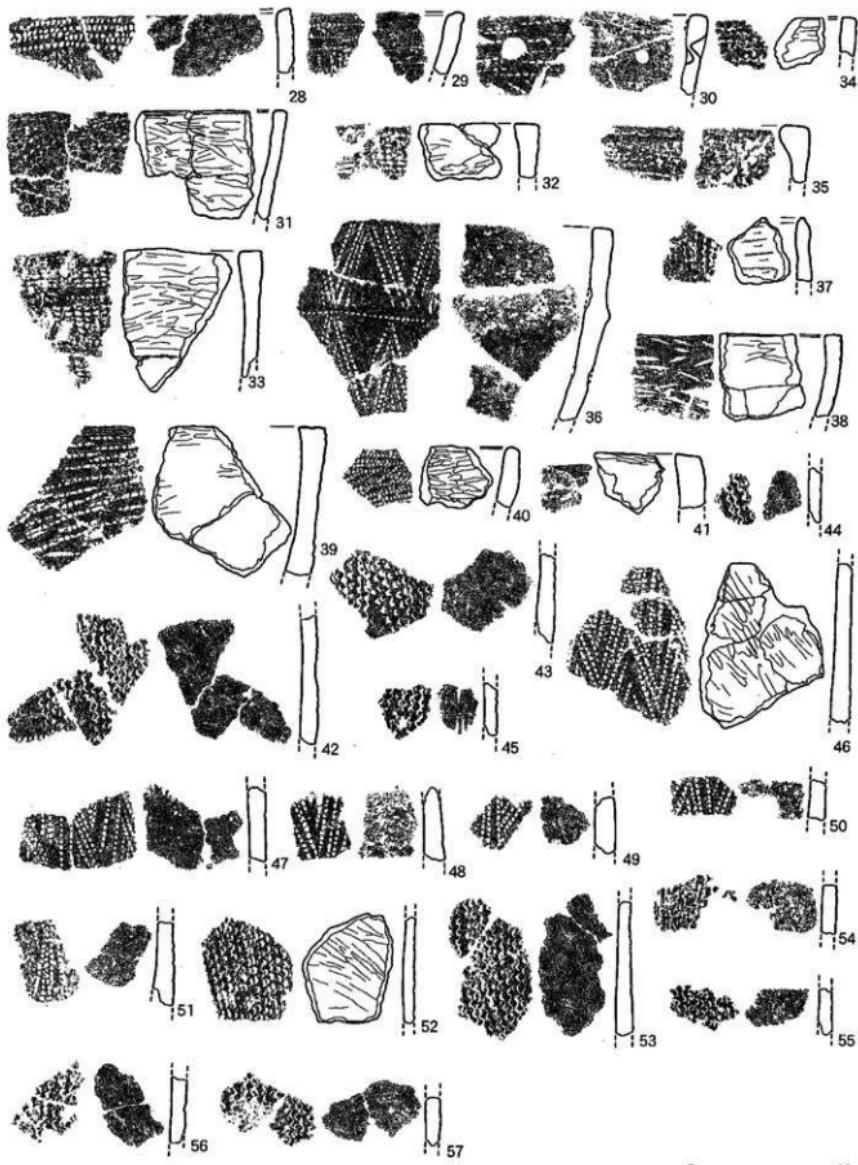
175~178・186は口縁部片である。いずれも口唇部が丸めに仕上げられていて、186はその外面に棒状工具によるキザミ目が施されている。176~177・179~185・187は胴部片であるが、いずれも小破片のため器形は断定することは出来た。



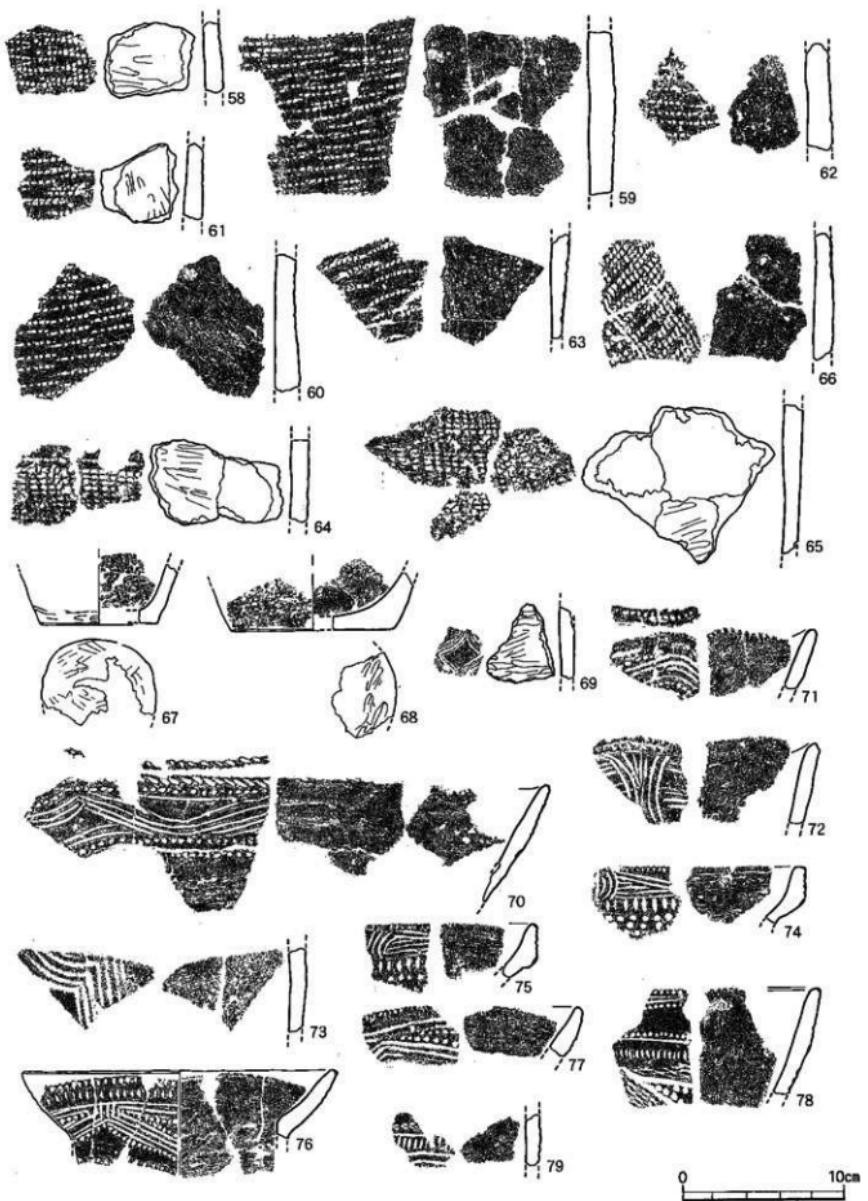
第21図 縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図【形式別】(S=1/400)



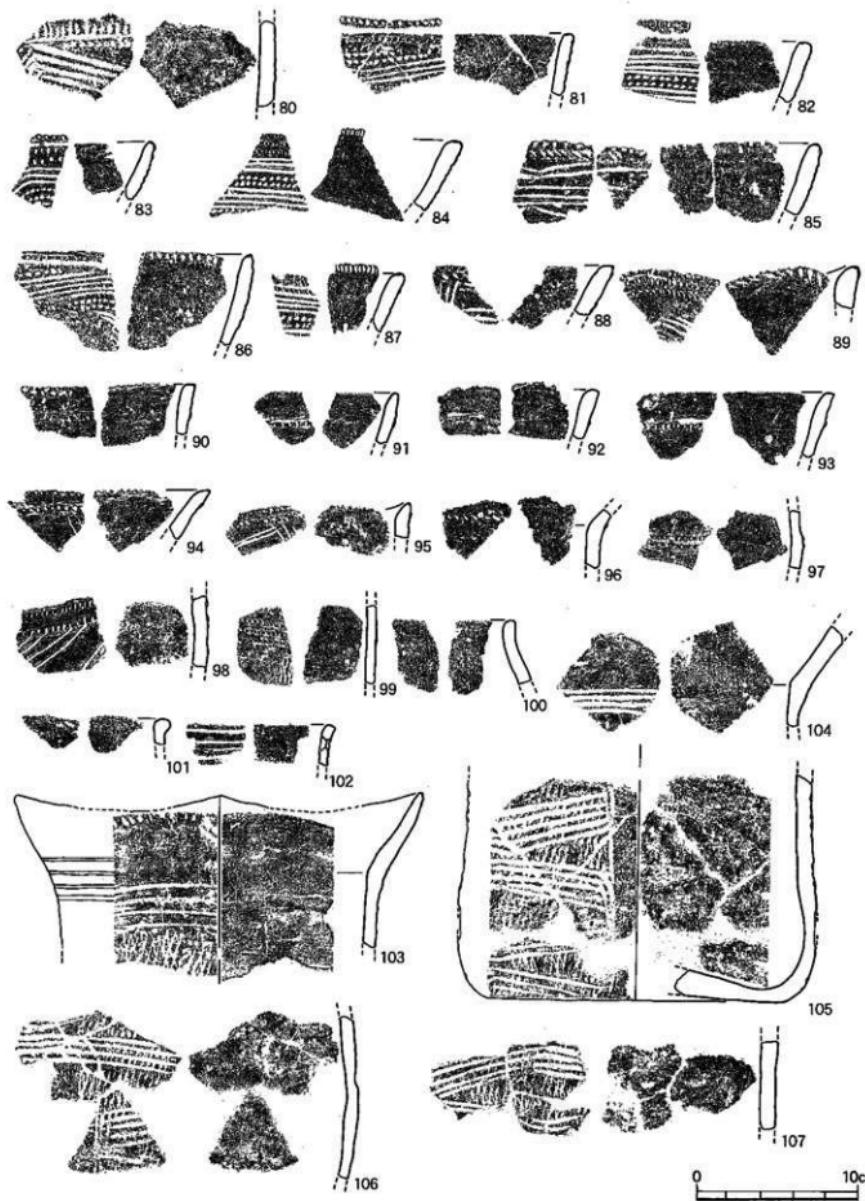
第22図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



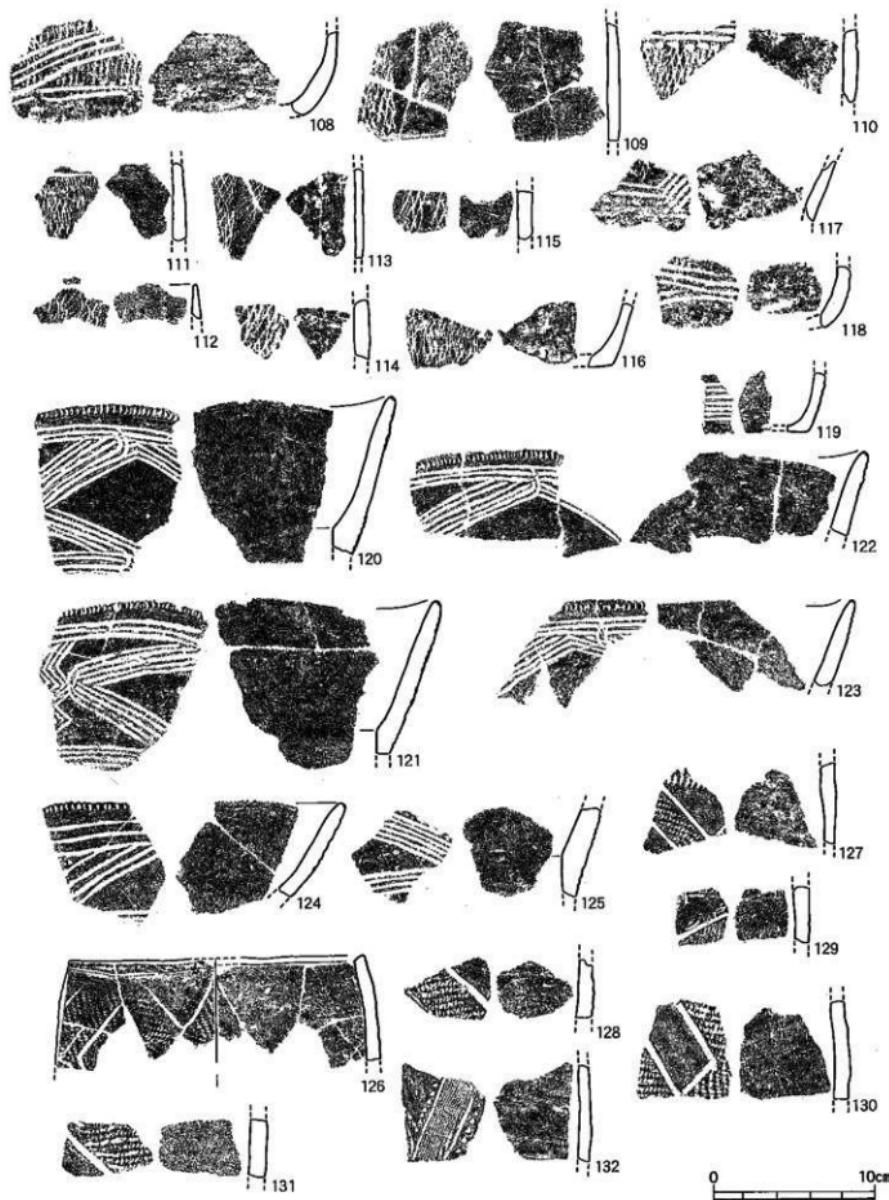
第23図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



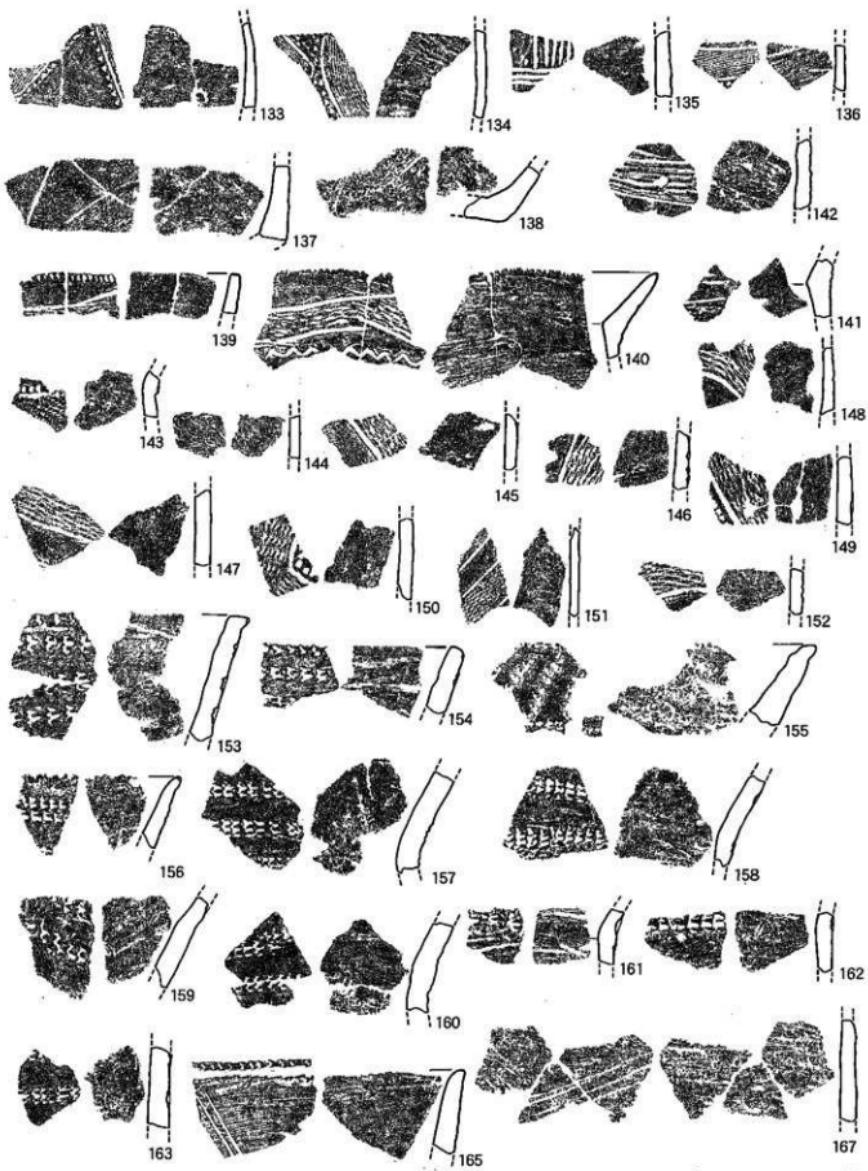
第24図 繩文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)



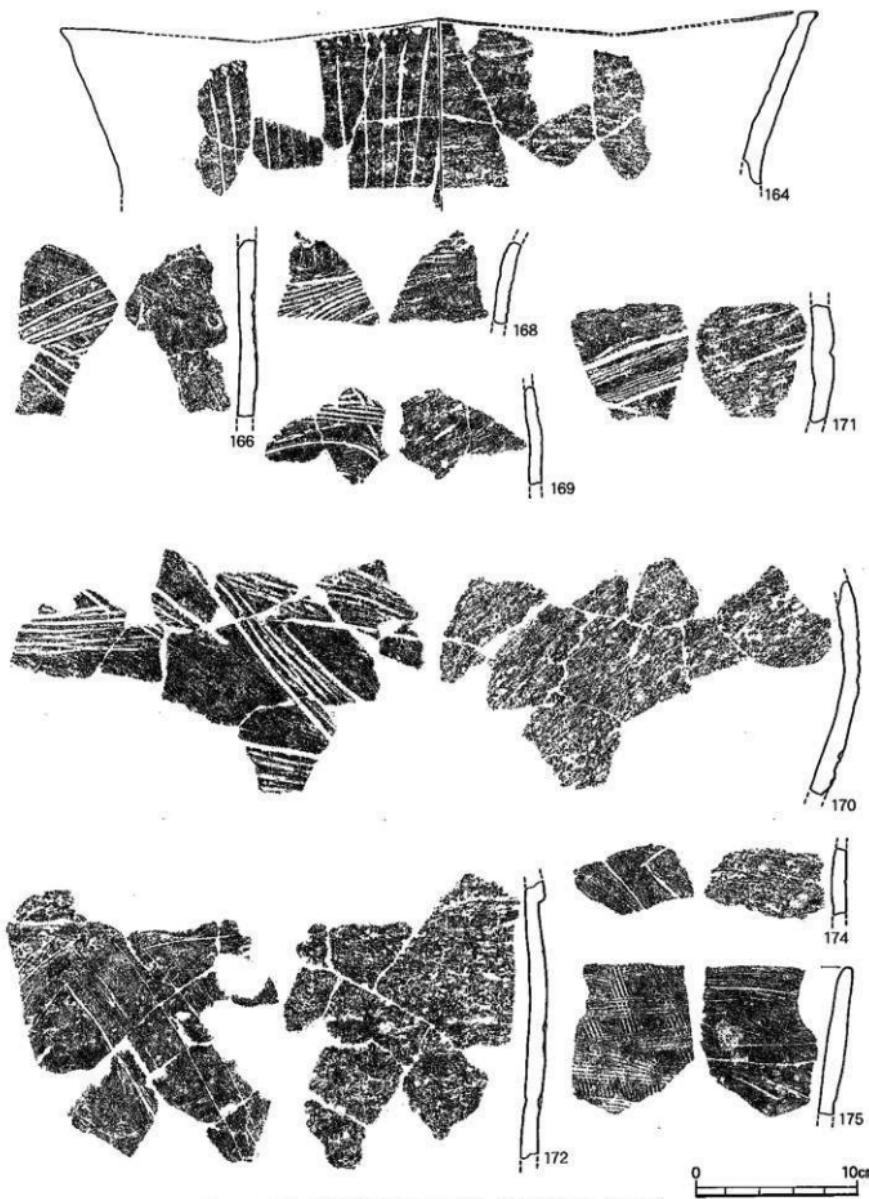
第25図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)



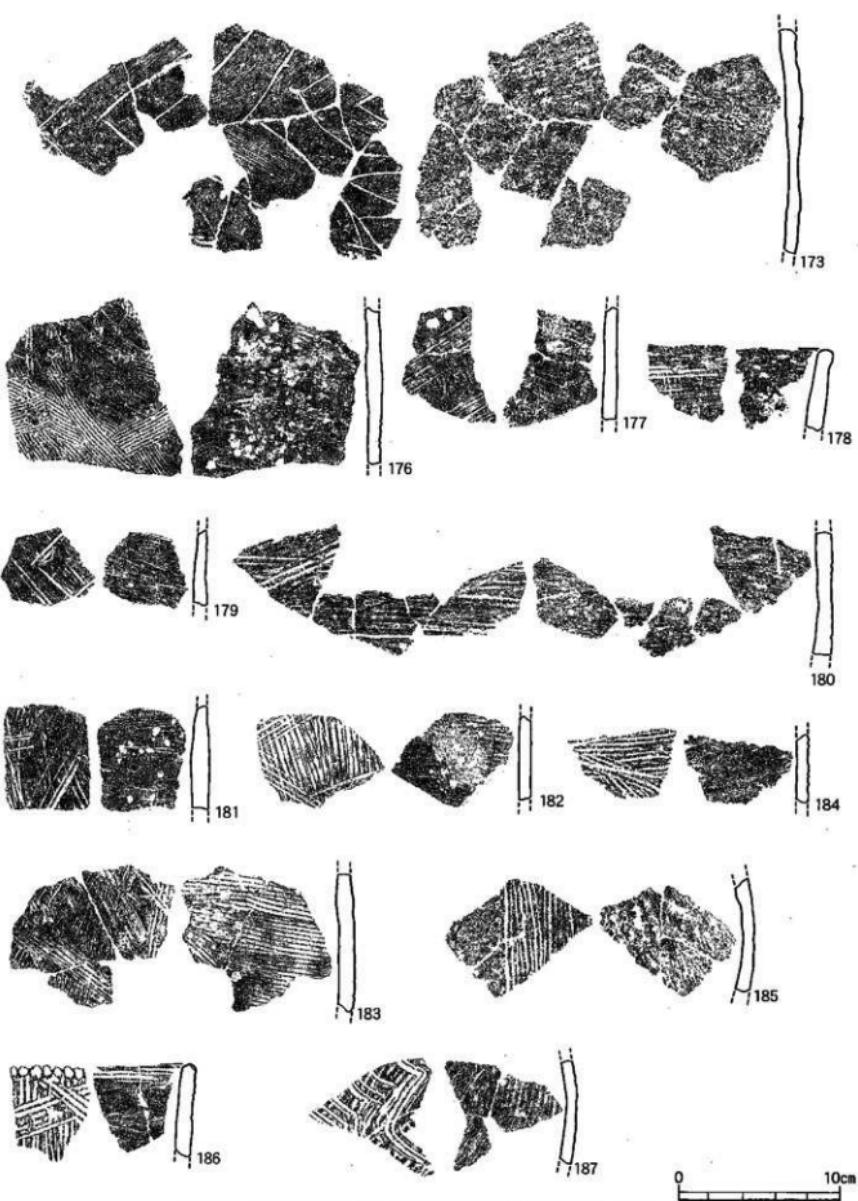
第26図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)



第27図 繩文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)



第28図 純文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)



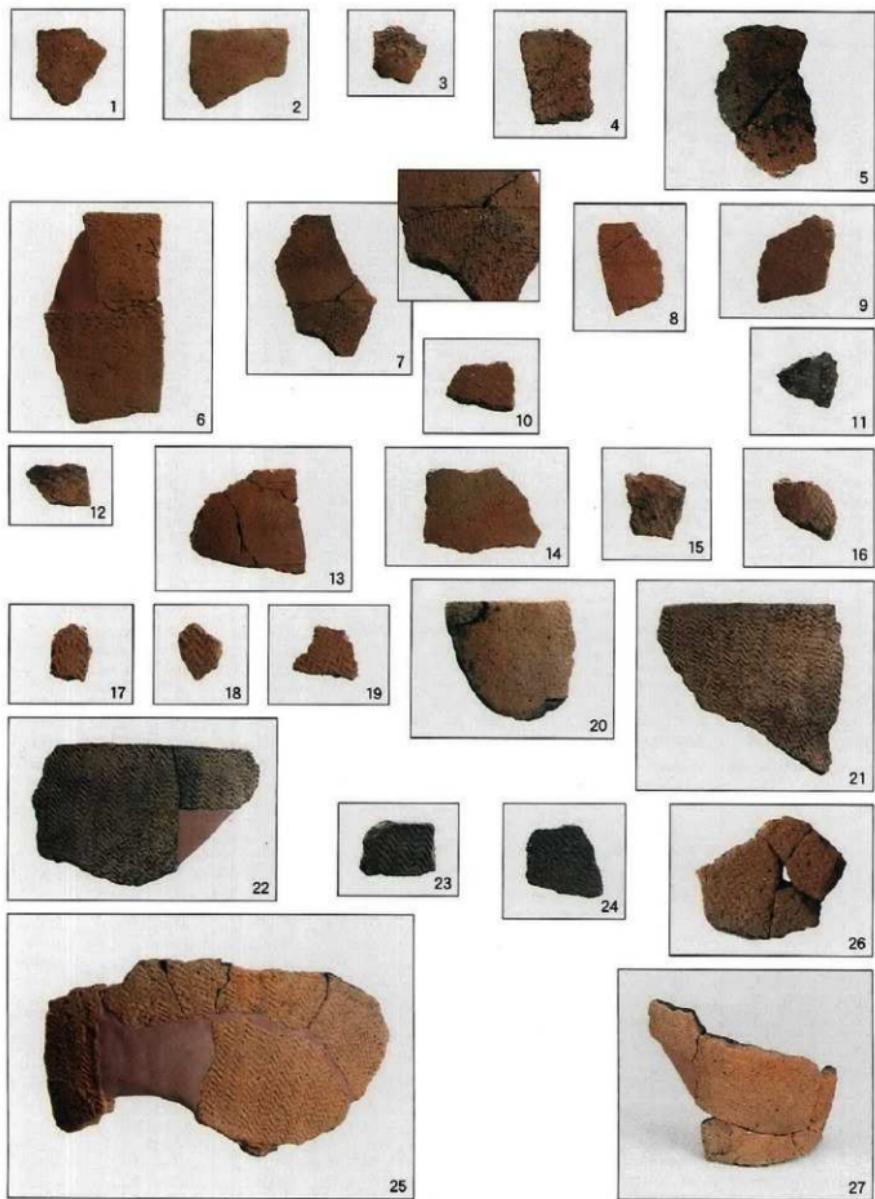
第29図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)

第6表 編文時代早期遺物包含層出土土器観察表

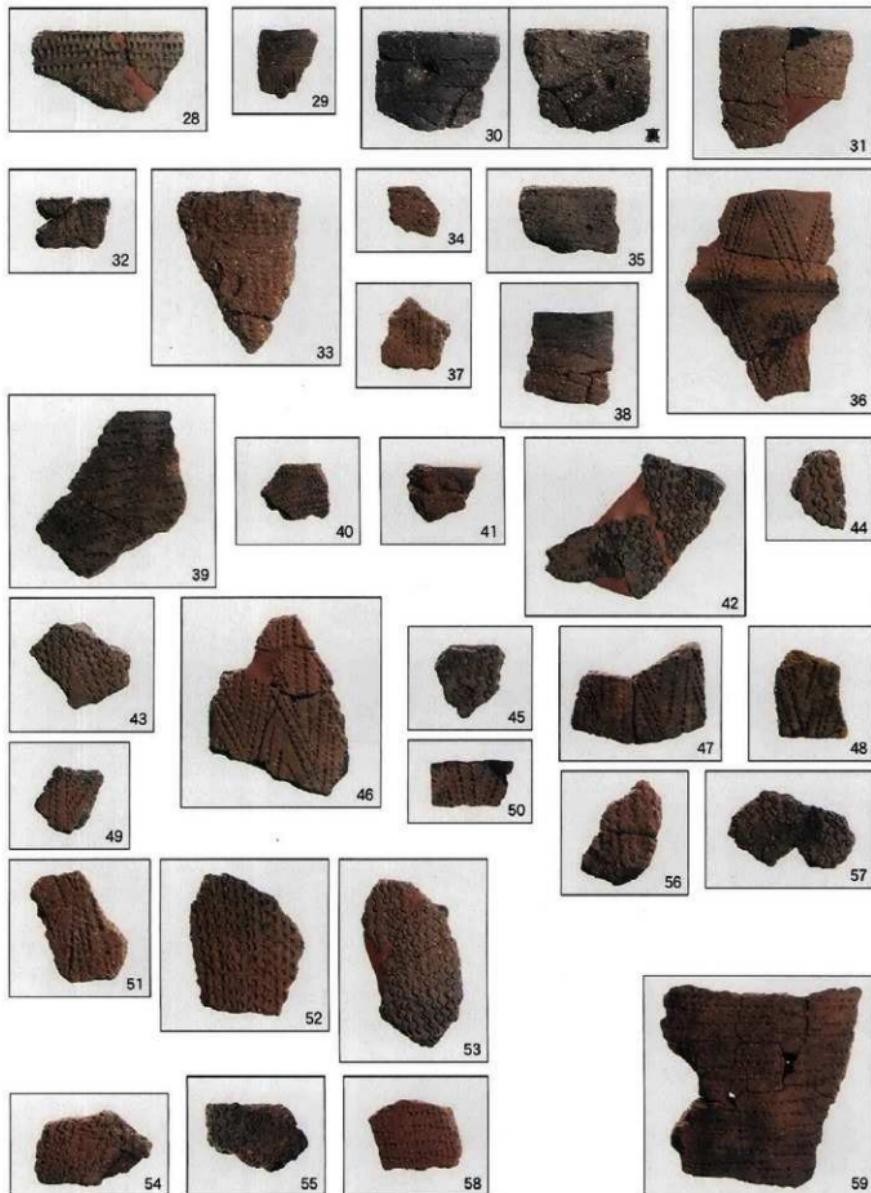
報告書 No	出土 位置	番号	部位	文様及び質點			色 調			施 土			備 考	索引 No
				外側	内側	外側	内側	施土	施土	施土	施土	施土		
1 4	深鉢	口縁		ナデ	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	336
2 4	深鉢	口縁		ナデ	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	335
3 4	深鉢	底部		ナデ	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	339
4 4	深鉢	口縁		ナデ	其鉛条文	TAYRS/2(黒)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	337
5 4	深鉢	肩部		其鉛条文	ナデ	TAYRS/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	338
6 3-4	深鉢	口縁-底部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	SYRKA/3(にじ・黒)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	57
7 4	深鉢	口縁	椎円押唇式(骨軋施文)	椎円押唇式(骨軋施文) ナデ	SYRKA/3(にじ・黒)	SYRKA/4(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	223
8 4	深鉢	口縁	椎円押唇式(骨軋施文)	椎円押唇式(骨軋施文) ナデ	SYRKS/4(にじ・黄)	TAYRS/4(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	222
9 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	59
10 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	SYRKS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	58
11 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	ZAYTR/4/1(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	61
12 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	60
13 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	SYRKS/4(にじ・黄)	TAYRS/4(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	224
14 4	深鉢	肩部	椎円押唇式(骨軋施文)	ナデ	SYRKS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	225
15 4	深鉢	口縁	山形押唇式	横状文	山形押唇式	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	44
16 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	50
17 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	52
18 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	51
19 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ	SYRKS/4(にじ・赤)	TAYRS/4(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	48
20 4	深鉢	口縁-新端	山形押唇式(骨軋施文)	カギ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	45
21 4	深鉢	口縁-肩部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	56
22 4	深鉢	口縁-底部	椎円押唇式(骨軋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	46
23 4	深鉢	口縁	山形押唇式	カギ	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	54
24 4	深鉢	肩部	山形押唇式	要束不規則(骨軋施文)	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	53
25 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	47
26 4	深鉢	肩部	山形押唇式	ナデ(押唇が無い)	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/4(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	48
27 3-4	深鉢	肩部-底部	山形押唇式	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	56
28 4	深鉢	口縁	山形押唇式	カギ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	56
29 4	深鉢	口縁	山形押唇式	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	100
30 4	深鉢	口縁	山形押唇式	カギ	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 外部に直通施文	101
31 4	深鉢	口縁-底部	直充文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	62
32 4	深鉢	口縁	直充文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/4(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	81
33 4	深鉢	口縁	直充文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	80
34 4	深鉢	口縁	直充文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	63
35 4	深鉢	口縁	直充文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	84
36 3-4	深鉢	口縁-底部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4(にじ・黄)	TAYRS/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	77
37 4	深鉢	口縁	刺史文(貝紋施文)	カズ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	66
38 4	深鉢	口縁	刺史文(貝紋施文)	カズ	TAYRS/2(にじ・黄)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	83
39 4	深鉢	口縁	刺史文(貝紋施文)	カズ	TAYRS/2(にじ・黄)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	79
40 4	深鉢	口縁	刺史文(貝紋施文)	カズ	TAYRS/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	78
41 4	深鉢	口縁	刺史文(貝紋施文)	カズ	TAYRS/2/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下 口唇部にカギ	82
42 3-4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	69
43 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	73
44 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	76
45 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	70
46 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	94
47 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/2(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	93
48 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ(押唇が無い)	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	86
49 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	89
50 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2(黒)	TAYRS/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	91
51 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/3(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	92
52 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	71
53 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	68
54 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	74
55 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/2(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	75
56 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/2(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	72
57 3-4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/1(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	67
58 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/3(にじ・黄)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	95
59 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/2(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	87
60 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/3(にじ・黄)	TAYRS/4/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	88
61 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	カギ	TAYRS/4/2(黒)	TAYRS/4/1(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	90
62 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/2(黒)	TAYRS/4/2(黒)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	85
63 4	深鉢	肩部	刺史文(貝紋施文)	ナデ	TAYRS/4/3(にじ・黄)	TAYRS/4/3(にじ・黄)	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ 1mm以下	99

出 土 場 所 No	部 位	文様及び調査				色 調				留 意 事 項 No	
		外 面		内 面		外 面		内 面			
		外 面	内 面	外 面	内 面	石 灰	鐵 灰	青 灰	赤 灰		
64 4 深鉢 朝部 刺突文(只斜線縞)	ミガ牛	7.5YR4/2(灰黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	97
65 4 深鉢 朝部 刺突文(只斜線縞)	ミガ牛	7.5YR4/2(灰黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	98
66 4 深鉢 朝部 刺突文(只斜線縞)	ナデ	5YR4/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	96
67 4 深鉢 朝部~底部 ミガ牛	ナデ	2.5YR4/4(にじみ-赤黒)	5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	221
68 4 深鉢 朝部~底部 ナテ?(刺突が強しい)	ナデ	5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	217
69 4 深鉢 朝部 流水文(只波状曲)	ミガ牛	5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	102
70 4 深鉢 口縁~側部 肩裏帯 斜文文 斜波文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	212
71 4 開鉢 口縫 沢文文 刺突文(進立文)	ナデ	5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	214
72 4 深鉢 口縁~側部 斜文文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	213
73 3-4 深鉢 朝部 斜文文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	216
74 4 深鉢 L脚 沢文文(只管状工具)	ナデ	10YR4/3(にじみ-赤黒)	10YR5/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	173
75 4 深鉢 口縫 沢文文 千足 波文(波状工具)	ナデ	10YR6/4(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	174
76 3-4 深鉢 口縫~側部 流水文 刺突文	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	169
77 4 深鉢 口縫 沢文文 刺突文	ナデ	10YR6/3(にじみ-赤黒)	2.5YR4/3(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	170
78 4 深鉢 口縫 波文 文字 千足	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	188
79 4 深鉢 朝部 流水文 刺突文	ナデ	5YR6/4(にじみ-赤黒)	7.5YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	192
80 3-4 深鉢 朝部 刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	200
81 3-4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR4/2(灰黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	189
82 4 深鉢 L脚 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	183
83 4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	185
84 4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	182
85 4 深鉢 口縫 文字 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	196
86 4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/2(灰黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	172
87 3-4 深鉢 L脚 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	184
88 4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	5YR5/6(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	187
89 4 深鉢 口縫 沢文文(4寸目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	186
90 4 深鉢 L脚 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR4/2(灰黒)	10YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	179
91 4 深鉢 口縫 波文書(キサギ目)	ナデ	5YR5/4(にじみ-赤黒)	5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	181
92 4 深鉢 口縫 波文書(キサギ目)	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	226
93 4 深鉢 口縫 波文書(キサギ目)	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	180
94 4 深鉢 口縫 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	10YR4/2(灰黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	178
95 4 深鉢 L脚 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	190
96 4 深鉢 朝部 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	195
97 4 金 朝部 波文書(キサギ目)	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	193
98 4 深鉢 朝部 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	191
99 4 深鉢 朝部 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	194
100 3-4 深鉢 口縫 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	177
101 4 金 口縫 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR5/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	175
102 3-4 金 口縫 斜文文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	176
103 4 深鉢 口縫~側部 斜文文 波文 文字	ナデ	10YR6/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	197
104 4 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	10YR6/4(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	198
105 3-4 深鉢 朝部 波文書(キサギ目) 波文 文字	ナデ	5YR5/3(にじみ-赤黒)	2.5YR5/1(基黒)	○	○	○	○	○	○	○	211
106 3 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	10YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	201
107 3-4 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	2.5YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	202
108 4 深鉢 朝部~底部 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	210
109 4 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	207
110 3 深鉢 朝部 波文 文字 波文文	ナデ	5YR5/4(にじみ-赤黒)	5YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	206
111 4 深鉢 朝部 波文 文字 波文文	ナデ	10YR5/4(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	146
112 4 深鉢 口縫 波文 文字	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	151
113 4 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	10YR5/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	203
114 3 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	10YR5/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	204
115 3 深鉢 朝部 波文 文字	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	2.5YR4/1(黄)	○	○	○	○	○	○	○	205
116 4 深鉢 朝部~底部 波文 文字	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	209
117 4 深鉢 朝部 波文文	ナデ	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	7.5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	199
118 4 深鉢 朝部~底部 波文文	ナデ	7.5YR6/4(にじみ-赤黒)	7.5YR4/1(黄)	○	○	○	○	○	○	○	206
119 3 深鉢 朝部~底部 波文文	ナデ	5YR5/2(灰黒)	10YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	220
120 4 深鉢 口縫~側部 波文文	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	166
121 4 深鉢 口縫~側部 波文文	ナデ	10YR5/2(灰黒)	2.5YR4/1(黄)	○	○	○	○	○	○	○	166
122 3-4 深鉢 L脚 波文文	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	10YR5/3(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	167
123 3-4 深鉢 口縫 波文文	ナデ	10YR5/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/1(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	168
124 4 深鉢 口縫 波文文	ナデ	7.5YR5/3(にじみ-赤黒)	5YR5/4(にじみ-赤黒)	○	○	○	○	○	○	○	171
125 4 金 朝部 波文文	ナデ	10YR6/3(にじみ-赤黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	164
126 3-4 金 口縫~側部 波文文	ナデ	5YR4/1(灰黒)	7.5YR4/2(灰黒)	○	○	○	○	○	○	○	117

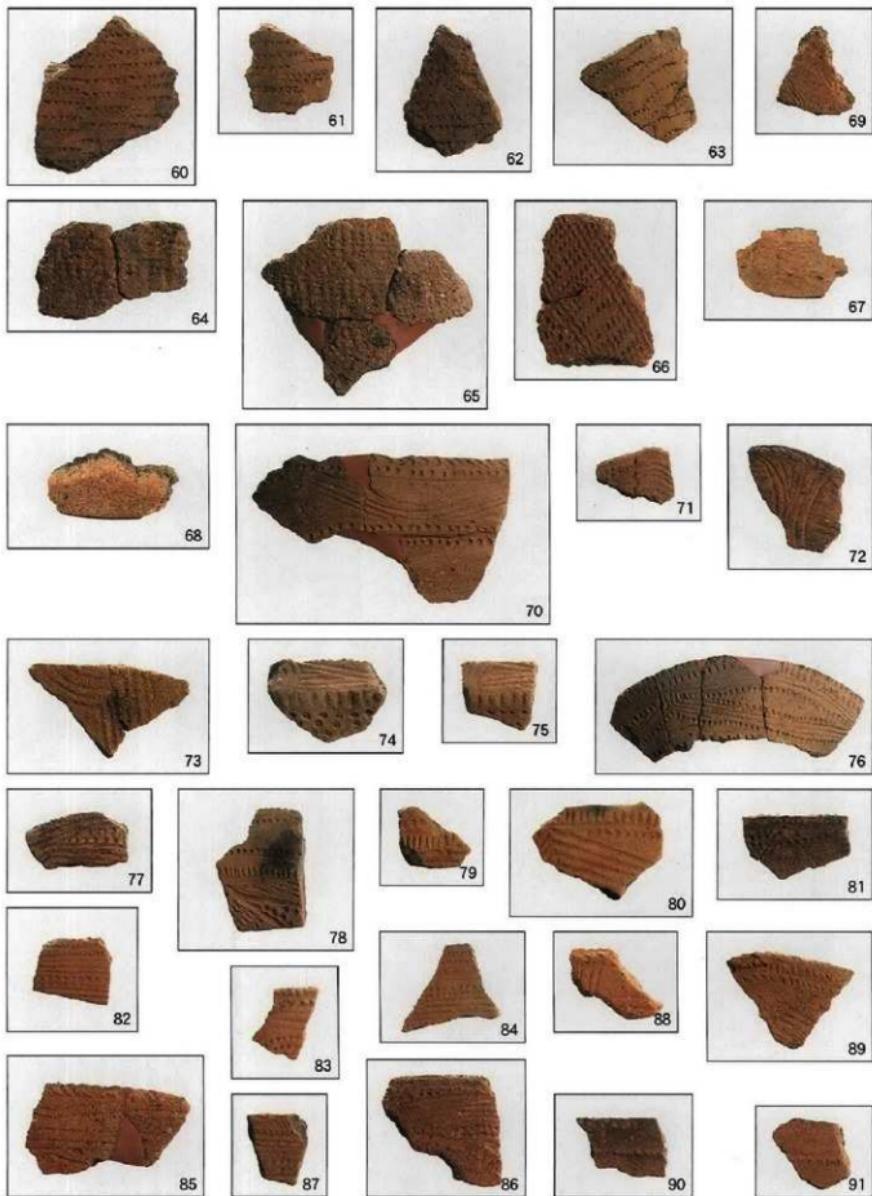
規格番号 No	所定部位 部位	基準 基準	文様及び調整		色調		施土				備考	表面 No
			外面	内面	外面	内面	表面	底面	カッターノズル	角鉄内石	砂粒	
127 4	溝跡	頭部	刺突文 沈線文 舞文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YRS/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		153
128 3	溝跡	頭部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YR/2(灰黒)	7.5YR/4(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下		158
129 4	溝跡	頭部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/4(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		166
130 4	溝跡	頭部	舞文 沈線文	ナデ	10YR/4/4(にじみ・黒)	10YR/2/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		165
131 3	溝跡	頭部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下		143
132 4	溝跡	頭部	舞文 沈線文 舞突文	ナデ	5YRS/3(にじみ・黒)	5YRS/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○4mm以下		132
133 3-4	溝跡	頭部	沈線文 沈線文 刺突文	ナデ	7.5YR/2/2(灰・黒)	5YRS/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○5mm以下	スス付番	134
134 4	溝跡	頭部	沈文 刺突文	ナデ	7.5YR/3(にじみ・黒)	7.5YR/2(灰・黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下		133
135 4	溝跡	頭部	沈文 沈線文	ナデ	10YR/3(にじみ・黒)	10YR/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		150
136 3	溝跡	頭部	沈線文 舞文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		131
137 4	溝跡	頭部・底部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YRS/4(にじみ・黒)	7.5YR/4(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		218
138 3	溝跡	頭部・底部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YRS/4(にじみ・黒)	10YR/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		219
139 4	溝跡	口縁	沈文 沈線文	ナデ	10YR/1(灰)	10YR/1(灰)	○ ○	○ ○		○2mm以下	L1標示にキテ目記	120
140 4	溝跡	L1縫→頭部	沈文 沈線文	ナデ	10YR/3(にじみ・黒)	10YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下	○頭部にキテ目記	118
141 4	溝跡	頭部	沈文 沈線文	ナデ	10YR/4(にじみ・黒)	7.5YR/4(灰)	○ ○	○ ○		○1mm以下		129
142 4	溝跡	頭部	沈線文 舞文?	ナデ	7.5YR/4(灰)	7.5YR/4(灰)	○ ○	○ ○		○4mm以下		162
143 3	溝跡	頭部→底部	沈文 沈線文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下		128
144 4	溝跡	頭部	沈文	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下	スス付番	152
145 4	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	7.5YR/4/2(灰黒)	10YR/4/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○3mm以下		161
146 3	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	7.5YR/4/1(灰)	5YRS/4(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○3mm以下		163
147 3	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	10YR/3(にじみ・黒)	10YR/1(灰)	○ ○	○ ○		○2mm以下		154
148 4	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	10YR/3/2(灰黒)	10YR/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○4mm以下		148
149 3	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	10YR/3/2(灰黒)	10YR/3/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○1mm以下		147
150 3	溝跡	頭部	熟文? 舞文? (点打)	ナデ	7.5YR/4/2(灰)	7.5YR/4/1(灰)	○ ○	○ ○		○1mm以下		159
151 3	溝跡	頭部	熟文? 舞文?	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○4mm以下		160
152 4	溝跡	頭部	熟文? 沈線文	ナデ	7.5YR/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○	○ ○		○2mm以下		157
153 3	溝跡	L1縫→頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	5YRS/4(にじみ・黒)	7.5YR/2(灰黒)	○ ○	○ ○		○6mm以下		131
154 4	溝跡	口縫	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/2(灰)	7.5YR/2(灰)	○ ○	○ ○		○7mm以下		122
155 4	溝跡	口縫	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/2(灰)	5YRS/4(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○6mm以下		215
156 4	溝跡	口縫	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	10YR/3/2(にじみ・黒)	10YR/3/2(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下	L1標示にキテ目記	123
157 3	溝跡	口縫	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YRS/3(にじみ・黒)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下		139
158 4	溝跡	頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/4/3(灰)	7.5YR/4/3(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下		127
159 3	溝跡	口縫→頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/3(にじみ・黒)	10YR/5/2(灰黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○1mm以下		136
160 4	溝跡	頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/4/2(灰)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○5mm以下		138
161 4	溝跡	頭部	刺突文 (貝紋模様) 沈線文	ナデ	7.5YR/4/2(灰)	7.5YR/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○6mm以下		130
162 3	溝跡	頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	10YR/3/2(にじみ・黒)	7.5YR/4/4(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○4mm以下		135
163 4	溝跡	頭部	刺突文 (貝紋模様)	ナデ	7.5YR/3/2(にじみ・黒)	7.5YR/7/1(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下		137
164 3-4	溝跡	口縫→頭部	沈線文	ナデ	7.5YR/4/4(にじみ・黒)	7.5YR/6/4(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○7mm以下	L1標示にキテ目記 並び目記	116
165 4	溝跡	口縫→頭部	貝紋朱痕→ナデ 沈線文	ナデ	10YR/5/3(灰黒)	10YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○4mm以下	L1標示にキテ目記	119
166 4	溝跡	頭部	沈線文	ナデ	7.5YR/5/4(にじみ・黒)	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○6mm以下		144
167 3	溝跡	頭部	沈線文	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	10YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○4mm以下		145
168 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕→ナデ	ナデ	7.5YR/5/1(灰)	10YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下		142
169 4	溝跡	頭部	沈線文 貝紋朱痕	ナデ	10YR/5/3(灰)	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下		140
170 3-4	溝跡	頭部	沈線文 貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/4(にじみ・黒)	7.5YR/5/4(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○7mm以下		126
171 4	溝跡	頭部	沈線文 貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○7mm以下		141
172 3-4	溝跡	頭部	貝紋朱痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○4mm以下		124
173 3-4	溝跡	頭部	貝紋朱痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		スス付番		125
174 4	溝跡	頭部	貝紋朱痕→ナデ 沈線文	ナデ	7.5YR/4/2(灰)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○5mm以下		149
175 3	溝跡	口縫→頭部	貝紋朱痕	ナデ	10YR/4/1(灰)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○1mm以下	質化物付番	104
176 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/3(にじみ・黒)	5YRS/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下		114
177 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/3/3(にじみ・黒)	2.5Y/1(黄)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下		108
178 3	溝跡	口縫→頭部	貝紋朱痕	ナデ	10YR/5/3(灰)	7.5YR/4/1(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下		105
179 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕→ナデ	ナデ	7.5YR/4/2(灰)	10YR/4/1(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○1mm以下	質化物付番	109
180 4	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	SYR/4/2(灰)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○3mm以下		115
181 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/4(にじみ・黒)	10YR/5/2(灰黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○4mm以下		107
182 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/4(にじみ・黒)	7.5YR/5/4(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下		112
183 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○1mm以下		113
184 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	10YR/5/3(にじみ・黒)	10YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○5mm以下		106
185 4	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	10YR/4/1(灰)	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	○ ○ ○	○ ○ ○		○6mm以下		111
186 3	溝跡	口縫→頭部	貝紋朱痕 今治市(海作工具)	ナデ	7.5YR/4/1(灰)	7.5YR/4/2(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○1mm以下		103
187 3	溝跡	頭部	貝紋朱痕	ナデ	7.5YR/5/3(にじみ・黒)	7.5YR/4/1(灰)	○ ○ ○	○ ○ ○		○2mm以下	質化物付番	110



写真図版14 繩文時代早期遺物包含層出土土器①



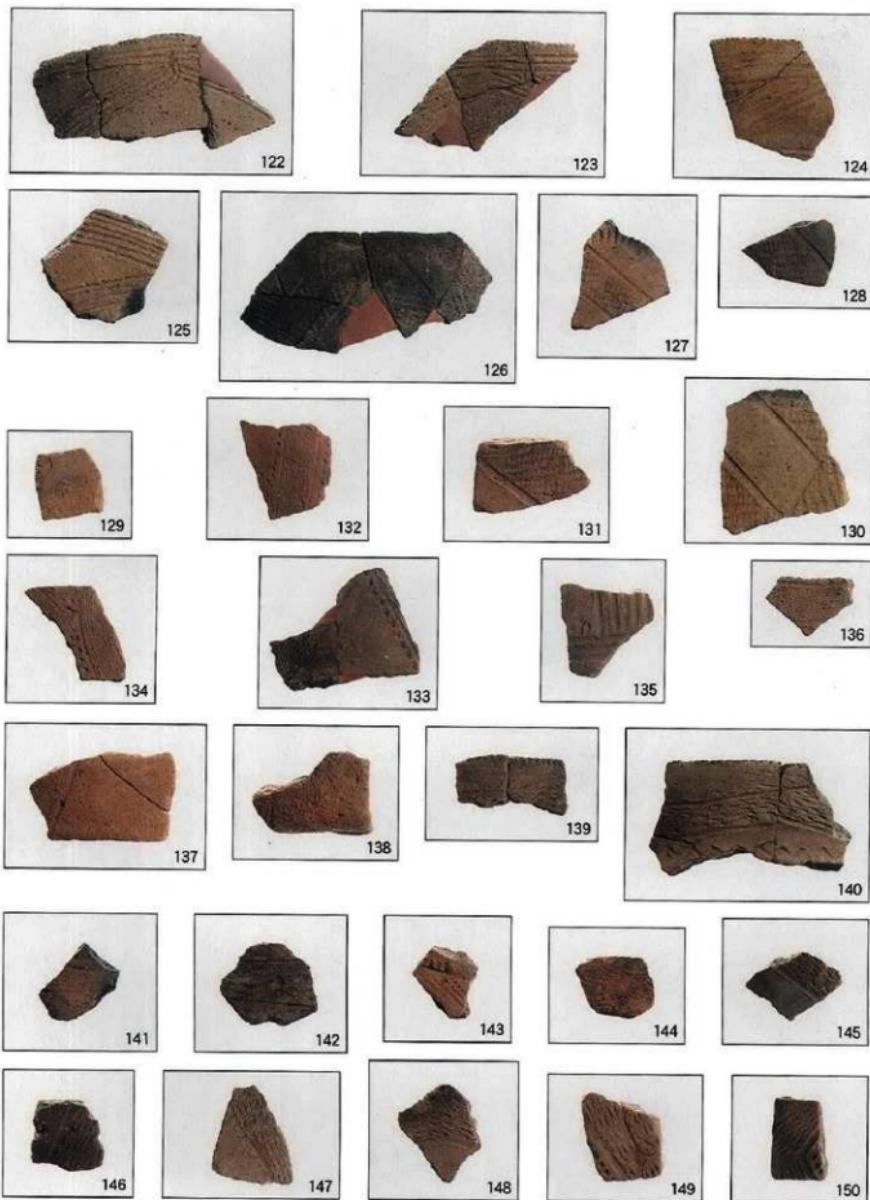
写真図版15 繩文時代早期遺物包含層出土土器②



写真図版16 織文時代早期遺物包含層出土土器③



写真図版17 繩文時代早期遺物包含層出土土器④



写真図版18 繩文時代早期遺物包含層出土土器⑤



写真図版19 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥



写真図版20 楚文時代早期遺物包含層出土土器②

2. 石器

縄文時代早期の遺物包含層中より1624点の石器が出土した。ここではその中で製品類を中心に報告を行う。なお、石器の整理作業に当たっては從来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類を行った。器種分類については本報告による分類作業であり、他の遺跡と共通するものではない。

石鎚 (188~268)

剥片を素材とし、両面調整や半両面調整により鋭い先端部を作り出し、平面形がおむね三角形や五角形を想定せるもの。欠損品も含め総数で113点出土している。平面形状や加工状況により以下のように細分した。

- ・ 1 類 (188~193) : 平面形は正三角形か二等辺三角形で1.5cm四方におさまるもの。姫島産黒曜石の使用が目立つ。総数で6点出土している。
- ・ 2 類 (194~195) : 扱りが浅く下半部に最大幅を持ち、その付近から屈曲し全体の形状が五角形を呈するものの。いわゆる帖地型石鎚に該当する。2点出土している。
- ・ 3 類 (196) : 脚部の扱りが深く、平面形が将棋の駒のような形状を呈するもの。1点出土している。
- ・ 4 類 (197~226) : 特徴的な扱り・脚部を呈するもの。いわゆる鎌形鎚に該当する。総数で36点出土している。チャートの使用が目立つ。
- ・ 5 類 (227~236) : 片面又は両面の加工が周縁部のみにとどまり、素材剥片の形状を大きく残すもの。一部には石鎚の未製品も含まれている可能性が考えられる。チャートの使用が目立つ。総数で10点出土している。
- ・ 6 類 (237~249) : 1~5類の分類に当てはまらず扱りのないもの、浅いものをまとめた。総数で15点出土している。237は頁岩製で体部が鋸歯状を呈している。
- ・ 7 類 (250~266) : 1~5類の分類に当てはまらず扱りの深いものをまとめた。総数で25点出土している。
- ・ 欠損品 (267・268) : 残存状況が悪く、分類作業ができるないものをまとめた。総数で18点出土している。

石鎚未製品 (269~278)

剥片を素材とし、石鎚とはほぼ同規模で両面調整や半両面調整によって平面形が三角形や橢円形を呈するもの。石鎚に比べ先端部が鈍いものや全体が分厚いもの、加工が未熟なものなどをまとめた。一部には石鎚や5類の石鎚を含んでいる可能性が考えられる。総数で10点出土している。

尖頭状石器 (279)

剥片を素材とし、粗い両面調整や半両面調整により先端部と基部を作り出すもの。石鎚よりは規模が大きい。2点出土している。279はホルンフェルス製で素材剥片の形状を大きく残している。基部はボジ面からの調整により作り出し、先端部は両面からの調整により作り出している。

石鎚 (280~284)

剥片を素材として、両面調整・半両面調整または素材の一部に調整を施し、錐部を作り出したもの。総数で7点出土している。以下の2種類に細分が可能である。

- ・ 1類 : 押圧剥離により素材の全面に調整を施すもの。石鎚の未製品を含む可能性が考えられる (280・283)。
- ・ 2類 : 素材剥片の一部にだけ調整を施して錐部を作り出すもの (281・282・284)。

スクレイパー (285~289)

剥片を素材として縁辺に連続的な調整をおこなって刃部を作り出したもの。刃部調整は周縁部にとどまる。総数で13点出土している。

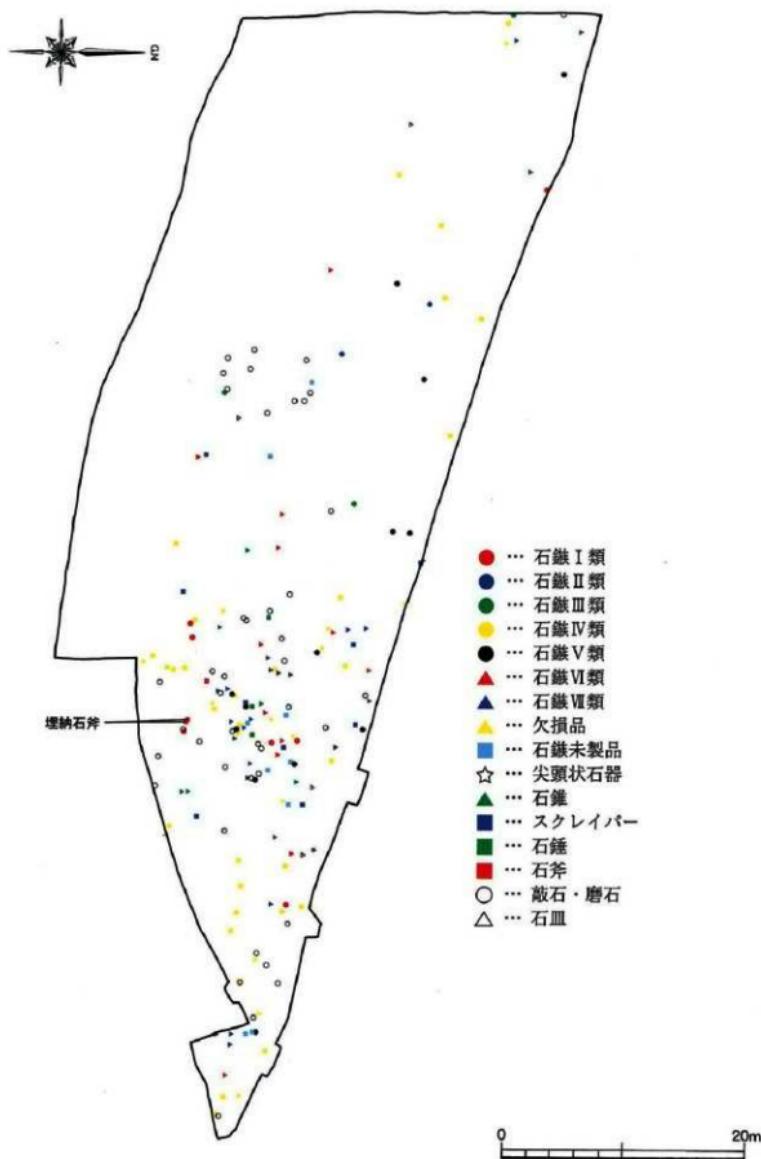
剥片 (290) 砕片 石核 (291~294)

剥片は剥片を素材として、まったく二次加工が施されていないものや調整は施されているが、その意図が不明瞭なものをまとめた。また砕片は1cm四方に収まるものを分類した。石核は礫又は剥片を素材とするが、形態を整えるためとはみなしがたいネガティブな剥離面だけを持つものを分類している。

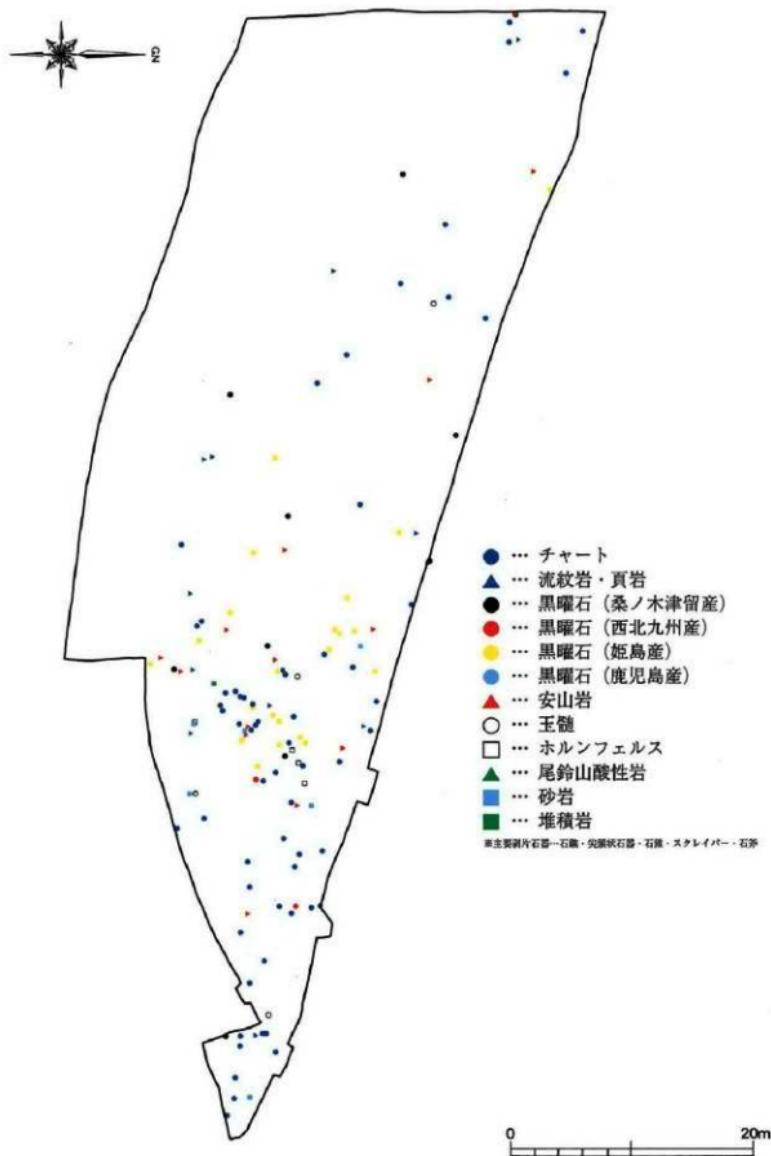
遺物包含層中より出土した剥片・砕片・石核をあわせた数量を石材ごとに以下に記載する。頁岩・流紋岩155点・6018.8g、チャート945点・3049.2g(チャートについては分割磾も含んでいます)。砂岩57点・2839.2g、黒曜石(桑ノ木津留産63点・71.7g、姫島産102点・95.1g、西北九州産51点・56.9g、鹿児島県産16点・22.6g)。サヌカイト・安山岩18点・114.8g、尾鈴山矽性岩2点・26.6g、玉髓4点・2.1g、その他7点・51.2g。

石斧 (295~298)

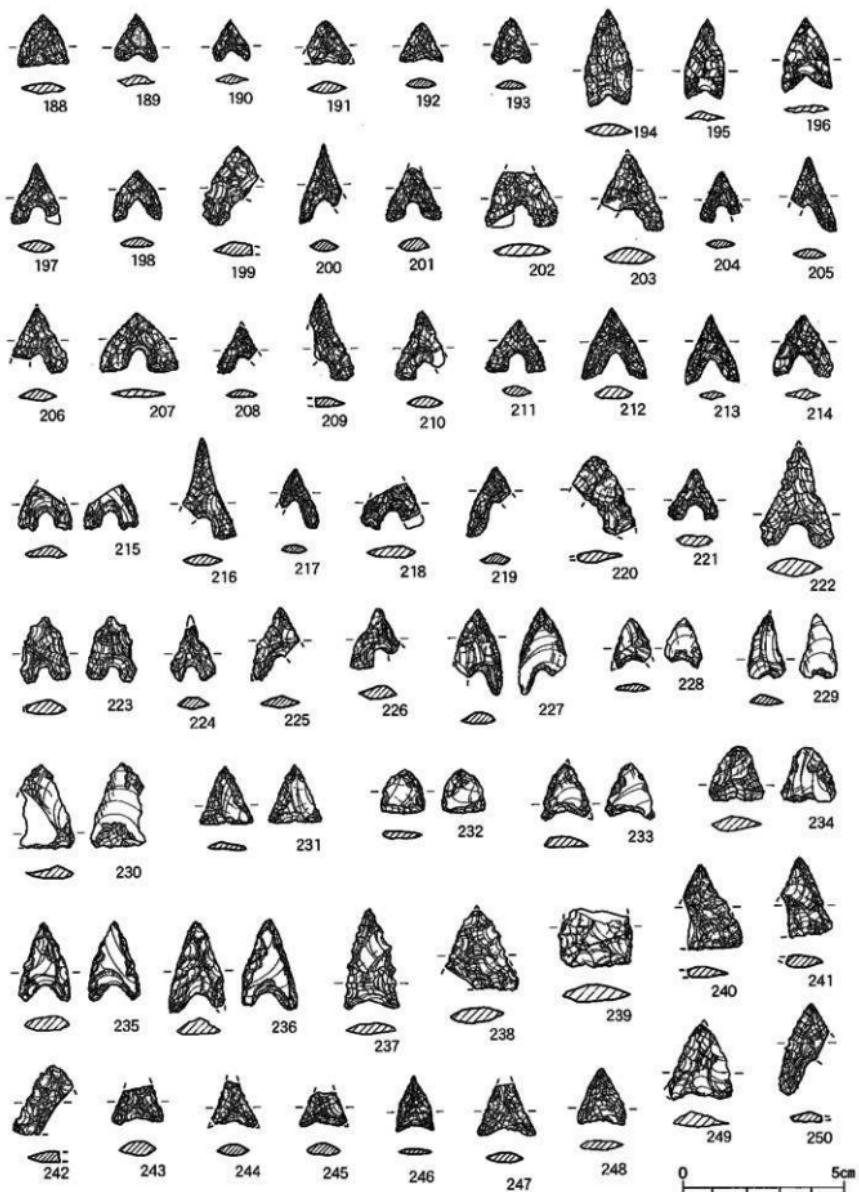
剥片または縦長の礫を素材とし、その短辺に刃部を形成するもの。平面形は四角形又は五角形を呈する。



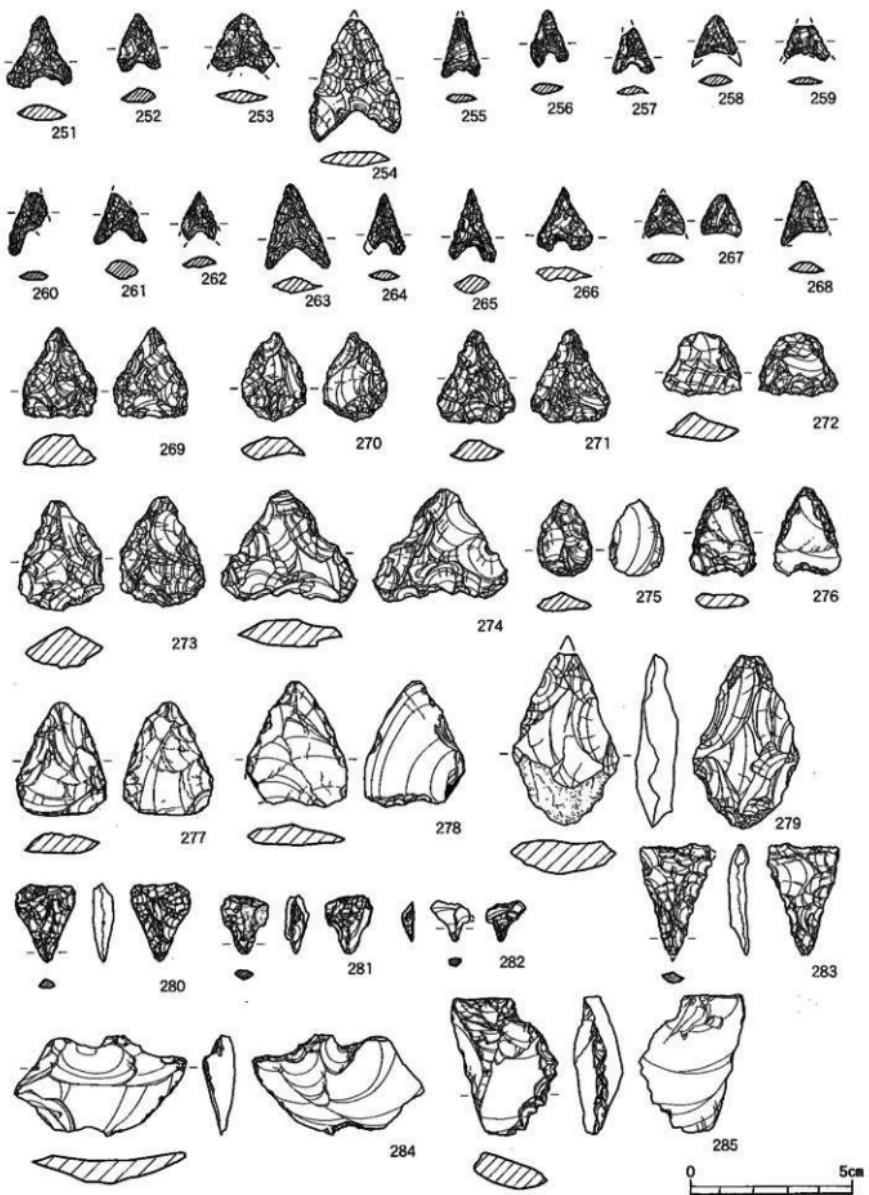
第30図 縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図【器種別】(S=1/400)



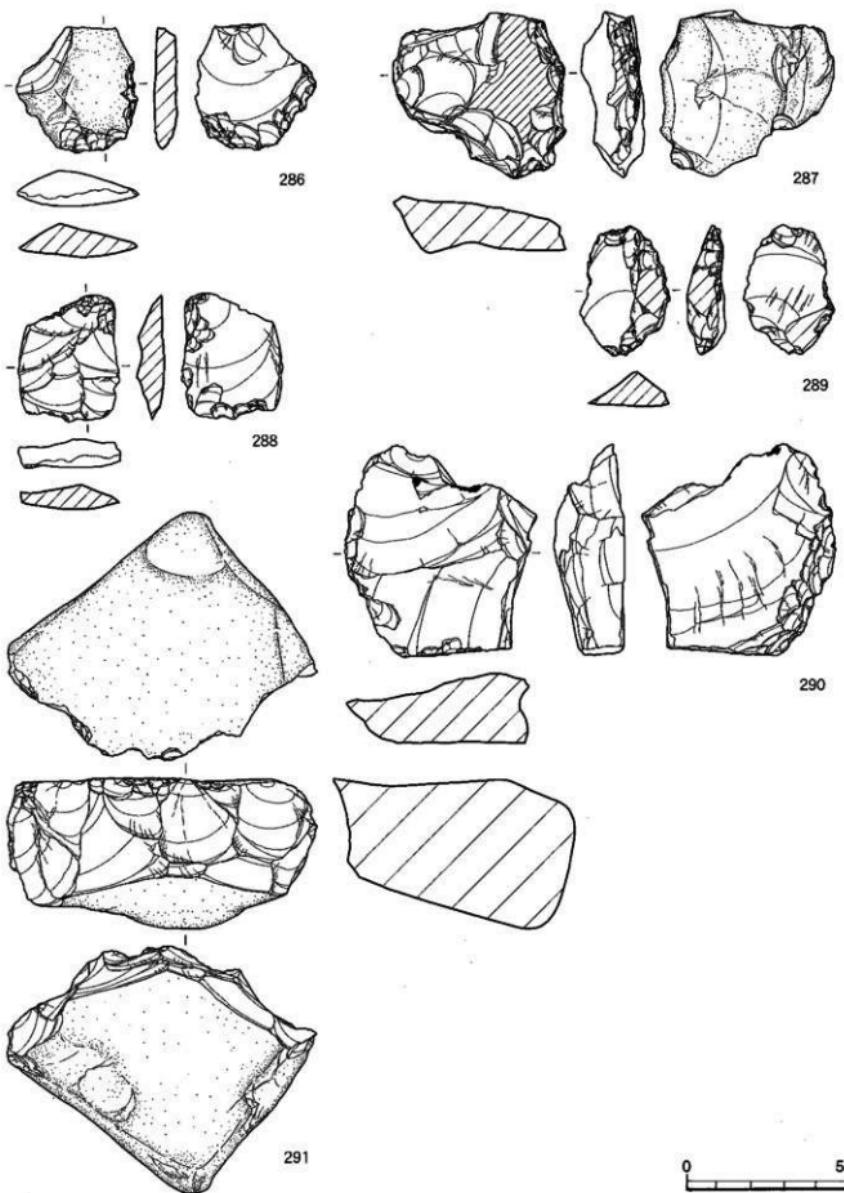
第31図 繩文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1/400)



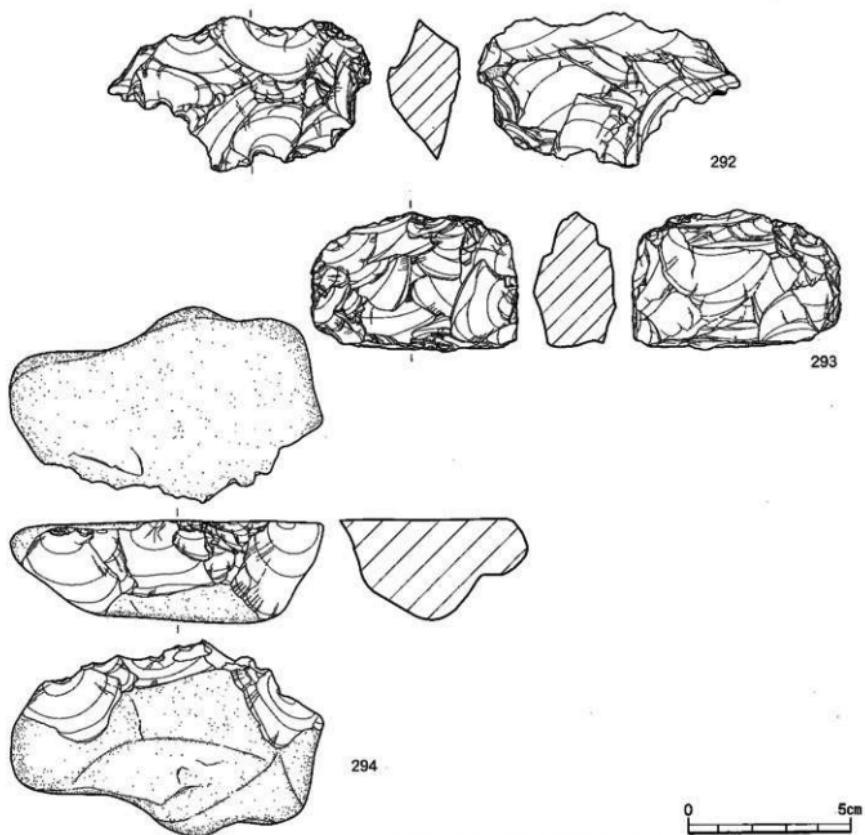
第32図 繩文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



第33図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S-2/3)



第34図 繩文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



第35図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)

総数で4点の完存品が出土した。そのうち295と296は密接した状態で見つかった。そのためこの2点の石斧を納めた掘り込みの存在を考え、平面精査とサブトレンチによる土層観察をおこなったが掘りこみを検出することはできなかった。しかし、その出土状況からは埋納石斧の可能性が高いと考えられる（巻頭カラー-2を参照）。

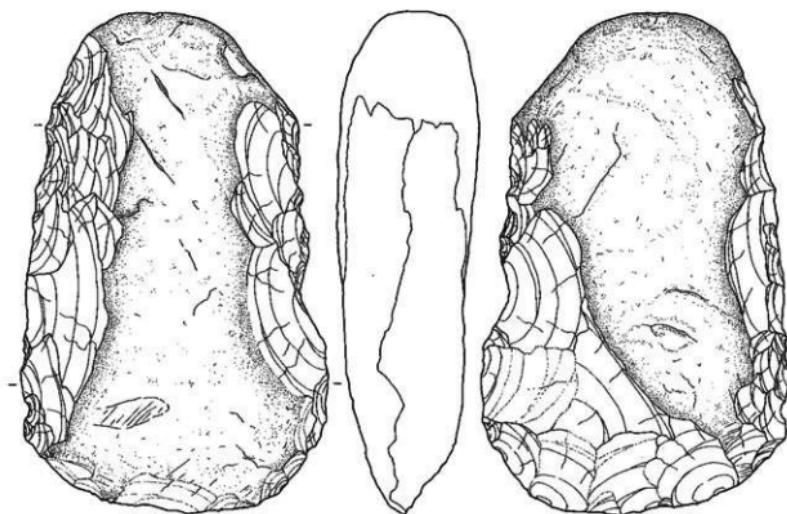
297は尾鈴山酸性岩製である。295～297は研磨の痕跡が不明瞭である。しかし、3点とも使用によるためか研磨を施しているために刃部付近の剥離面の稜線は不明瞭になっている。

礫石錐 (299～301)

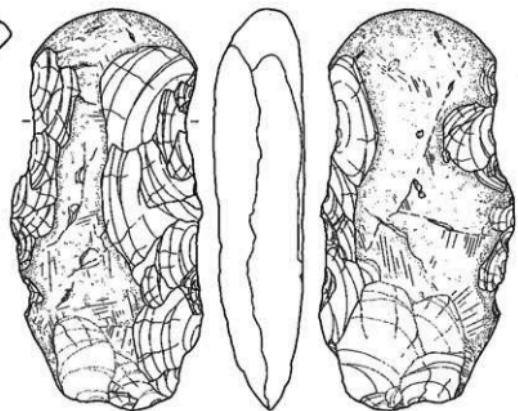
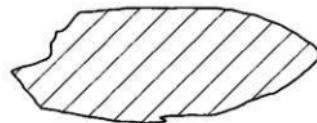
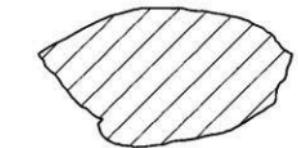
円錐を素材として対相する二箇所に加工を施し、そこに紐をかけられるような抉り部を作り出しているもの。3点出土しており、いずれも砂岩製である。

砾石・磨石 (302～311)

砾石は砾を素材として、その一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものとの推定されるくぼみを持つものを分類した。磨石は円錐の平らな面の片面または両面に平滑な面を持つものを分類した。総数で48点出土している。砂岩の使用が目立つが尾鈴山酸性岩製のものもみられる。素材砾の形状や使用痕の在り方から以下のように細分される。



295

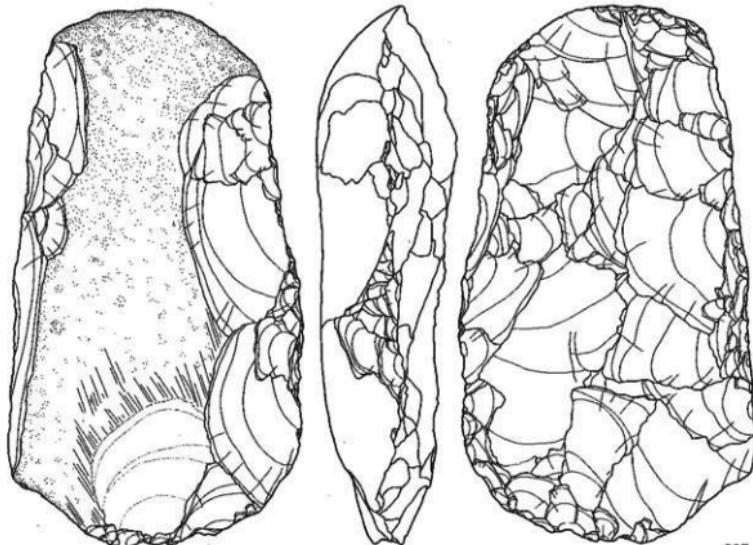


296

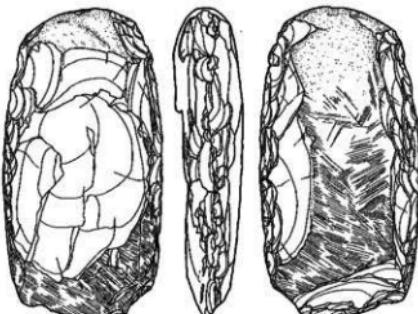
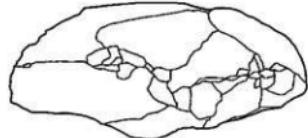


0 5cm

第36図 繩文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



297



298

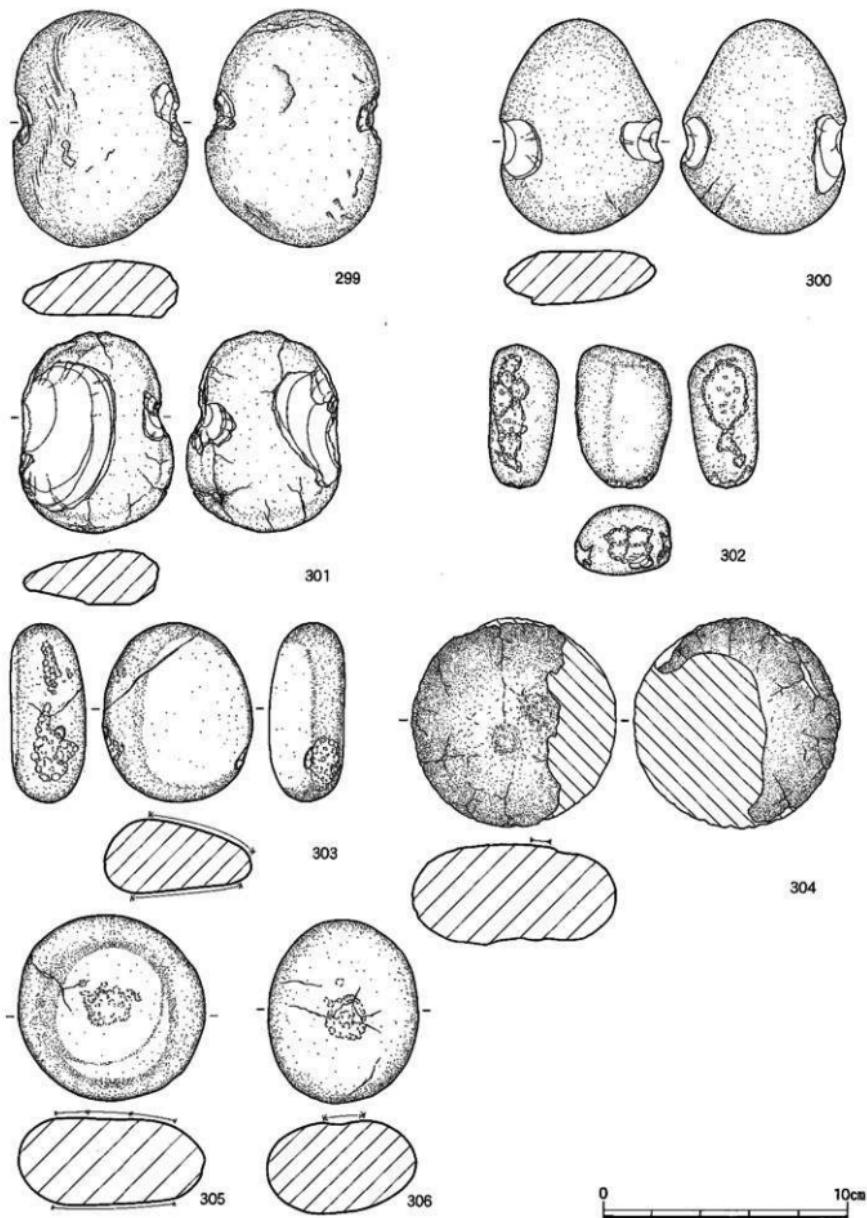


第37図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)

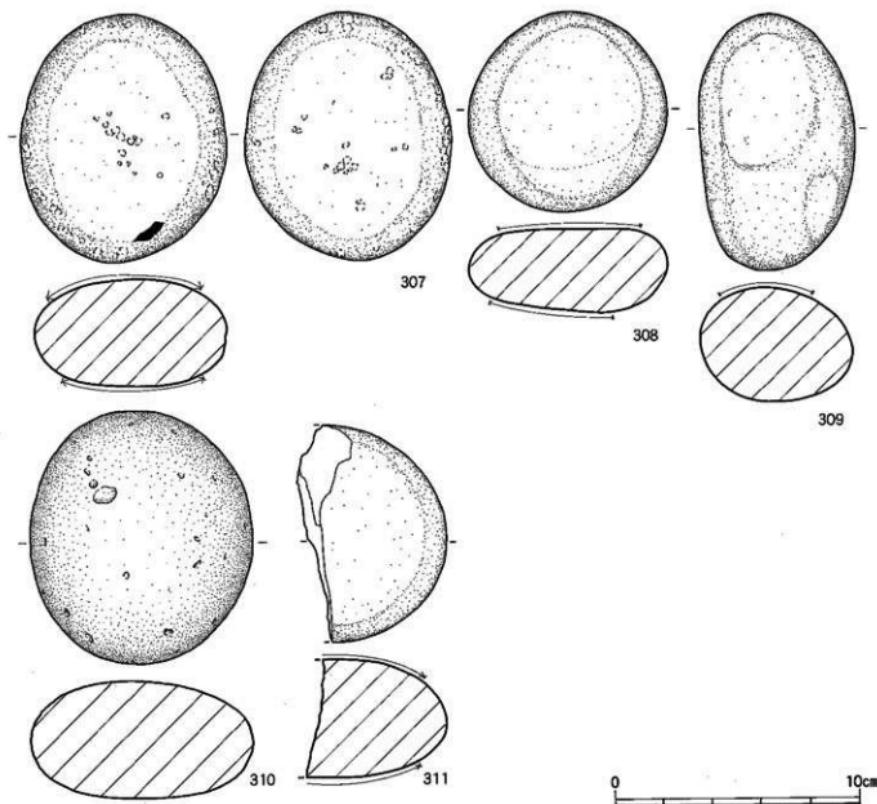
- ・1類：円碟及び角碟の側面に敲打の痕跡が確認されるもの（302・303）。敲石に分類される。
- ・2類：円碟の平坦面に敲打の痕跡が確認されるもの（304～306）。敲石（凹み石）に分類される。
- ・3類：円碟の平坦面に平滑な面が確認されるもの（307～311）。平滑面には敲打痕が見られるものもあり、敲石として兼用されたものも含む。磨石に分類される。310・311は尾鈴山酸性岩製である。

石皿（図版25の下段を参照）

大型の碟を素材として、その平坦面に平滑な面やくぼんだ滑らかな面を持つもの。総数で4点出土している。すべて砂岩製である。



第38図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=1/2)



第39図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=1/2)

第7表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

報告書 No	実測 No	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
188	269	打製石錐	C	VI	チャート	1.6	1.6	0.3	0.7	I類
189	30	打製石錐	D	VI	黒曜石(尾尾)	1.4	1.35	0.35	0.4	I類
190	26	打製石錐	A	V	黒曜石(矩鳥)	1.3	1.1	0.25	0.3	I類
191	279	打製石錐	C	VI	黒曜石(矩鳥)	1.35	(1.3)	0.35	(0.5)	I類 脚部欠損
192	249	打製石錐	D	VI	黒曜石(矩鳥)	1.2	1.3	0.25	0.3	I類
193	236	打製石錐	D	V	黒曜石(矩鳥)	1.4	1.2	0.2	0.3	I類
194	248	打製石錐	B	VI	玉髓	3.0	1.45	0.35	1.3	II類
195	37	打製石錐	B	VI	チャート	2.45	1.2	0.25	0.8	II類
196	34	打製石錐	C	VI	チャート	2.3	1.5	0.2	0.6	III類
197	277	打製石錐			チャート	1.85	(1.45)	0.35	(0.6)	IV類 脚部欠損
198	241	打製石錐	A	VI	チャート	1.55	1.5	0.3	0.6	IV類
199	258	打製石錐	C	VI	チャート	2.4	(1.7)	0.4	(1.3)	IV類 脚部欠損

() の値は残存値を示す

報告書 No	実測 No	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
200	253	打製石鎌	A	VI	チャート	2.45	(1.3)	0.35	(0.7)	IV類 脚部欠損
201	255	打製石鎌	D	VI	チャート	(1.6)	1.7	0.35	(0.7)	IV類 先端部欠損
202	257	打製石鎌	D	VI	チャート	(1.7)	(2.2)	0.35	(1.3)	IV類 先端・脚部欠損
203	254	打製石鎌	C	V	チャート	(2.35)	(1.85)	0.5	(1.5)	IV類 先端・脚部欠損
204	271	打製石鎌	D	VI	チャート	1.55	(1.2)	0.25	(0.3)	IV類 脚部欠損
205	251	打製石鎌	C	V	チャート	2.3	(1.4)	0.3	(0.6)	IV類 脚部欠損
206	276	打製石鎌	D	VI	チャート	(2.0)	(1.7)	0.35	(0.8)	IV類 先端・脚部欠損
207	272	打製石鎌	D	VI	チャート	1.8	2.4	0.25	0.9	IV類
208	230	打製石鎌	D		チャート	(1.45)	(1.25)	0.2	(0.3)	IV類 先端・脚部欠損
209	242	打製石鎌	D	V	チャート	2.65	(1.3)	0.3	(0.7)	IV類 脚部欠損
210	233	打製石鎌	D	VI	チャート	2.1	(1.5)	0.3	(0.7)	IV類 脚部欠損
211	31	打製石鎌	D	VI	チャート	1.6	1.85	0.3	0.7	IV類
212	13	打製石鎌	C	V	チャート	2.15	2.0	0.35	0.9	IV類
213	38	打製石鎌	B	VI	チャート	1.15	1.1	0.25	0.7	IV類
214	27	打製石鎌	A	VI	チャート	1.9	1.8	0.3	0.8	IV類
215	275	打製石鎌	D	VI	チャート	(1.35)	1.65	0.35	(0.6)	IV類 先端部欠損
216	273	打製石鎌	D	VI	頁岩	3.1	(1.6)	0.3	(0.9)	IV類 脚部欠損
217	234	打製石鎌	A	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	(1.2)	0.25	(0.3)	IV類 先端部欠損
218	262	打製石鎌	D	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	(1.8)	0.35	(0.7)	IV類 先端・脚部欠損
219	267	打製石鎌	D	VI	安山岩	2.15	(1.35)	0.3	(0.6)	IV類 脚部欠損
220	260	打製石鎌	D	VI	安山岩	2.4	(1.9)	0.35	(1.1)	IV類 脚部欠損
221	28	打製石鎌	D	VI	チャート	1.3	(1.5)	0.35	(0.6)	IV類 脚部欠損
222	14	打製石鎌	D	VI	チャート	(3.1)	2.25	5.5	(2.2)	IV類 先端部欠損
223	281	打製石鎌	C	VI	黒曜石(姫島)	2.05	1.55	0.45	(0.9)	IV類 側面欠損
224	244	打製石鎌	D	VI	安山岩	(1.15)	1.4	0.35	(0.6)	IV類 先端部欠損・磨滅あり
225	246	打製石鎌	A	V	安山岩	2.2	(1.45)	0.35	(0.7)	IV類 脚部欠損
226	235	打製石鎌	D	VI	安山岩	1.85	(1.55)	0.4	(0.7)	IV類 脚部欠損・磨滅あり
227	280	打製石鎌	D	VI	チャート	2.65	(1.5)	0.35	(1.1)	IV類 脚部欠損
228	286	打製石鎌	D	VI	チャート	1.55	(1.1)	0.2	(0.3)	IV類 脚部欠損
229	283	打製石鎌	C	VI	チャート	(2.0)	1.15	0.3	(0.5)	IV類 先端部欠損
230	287	打製石鎌	D	V	チャート	2.6	1.7	0.4	(1.3)	IV類 側面欠損
231	282	打製石鎌	B	VI	チャート	1.8	1.6	0.25	0.6	IV類
232	293	打製石鎌	C	VI	チャート	1.35	1.35	0.25	0.6	IV類
233	284	打製石鎌	C	V	黒曜石(姫島)	(1.75)	(1.5)	0.3	(0.8)	IV類 先端・脚部欠損
234	340	打製石鎌	D	V	黒曜石(姫島)	1.7	1.7	0.45	0.8	V類
235	39	打製石鎌	D	VI	砂岩	2.4	1.6	0.4	1.2	V類
236	40	打製石鎌	B	VI	安山岩	2.8	1.75	0.5	1.3	V類
237	15	打製石鎌	C	VI	頁岩	3.1	1.5	0.45	1.2	V類
238	252	打製石鎌	D	VI	チャート	(2.45)	(2.3)	0.5	(2.2)	V類 先端・脚部・側面欠損
239	268	打製石鎌	A	VI	チャート	(1.8)	2.3	0.5	(2.4)	V類 先端部欠損
240	250	打製石鎌	D	VI	チャート	2.6	(1.8)	0.35	(1.4)	V類 脚部・側面欠損
241	264	打製石鎌	D	VI	チャート	2.5	(1.6)	0.4	(1.4)	V類 脚部欠損
242	239	打製石鎌	D	V	チャート	2.15	(1.85)	0.35	(1.0)	V類 脚部欠損
243	229	打製石鎌	D	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.2)	1.6	0.45	(0.8)	V類 先端部欠損
244	247	打製石鎌	C	VI	黒曜石(姫島)	(1.4)	(1.4)	0.3	(0.4)	V類 先端・脚部欠損
245	266	打製石鎌	C	VI	黒曜石(姫島)	(1.05)	(1.45)	0.35	(0.5)	V類 先端・脚部欠損
246	263	打製石鎌	C	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.2	0.15	0.3	V類
247	237	打製石鎌	C	VI	安山岩	(1.6)	1.8	0.3	(0.8)	V類 先端部欠損
248	33	打製石鎌	C	VI	頁岩	1.7	1.5	0.3	0.8	V類
249	36	打製石鎌	C	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.35)	(2.0)	0.45	(1.6)	V類 先端・脚部欠損
250	278	打製石鎌	D	VI	チャート	2.75	(1.5)	0.3	(1.0)	V類 脚部欠損
251	245	打製石鎌	D	VI	チャート	2.2	2.0	0.45	1.4	V類
252	231	打製石鎌	D	VI	チャート	1.75	1.3	0.45	0.8	V類
253	232	打製石鎌	C	VI	チャート	1.85	(2.0)	0.35	(1.0)	V類 脚部欠損
254	16	打製石鎌	C	V	安山岩	(3.9)	2.8	0.5	(3.1)	V類 先端部欠損
255	265	打製石鎌	A	VI	頁岩	(1.8)	1.15	0.25	(0.5)	V類 先端部欠損

() の値は残存値を示す

報告書 No	実測 No	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
256	243	打製石鏟	D	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	1.1	0.3	0.4	VII類
257	35	打製石鏟	C	VI	黒曜石(姫鳥)	(1.4)	1.3	0.25	(0.3)	VII類 先端部欠損
258	274	打製石鏟	D	VI	黒曜石(姫鳥)	(1.3)	(1.3)	0.35	(0.4)	VII類 脚部欠損
259	270	打製石鏟	D	VI	黒曜石(姫鳥)	(1.05)	(1.4)	0.2	(0.3)	VII類 先端・脚部欠損
260	261	打製石鏟	C	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.9)	(1.2)	0.25	(0.4)	VII類 先端・脚部欠損
261	240	打製石鏟	C	VI	安山岩	(1.55)	1.6	0.6	(0.8)	VII類 先端部欠損
262	256	打製石鏟	C	VI	安山岩	1.5	(1.15)	0.3	(0.4)	VII類 脚部・側面欠損
263	25	打製石鏟	A	V	サヌカイト	2.65	1.95	0.5	1.5	VII類
264	238	打製石鏟	C	VI	玉髓	1.85	(1.15)	0.25	(0.4)	VII類 脚部欠損
265	29	打製石鏟	D	VI	チャート	2.2	1.45	0.55	1.0	VII類
266	32	打製石鏟	D	VI	安山岩	1.9	1.4	0.45	0.9	VII類
267	285	打製石鏟	C	V	黒曜石(姫鳥)	(1.3)	(1.25)	0.3	(0.4)	VII類 先端・脚部欠損
268	259	打製石鏟	C	V	黒曜石(姫鳥)	1.95	(1.45)	0.3	(0.6)	VII類 脚部欠損
269	296	打製石鏟未製品	D	V	チャート	2.8	2.3	1.0	5.1	
270	294	打製石鏟未製品	D	V	チャート	2.75	1.95	0.7	3.3	
271	301	打製石鏟未製品	D	VI	チャート	2.8	2.4	0.65	3.6	
272	292	打製石鏟未製品	D	VI	チャート	1.95	2.4	0.8	3.2	
273	299	打製石鏟未製品	D	VI	チャート	3.35	2.65	1.25	9.3	
274	298	打製石鏟未製品	D	VI	頁岩	3.45	4.15	0.8	8.7	
275	295	打製石鏟未製品	C	VI	黒曜石(姫鳥)	2.35	1.7	0.55	2.1	
276	297	打製石鏟未製品	D	V	安山岩	2.7	2.05	0.45	2.4	
277	302	打製石鏟未製品	D	VI	ホルンフェルス	3.5	2.8	0.6	6.6	
278	300	打製石鏟未製品	D	VI	ホルンフェルス	3.9	3.1	0.65	7.0	風化あり
279	341	尖頭状石器	D	VI	ホルンフェルス	5.3	3.2	1.3	17.4	
280	289	石錐	D	VI	チャート	2.4	1.85	0.65	2.6	
281	291	石錐			黒曜石	1.8	1.45	0.7	1.2	
282	290	石錐	C	V	黒曜石(姫鳥)	1.25	(1.25)	0.35	(0.3)	側面欠損
283	288	石錐	D	VI	砂岩	3.45	(2.2)	0.65	(3.6)	側面欠損
284	323	石錐	D	V	ホルンフェルス	3.1	5.3	0.95	10.6	擦痕あり
285	317	スクレイパー	C	VI	頁岩	4.25	3.25	1.5	15.3	
286	319	スクレイパー	D	V	砂岩	3.9	3.15	0.9	11.1	
287	320	スクレイパー	C	VI	砂岩	3.9	3.7	1.1	15.0	
288	321	スクレイパー	D	VI	ホルンフェルス	5.15	5.3	1.9	48.1	
289	318	スクレイパー	D	VI	ホルンフェルス	4.0	2.75	1.2	9.6	
290	322	火大加工ある剥片	D	VI	安山岩	6.55	5.95	2.2	87.2	
291	314	石核	D	VI	砂岩	4.65	9.55	7.65	369.0	
292	315	石核	D	VI	頁岩	4.3	6.4	2.5	76.5	
293	316	石核	B	VI	ホルンフェルス	4.8	8.1	2.25	69.2	
294	313	石核	D	VI	砂岩	3.2	9.65	6.05	210.0	
295	43	石錐	D	VI	砂岩	9.7	7.15	2.35	223.0	
296	312	石錐	D	VI	砂岩	8.85	6.75	2.2	185.0	
297	311	石錐	C	VI	砂岩	8.25	6.3	2.25	146.8	被熱
298	11	石斧	D	VI	ホルンフェルス	15.6	9.5	4.3	790.3	
299	12	石斧	D	VI	砂岩	12.4	5.95	2.8	277.1	
300	24	石斧	D	VI	尾鈴山酸性岩	16.55	9.15	4.25	710.6	
301	23	石斧	D	VI	堆積岩	9.55	5.0	2.05	141.7	
302	303	敲石	D	VI	砂岩	5.9	3.95	2.85	91.7	
303	304	敲石	D	VI	砂岩	7.35	6.15	3.05	192.9	
304	41	敲石	D	VI	砂岩	8.6	8.4	4.1	343.0	
305	306	敲石	B	VI	砂岩	7.5	6.25	3.85	223.0	
306	310	磨石	D	VI	砂岩	7.6	7.7	3.6	326.0	
307	305	磨石	D	V	砂岩	10.25	8.5	4.4	545.0	
308	309	磨石	C	VI	砂岩	8.25	8.15	3.45	324.0	
309	308	磨石	D	VI	砂岩	10.55	6.3	4.7	476.0	
310	42	磨石	D	VI	尾鈴山酸性岩	10.45	9.05	4.9	689.0	
311	307	磨石	D	VI	尾鈴山酸性岩	8.9	6.15	4.9	350.0	欠損

() の値は残存値を示す



写真図版21 繩文時代早期遺物包含層出土石器①



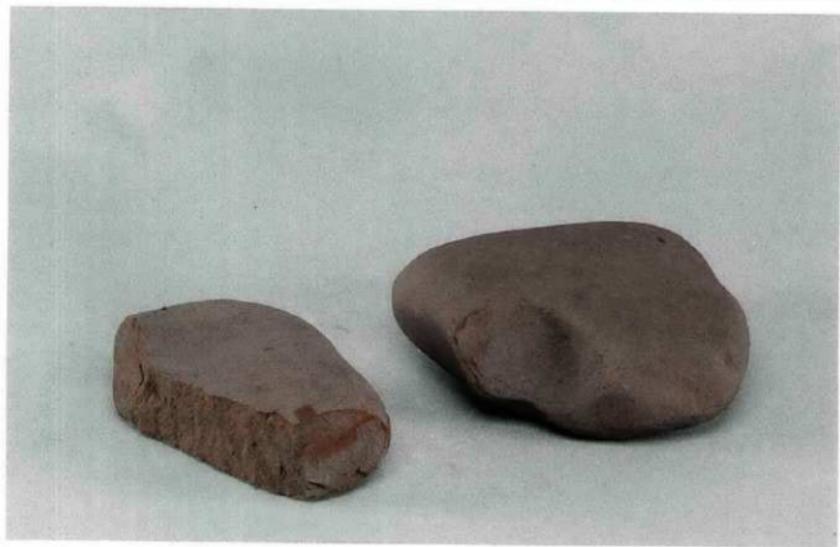
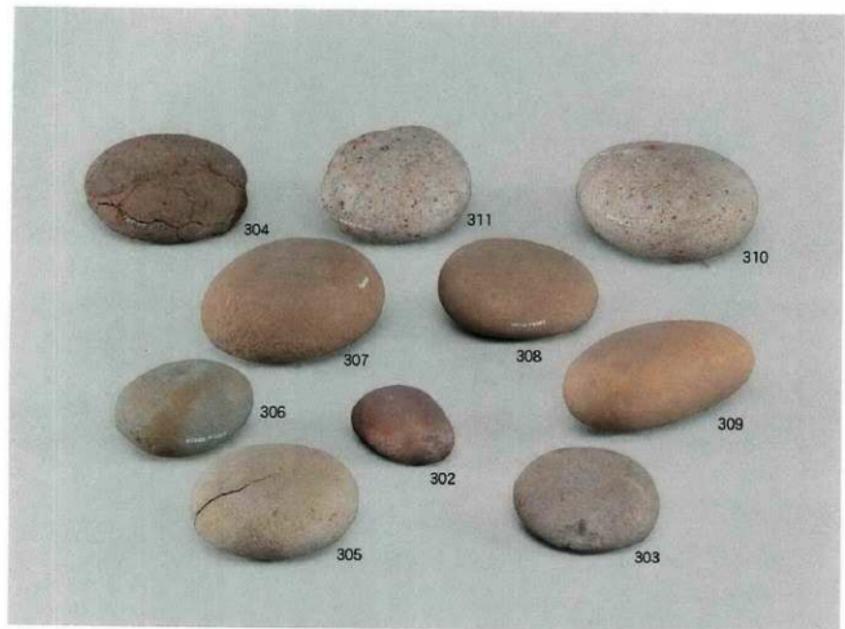
写真図版22 調文時代早期遺物包含層出土石器②



写真図版23 繩文時代早期遺物包含層出土石器③



写真図版24 編文時代早期遺物包含層出土石器④



写真図版25 桶文時代早期遺物包含層出土石器⑤

第Ⅲ章 その他の調査について

今回の調査では、アカホヤ火山灰層上面における遺構検出と並行して、アカホヤ火山灰層がすでに削平されている範囲での縄文時代前期以降の遺構確認作業を実施した。結果、アカホヤ火山灰層残存範囲ではピット等が数個検出されたのみであったが、削平範囲においては土坑2基、溝状遺構1条、道路状遺構1条が検出された。

SC-1

霧島・小林軽石層が露出していた調査区の南端で検出された。幅約1m、長さは約30m（東端は調査区外へとまだ続いている）、検出面からの深さは約0.2mであった。断面形状や埋土、また近隣遺跡で確認された同様の事例からみて、現代まで利用されていた畑の境界溝だと推測される。

SC-2

4層上面がすでに露出している範囲で検出された（検出面は4層上面）。平面プランは直径約1.8mの円形で、検出面からの深さは約0.9mであった。遺構内からは、砂岩製磨石や剥片、又、縄文土器（縄文時代早期のものや後晩期のもの）や弥生土器などが出土したが、遺構の用途や使用時期を決定づけるような遺物は確認出来なかつた。埋土中から採取された炭化物で放射性炭素年代測定分析を実施し、使用時期を推定するためのデータ〈 3290 ± 40 年BP〉が一応得られているものの、遺構の時期や性格を断定するには至っていない。

SC-3

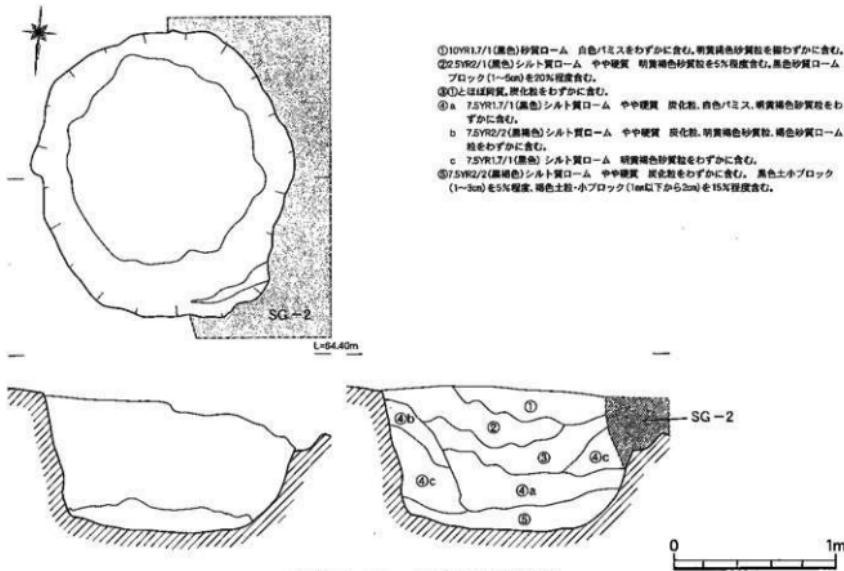
SC-1同様4層上面がすでに露出している範囲で検出された（検出面は4層上面）。平面プランは直径約1.5mの円形で、検出面からの深さは約1.1mであった。遺構内からは、砂岩製石核や剥片、縄文土器（縄文時代早期のものや後晩期のもの）や弥生土器などが出土したが、遺構の用途や使用時期を決定づけるようなものは確認出来なかつた。

SC-4

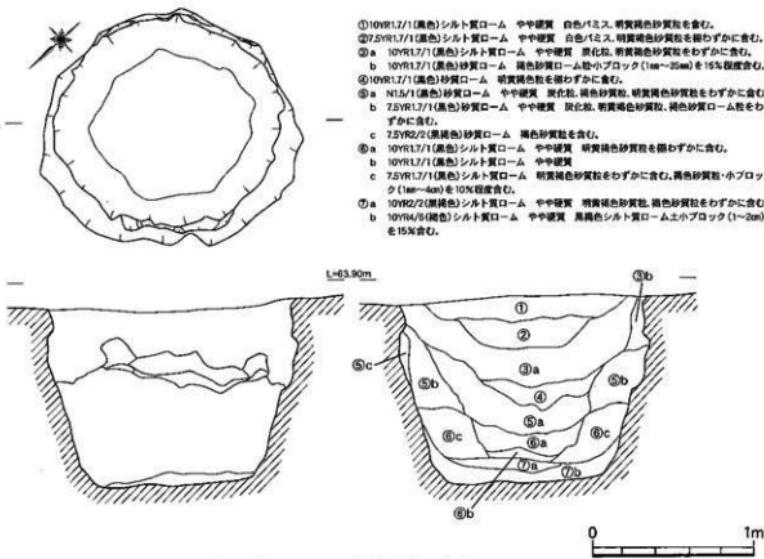
4層から霧島・小林軽石層までが露出していた調査区の南端で検出された。表土を剥ぎ取る際に、遺構の存在に即座に気付かなかつたために、遺構の一部を破壊する状態で検出してしまつた。この遺構は、台地下の集落へと下る崖面向かい南北に構築されていて、先述のSE-1とはちょうど直交するように切り合つていていた。遺構は北に向かうほど次第に浅くなり、南端から約11mのところで無くなつているが、これは現代耕作による削平の影響を受けているからであり、本来はもう少し台地上へと続いていたものと推測される。

道路状遺構の幅は最大で約4.6m、深さは最深部（崖側）で1.9m、底部幅は0.2~0.3mであった。断面形状はおおむねV字状で、底部では直径0.2~0.5m・深さ0.1mの円形の窪みが検出された。また、その円形の窪み付近では鉄分による赤化範囲が確認されており、これは水の流れの影響によるものだと考えられる。

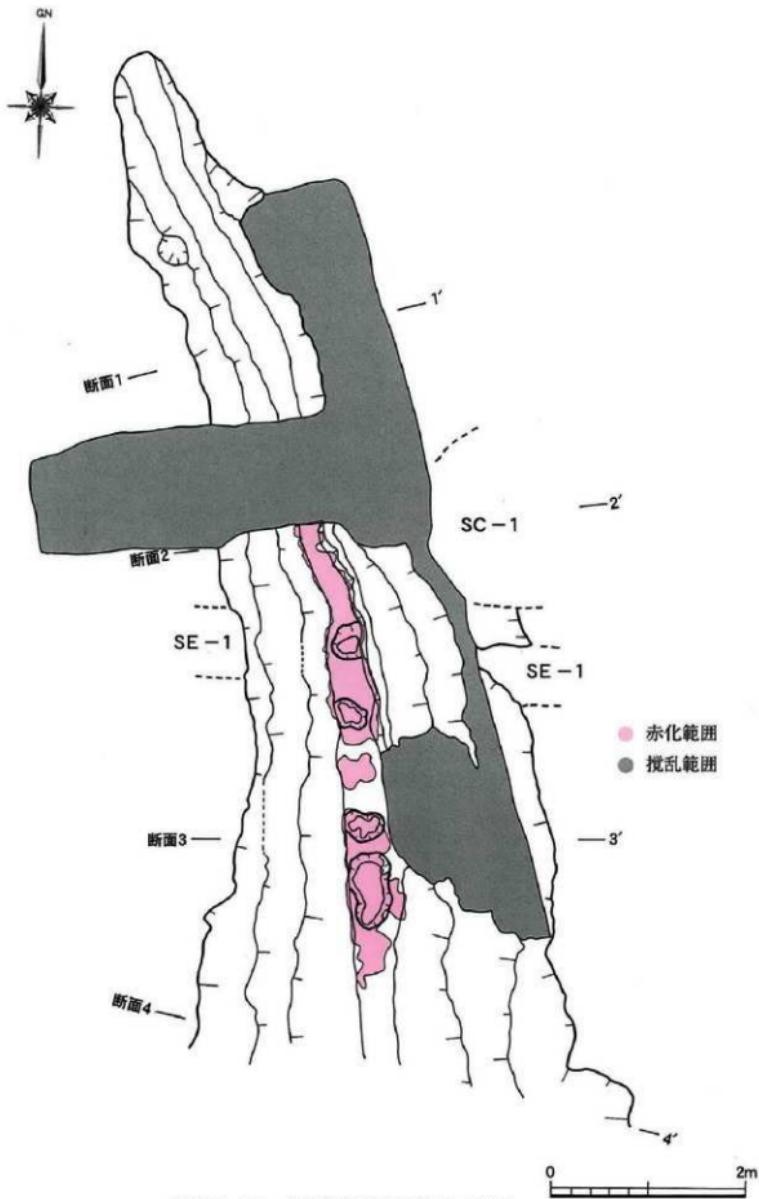
遺構の性格については、立地及びその形状からみて、台地への昇り降りの際に使用されていた道路であり、今回検出された範囲は、台地下の集落からみて台地への坂道をのぼりきったところにあたる。構築された時期については、埋土中より桜島文明軽石が確認されていることから、中世半ば頃にはすでに作られていたものと考えられるが、共伴遺物等が無いためこれ以上の検証は今のところ不可能である。尚、埋土中より採取された炭化物で放射性炭素年代測定を実施したところ、使用時期（ 3300 ± 40 年BP）を推定するためのデータが一応得られたが、予想される使用時期とかけ離れており、また、隣接するSC-1のデータと近い値であることから、今回は本遺構の使用時期決定の根拠としては使用しなかつた。



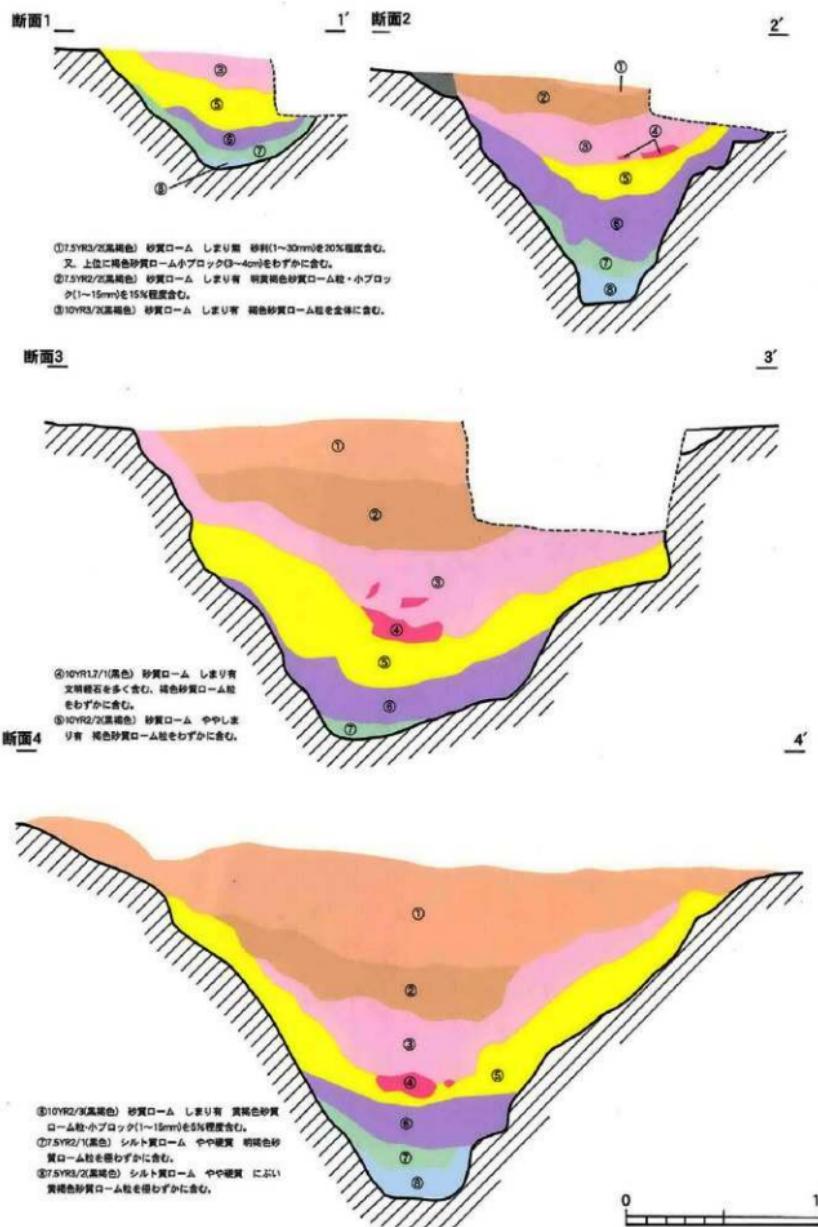
第40図 SC-1 実測図 (S=1/30)



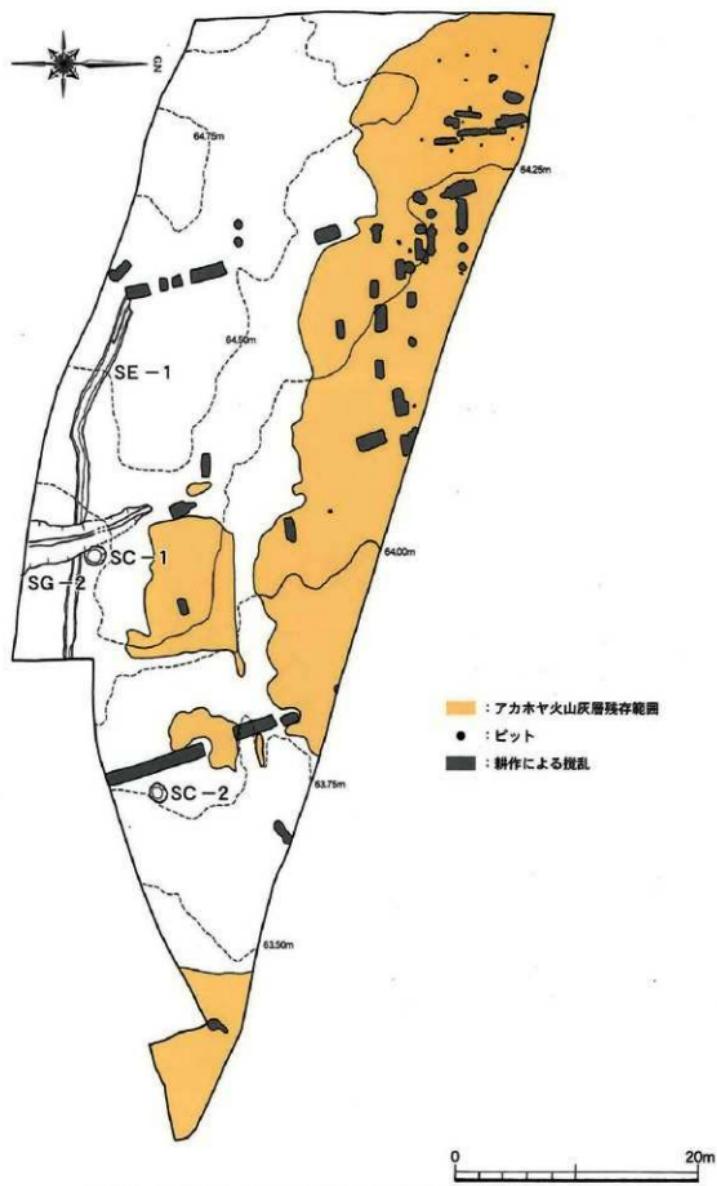
第41図 SC-2 実測図 (S=1/30)



第42図 SG-2 実測図【平面図】(S=1/50)



第43図 SG-2 実測図【土層断面図】(S=1/25)



第44図 遺構配図【縄文時代早期以外】(S=1/400)



SE-1 (西から)



SG-2①《断面確認》(北から)



SG-2②《断面確認》(北から)



SG-2③ 《床面》(南から)



SG-2④ 《床面アップ》(北から)



SG-2⑤ (南から)

写真図版27 SG-2



SG-2⑥ (北西から)



SC-1① 《埋土》 (北から)



SC-1② (北から)